且つ露國の救主となす所の式にして、之を行ふ時皇帝は寶玉の戸を排して別室に入られけるが、之より前眺きて玉音朗に且つ眞摯に左の祈禱の言を陳べられし時は、鐘聲休み、砲聲斷え、滿場閑として靜肅を極めたり。

わが祖先の君なる神、衆王の王たる神、君の語は萬物を造り、君の智は人を生じ、之をして君の世界を直く行き正しく治めしめ玉ふ。君は予を撰びて「ザー」となし、君の民の司直となし玉へり。予は予に期し玉ふ所の神秘なる天意を識り、謹て神靈の前に其惠を謝し奉る。願はくは予に命じ玉へる務に副はしめ玉へ。此職に就て敎へ導き玉へ。君の智を天より降し玉ひて、如何にせば照覽に副ひ、如何にせば神命の當を得べきかを知らしめ玉へ。予の心をして君の託し玉へる人民の利益を全うし、君の光輝を布くに傾けしめ玉へ。然らば神裁の日に於て疚しき所なく、臣僕の務に就て復命をなし奉らん。これ偏に曾つて吾人の爲めに十字架に上りたる神子の慈愛に由る所にして、神子は未來永劫君なる神と共に、聖靈と共に、聖母と共に榮光を有し玉ふなり。

皇帝は灌油を終り再び出現せし時は最も感激の狀あり。涙は頰上より鬚邊に流

れたを見る。已にして體を屈して皇后に接吻せしが、デヴィス氏は云へり。帝が神聖の神聖とも稱すべき處に立たれたる暫時の間に於て、幽冥の秘に接したるが爲めか、殆ど夢中の人の如くなりしと。

傷むべきかな。感激に感激を重ねたる此日の後に突如として悲慘の事柄こそ起りたり。初め皇帝と皇后とは小民等に恩意の在る所を知らしむる爲め、五十萬人を限り恩賜の品を頒たれんとて有司に命じ練兵場に假屋を建築せしめ、此處にて下賜を行ふべき都合にて、其品は人毎に一個の小籠なりしが、中には麵包一塊、ミートパイ、スウィートパイ各一片糖果一包及び皇帝の徽章を附したる褐色の杯を收めたり。然るに不幸にも群集の人浪は雜沓を制せしが爲めに設けたる柵を打倒したるより、恩賜品を分配すべき役人は其勢に辟易して群集の中に逃入り、群集はわれ勝ちに取り去らんとせしかば、互に押倒し踏み倒し、爲めに數百人の死者と數千人の負傷者とを出せしは豈に遺憾ならずや。

抑、此大禮は百事宜しきを得て人心を感化すること少からざりしに、惜いかな斯くの如き酸鼻の光景を以て終を告げたり。然れども大禮の事を記述せし人々が

此慘況を補錄せざりしが如き、折角の盛典を汚すに忍びざりしのみ。

大禮の費用は二千萬弗の巨額に達したりと云ふ。然れども其外來の國賓と遠邇より來會せし露民億萬の代表者に及ぶべき結果を考ふるときは、決して濫費と謂ふべからず。

一八九六年八月皇帝と皇后とは外遊の途に上り、先づダームスタットに至つて親姻を訪ひ、尋てヴィクトリア女帝と共に數日を過されたり。蓋し遊幸中に於て最も重要なりしを佛國の訪問となす。佛人は狂奔して駕を迎へたるが、其詳細は大統領フォールの時期に繫る記事中に於て已に叙べたる所なり。其後フォールは答禮の爲め露帝を訪問に及び、「同盟」と云へる不思議の語は此時を以て公表せられたり。之より未だ幾何ならず露帝の健康に關する風說は歐洲をして一種の危惧を抱かしめたり。これ蓋し帝が過勞の結果に外ならず。

帝の地位に附帶せる一切の責務を全うすべき事は、自覺心ある人の實際不可能なる所にして、唯身力を消竭して夭折するに止まるのみ。乃父は實に斯くの如くにして斃れたり。凡そ天稟により何程事に任へたるの力量、事をなすの意

思を具ふる者と雖、露西亞の如き國家の全政務を一身に負ふに至つては到底能くすべからず。

露帝は次第に其責任を分つの必要を悟りたるが如し。其政躰は君主獨裁なりと雖これ只名義のみ。帝の意見は往々國土の舊慣の爲めに妨げらるゝのみならず、宰相は政治上の經驗を挾みて反對をなすとあり。之に加ふるに輿論の掣肘あり。此輿論なる者は新聞記者の鼓舞する所にして、寧ろ僻論と謂ふを可とす。露人はクリミア戰爭の爲めに英國より受けし痛痍を容易に忘るゝ能はざりしが、更に一八七七年より翌年に亙れる露土戰爭に武勇、生命、金穀を以て得たる利益をば伯林條約に據り英國と獨逸との爲めに殆ど全部を奪はれたる恨も決して之に讓らず。然れども英國は公正を愛す。余は謂ふ英國にして當時を回想せば未だ必ず心に快しとせざるなり。若し英國のなせし所果して非なりしか。後ビーコンスフィールド卿の政術交術との虛喝に因つて苦味を喫したるは今日世の認むる所たるに似たり。

第二章　露國の鐵道及び水路

ニコラス帝が東遊の歸路西比利亞を歷たる結果は、之をして深く心を西比利亞鐵道に傾けしめ、殺伐の手段を用ひず、穩靜なる進歩に因つて擴張を謀るの政畧は茲に胚胎したる者にして、帝の御宇中最も特色をなせり。而してコンスタンティノープルを獲るが如き、地中海を制するが如き、其父祖の全力を用ひたる所なりしも帝は之を視ること甚だ輕く、其現に志す所は太平洋、北氷洋、及び波斯灣等に於て海軍根據地を得、軍港の得、出入の門戸を得、鐵道若くは河川の便に因つてこれと連絡を通ずるに在り、果して然らば利源開くべく、貿易盛なるべく、又以てコンスタンティノープルを得るの遲緩なるに失望せる人民を慰むるに足るべし。吾人は固より其延引を望むと雖、苟も此問題解決せらるゝに至るまで歐洲の外交の局は宛も茨を以て刺さるゝが如き想をなすなるべし。

西比利鐵道完成に及ばゞ地球上最長の線路なるべし。其ゲージは露國の地線と同じく五フートの廣さなるが故に、之に應じて車幅を大ならしむべく、車身を高かしむべく、又以て空氣の流通を便にすべく、其上等客車の愉快にして華奢なる初めて西比利亞に遊びたる旅客を驚かせり。西比利亞の地たる河川湖沼に富むが故に一路の橋梁頗る多く、イルティッシ河に架したる者の如きは四哩の長さに及び、鐵材を以て構成せし者なるが、橋脚の最も堅牢を極めたる所以は氷壓に堪へしめんが爲めなり。

露國の鐵道は一として官設に出てざるはなく、西比利鐵道に至つても亦然り。夫れ已に株主の如き者なく、從つて商議を要するの權利者なきを以て、軍事通商移住の上より此大計畫を有効ならしむる爲めには費用を惜しまずして斷行するを得たり。見よ鐵道は方に新西比利亞を造るの際なり。吾人が學童なりし時の西比利亞は不毛の荒野、氷鎖の空原にして文明の境を距ること遠く、此處に住せし者はエスキモーに屬する蠻民の僅々たる部落と、四圍の境遇に因り殘酷性に化したる官吏並に天涯萬里脫逃するを得ざる傷ましき國事犯罪人とに過ぎざりし

なり。

余は「十九世紀に於ける露西亞及び土耳古」に於て、ケンナン氏が烏拉山を過ぎて且つ驚き且つ樂しみたる西比利亞草花の如何に美なるやを鈔錄せしが、下に記する所は氏の感想なり。

初夏の野草の美麗なることは從來屢聞き及びたる所なれども、餘りに見事にして到底名狀すべからざる程なり。雪融けてより僅か數日を過ぎたる計なるに、花は非常なる香氣を發し居れり。眞先に開けるは百合にて、小さなる濃紅の花は叢を成し見渡す限り擴がれる樣は血の池に彷彿たり。其次に開けるはこれ亦百合の一種にてバルブと名づくる黄色の花なり。夏の中頃に至れば琉璃草は青々として野原一面を染め變へ、天と其色を爭はんとす。秋に入れば漿果の時期となり、就中黄イチゴ及びモルシュカの二種最も盛なるが、後者は黄イチゴに似て葡萄の上に生ず。熊は此二種の漿果を好むこと甚しと云ふ。

然るに此美麗なる野草は毎年數月の間寒帶の冬期に耐えざるべからず。浦港の如きニース同緯度に在り、氷に鎖さるゝ處なるが、寒暖計が零度以下に降れる亙

寒の季節は數週の久しきに及ぶ。

中世紀に當り成吉汗が歐亞兩洲に跨れる帝國を有せしはなほ今日の露帝の如くなりしと雖、異る所は其亞細亞帝國の中央亞細亞に在りし事なり。迅速に之を得たる事なり。兵力に因つて之を取りたる事なり。此時に當り支那及び東方より歐洲への通商路は、中央亞細亞を經過し其後も長く然りしなり。蒙古帝國の權勢衰ふるや國内大に亂れ、封建割據の小酋長等四出して行旅を劫せし處、六百年を經たる今日通商の公道は復び開通に及び、東方の物産は西比利亞鐵道若くは裏海鐵道に由つて歐洲に注入するを得るに至れり。西比利亞の初めて露西亞に知られしは一小民の精力と雄圖の致す所にして、歴史にヤルマックと稱する人物これなり。彼はもとヴォルガ河畔に住し、或は勞作をなし或は舟子を業とせしが、一變して河賊を事とせり。

惡徒の一群は彼を要して法網を脱せしめ之を首領に戴きしが、彼は此一群を名づけて「コサック」と曰へり。已にしてモスコヴィーの君主と反目せる一貴族の家に投じ、暫らく烏拉山を離るゝと遠からざる國疆に身を寄せし處、此貴族はヤルマック

の一行の累を免れんと欲し、ジニー・ノヴゴロッドの商人が深く東北の地に入り、土人の毛皮と物産を貿易して利を得たる例を引いて之に倣ふべき事を勸めしに、一行は盡くこれに從へり。已にしてヤルマックは露君と好を通ずるの得策なるを思ひ、厚く黑貂の皮を纏ひたる使を遣はし貴重なる毛皮を貢せり。露君はイヴァン・ゼテリブルと稱せられたる人にして、歐洲にては露西亞の名をすらも知らざりし時代なり。これを一五八一年とす。イヴァンはヤルマックの志を嘉して舊罪を宥しこれより絕えず少許の援兵を送れり。ヤルマックは次第に奥地に進み入り、其路を東北に取りたるは最も毛皮を得るの希望に富みたるが爲めならずんばあらず。已にして韃靼の諸族と戰ひ其營を陷れ其都會を略せし處、中に勁敵たる一人の酋長あり。盲目なれども驍勇の名あり。ヤルマックは終に其地の首府たるサイバーを攻めて之を奔らせ、刼掠到らざる所なし。然るに一日ヤルマック僅少の從者と共に未見の地を探討するに當り、天忽ち暮れ雷雨烈しかりしかば、河岸の林中に睡臥し天明を待ちし處、讎敵は潛に彼等の間に忍入り一々之を斬り殺せしが、ヤルマック僅に身を以て免れたり。彼は其河に小艇を繫げる事を知りし故其處まで逃

走せしも、誤つて水中に墜ち武具の重量に牽かされ沈溺して死せり。

其後此武具は發見せられて現に魯國の博物館に存する事は已に述べたるが如し。

西比利亞が廣大の土地にして、其地形たる自然歐露の連續をなし、此處に住する者は膂力なく團結なき稀少の蠻民に過ぎざるを知る時は、コサックが烏拉を踰えたる以來露西亞の太平洋に向つて開展するの理は明白にして又勢の免れざる所、猶わが亞米利加人が之と反對の方向に進路を取りたるが如くなるを知らん。但し遭遇すべき所の困難は氣候なり。荒漠なり。僻遠なり。露國の祖導者が此困難を排したる剛毅と堅忍とは殊に著しく、何れの處の探險の歷史と比較するも毫も慙色なし。一五八一年カルマックの有名なる遠征に端を發し、サイバーに於ける韃靼王國の滅亡、トボルスクの創業以來、吾人は進運の甚だ迅速なるを見る。何ぞや、僅々半世紀有餘の短日月に於て全大陸を横斷して太平洋に達せしにあらずや。又十二年の後デシュノーはベーリング海を發見し、一六五一年に於てはイルクックを建設し、一六九七年に於てはアトラソフ七十人の

コサックと共にカムサッカを略し、一八〇七年にはコロムビアの北岸に殖民地を建てんとしてアラスカを占領し、一八一二年に於ては露國獵夫が桑港將來の位地より遠からざる處に一國の殖民を成せしを見る。

文明國が西比利亞に關して知る所のものは一括して之を舉ぐるもなほ斯くの如き寡少なる事實に過ぎず。其他は唯此地に放たれたる國事犯罪人の苦境を述べたる傳說あるのみ。第十九世紀に入りしより二十年の後、アレキサンダーの世ミュラヴィエフは黑龍江を以て露國の一海口となすべき意思を抱きし處、大宰相ネセルロードは異論を唱へて曰く、これ遠く淸國と戰端を開くの恐ありと。然れどもミュラヴィエフは堅く執つて動かず、功名の士之を助けて漸く天然上政治上の妨碍を排し遂に其志を達したり。黑龍江は初め東方に流れ轉じて東南に向ひ、支那領滿洲の北及び東北の界を成す。蓋し滿洲は現淸朝の故國なり。江流は此處より東北に回り、露領滿洲即ち黑龍江州を經てタータリー灣一名サガレン灣に注ぐ。其衆河中最も大なるアルガンは支那領滿洲と露領トランスバイカリアとを分つ所の者なり。露國は滿洲の東に當り沿海一帶の地を得て此處に浦港を設けたるが、西比利亞鐵道最初の計畫は浦港を以て東方の終點となすに在り。これ曩にニコラスが皇太子たりし時一八九一年を以て浦港に大鐵道の開通式を親行せし所以なり。然るに一八八七年露國は遼東半島の南端に於て旅順を租借するや、其位地たる之を稍〻北方に偏せる浦港に比して大鐵道の終點に適することを發見せり。

支那は日本との戰爭に就き露國が干涉を加へたる報酬として、大鐵道の滿洲を經過することを許諾せり。

滿洲の國たる地味肥沃にして鑛物に富み、之に住する者は勤勉の農民なり。かの韃靼族は實に滿洲より起り、層瀾疊浪の勢を以て支那に侵入し戰勝に次ぐに戰勝を以てし、蒙古帝國の滅亡するや第十七世紀頃支那を征服し、最初には山間の人民を平げ尋て平原に及び、終に全帝國を統べて現滿洲王統を創立せり。

一八四六年露國の汽船は初めて黑龍江口に入れり。これより前一八四三年既に汽船のオビ河を航行せし事あり。但し冬期に於ては北氷洋に達するを得ざりしのみ。又一八六三年に於てはイェニサイ河に汽船の通行を得たり。

蓋し露國の如く河川航通の盛なるは世界中其比を見ざる所にして、露人の河川に重きを置くは遙にわが合衆國民の上に在り。近來算する所に據れば露國の河川に用ふる汽船の噸數は世界各國の總計より多きこと三分の一に居れり。

西比利亞人は北氷洋の夏期に於て通航を得るとを主張せしが、ミュラヴィエフの海事參謀たるサイドルフは其知友なるノルデンスコルフに向つて、北氷洋と河川の水利に因つて西比利亞と交通の便を開くときは通商の一大市場を開くに足ることを鼓吹し、ノルデンスコルフは一八七八年ヴェガー號に乘じて出發せし處、ベーリング海峽に到り氷の爲めに妨げられて進むを得ざりしが、これ全くヴェガー號が探險の中途に在つて踟躕したるに由る。

一八五六年クリミア戰爭の時英佛の軍艦は浦港の要塞を攻擊せんと雖、徒に損害を被りしのみにて目的を達せざりき。

皇太子が已に浦港に於て西比利亞大鐵道の開通式を擧げ、ヤルマック及びその率ゐたる「コサック」がイヴァン・ゼ・テリブルの日に打開せし門戸なる西比利亞を通過せしは此地に取つて一大事件と謂ふべく、此旅行が近世史上最も祝すべき事なる

は將來に至りて明かならん。而して西比利亞人の如きは其必然の結果を認めざる者なし。

露國はクリミア戰爭に因り南下の雄圖を阻せられしかば、ニコラス一世の崩後其眼を轉じて遙に合衆國より大なる土地の地力と利用とに向ひ、冬期沍寒なる土地の開墾に向ひ、豐富なる鑛物に向ひ、近代の交通機關を利用して物產を不凍港に運搬する事に向へり。

西比利亞鐵道は西比利亞の西部に於て尙未だ十分に運用せられず、其イルクスクに至りて止まれるは全くバイカル湖を横斷し又は之を迂回するの困難なるに由れり。而してイルクスクに至る間と雖、現在客車の發着は甚だ不規則なるは時間表を觀るも尙明白にして往々一週間以上を要するに至る。然れども工作車に至つては絶えず運轉し、土工は全力を以て速成に從事中なり。

各列車及び線路は完全なる軍隊を成したる護衛兵を以て之を守衛し、通路の「ヴァルスト」に分つて區劃す。「ヴァルスト」は一哩の三分の一に當る。而して「ヴァルスト」毎に清楚なる一棟の小舍あり。これ護衛兵及び其家族の住居に羅り、彼等は

晝となく、夜となく己れの分擔せる路區を巡視せざるべからず。故に列車として此斥候の視線を脱することなし。

此制度は西部西比利亞に適用せられ、バイカル湖に遠からざるイルクスクに至つて止む。此處より以西は今尚工事中に在り。而して北は浦港に至り南は滿洲を經て旅順に至る通路の工事は最も困難を極め、殊に露國の技士には困難を極む。蓋し彼等隧道を設くることを不可とするが故なり。顧ふに數年前快速の列車を通ずるを得たるならんも、當時建設者の夢想せし所は浦港よりモスコーに至るまで十五日、倫敦に至るまで十七日、紐育に至るまで二十二日の打算なりしなり。又此鐵道の工費全額は三億「ルーブル」即ち一億八千萬弗の豫算にして、西比利亞より毎年收入の豫算は六百萬「ルーブル」政府の此地に支出する額は二千萬「ルーブル」なり。然れども皇帝は夙に西比利亞に重きを置きたるが故に費用の如きも毫も惜む所にあらず。

浦港より西方の工事を畢りし處は僅に四百八十六哩に過ぎず。一層東なる局部は工事困難なると工夫の缺乏とに因つて頗る沮害を受けたり。

一八九三年に於て政府はサガレンより罪人を移して工事に用ふることを決し、三千人の一隊を少數なる「コサック」の監督に屬せしめ、特に之が爲めに浦港の郊外に屯舍を設けたり。其初に當り賃銀多かりしと十分なる自由を有したる爲め、此計畫は效を奏したるも僅に六ヶ月に過ぐるや、浦港に於て犯罪續出し、夜行の如き甚だ危險を極めたりしかば、同地の住民は是等の劫賊盜兒が眼前に出沒するとを以て政府を咎め、物議喧しき際に當り、佛國の海軍士官が白晝市中重なる街路に於て盜難に遇ひたる上殺害せられしかば、市民は激昂して集會を開くに至り、政府も已むを得ず罪人サガレンに送還し、爾來工事は概ね兵士及び支那人朝鮮人をして之に當らしむる事となれり。

余は「露西亞及び土耳古」に於て西比利亞の罪囚は都て國事犯の徒刑なりと思へる世上の謬想を指摘せしが、新帝の即位以來(實は先帝の末年より)罪囚制度に大變化を致し、殊に流竄の方法に於て然るを見る。今や罪囚は種類により獄船に載せてオデッサに送り、而して露國の各地より彼等をオデッサに送致するには或は河運に因り、或は鐵道を用ひ男女船を異にせり。其他の種類はスイヅ運河を過ぎ印

度洋を過ぎ太平洋に出て、浦港に於て上陸の後サガレンに移さるゝ規定なり。サガレンは日本の北方に横はる長島にして今や刑餘の殖民地たり。

國事犯の囚人に至つては普通サガレンに禁錮せらるゝ事なく、逆謀に關して有罪を受くるや銀鑛地に送らるゝなり。ブックウォター氏の言ふ所に據れば、氏は銀山に是等の囚徒を訪ひ自由に談話をなすの許可を得たるが、彼等は其食料及び待遇に就き少しも不平を訴へざりしが、凡ゆる極惡大罪の輩と毎夜寢室を同うすることを憤慨せり。今帝の御宇に入つては何れの吏員も女囚に鞭笞を加ふる事は言ふに及ばず、毆打する事をも禁ぜられしが、前代の頃婦人を酷待したる事跡は歐米の新聞紙上に顯然たる所なり。

一八九六年と八年とに於て、ハーリー・ド・ウィンド並にブックウォルターの兩氏西比利亞に遊び、その監獄を視察し務めて惡意を排せしが、實際の國事犯の囚徒を虐ぐる事は目に觸れざりしと云ふ。

兩氏の觀察たる恐らくは瑣事に色を着けたる者ならん。余は其記述中より一二の談柄を抄出すべし。これ余が之を轉說するよりも反つて眞相を得べしと思ふ

が故なり。

露國の獄船ヤロスラヴ號がオデッサより浦港に至る途次長崎に寄航せし時、ウィント氏は船客として搭乘を許されたり。此船には囚徒は百人ありしも、オデッサより長崎に至る間に死亡せし者は僅か一人のみ。勿論熱帶を經過せる長途の航海なれば健康を害せしものに至つては少なからざりしなり。

囚徒上陸の地點と定まれる浦港に達するや、囚徒は百人づつ一團として牽引せられ、正式に獄長へ引渡されしが、鐵鎖は絶えず鳴り渡り、周圍は戲曲的なるに何人も殆ど悲哀となすを得ざるが如き奇異の光景を現せり。罪囚の中に憔悴せし者ありしも無論其多くは少年と老人なり。然るに大半は余の驚視せる四圍の光景に何等の感覺を作さゞりしが如く、特に彼等の監督主任の陸軍中尉イヴァノフが列を離れ彼等を一々對照書と引合せ、預りたる金錢を返付せし時之と談笑する者あり、戲るゝ者あり。彼等は總て大なる包を帶び茶鑵の如きは殆ど個々に携へざるなく、葉卷烟草の箱又は烟草の袋を所有せし者も亦少からず。……余は上層の甲板より此紛擾なる光景を諦視せし際イヴァノフに電

報を渡せし者あり。彼は急速に之を讀終るや其側に居りたる獄吏に授け、後暫時相談をなし一囚徒の名を呼びたる處、之に答へて進み出てたるは容貌敬すべき一老人にて、此時までは憂色を帶びて伴侶より隔たりたる處に居りし者なり。此時衆人は息を呑んで靜まり居りたるが、電報を高聲に讀み聞かすや老人は忽ち甲板の上に俯伏し、イヴァノフの膝を攀ぢて落涙に及びたり。これ此電報はセント・ピータースボルグより放免の命令なりし故なり。老人の感極つて泣きたるも亦怪しむに足らず。之を目擊せし者一として喜悅の色を現はさゞるなく、歡聲湧くが如くなりき。然るに守護兵は之を制止せざりしのみか反つて共に歡呼せしは亦人情の自然を觀るに足れり。艀舟の次第に動き始むるや老人は已に其包を投棄し終り無帽にて舷門に立ち其所有の金錢を同囚に投遣り、幾多の囚人之を受取りたるを見たり。「諸君左樣なら何卒幸福に」と叫べる聲に應じ、「歸られたれば幸福に」と云へる響は波の上を渡つて次第に微となりぬ。老人は感に打たれて涙の流をなし、イヴァノフに誘はれて小兒の如く歔欷しながら樂天地の方へ赴けり。

左に載する所は又米人ブックウォルター氏の著より抄出せし者なり。

余がトムスクに赴く途中汽車に夫婦の乘客あり。共に一見品位高く且つ都雅なる人なりしが、他の乘客と均しく何事も隨意なるべきに、其一擧一動は拘束を受くるが如く、殊に一人の官吏は絶えず其側を徘徊せり。數日を經て余は此夫婦が十年禁錮の刑に處せられてトムスクに赴く者なるを發見し、其罪狀を聞くに、其夫は從前セント・ピータースボルグの一大銀行に出納を掌りし處、銀行の大破綻に乘じ其資金を濫費せしとの嫌疑により審判を受け、二ヶ年の後有罪を宣告せられ今や西比利亞の配所に往かんとするなり。彼は配所に於て行動の自由を許さるゝと雖、一歩も其地域を出づるを得ず。地方長官は己れの意見に因り何時たりとも之をサガレンに移すの權あり。而して彼は如何なる營業にも從事する事を禁ぜられ、滿期の後と雖營業を許すと否とは政府の意見に在り。且つ新舊の帝都は言ふに及ばず、其他の大都會海港若くは國疆の邑里に入る自由を拘束せられたり。此銀行の職員中彼より重要の地位に在りし爲め一層重刑に罹りし者十五名あり。盡く西比利亞の各所に配流せられ、其刑

期は十八年なり。其中には大富豪及び社會に上流の地位を占めたる者亦少からず。

魯西亞に於ては金錢上の罪に對し嚴罰を加へたるが如し。ブックウォルター氏は旅館の主人が賭博臺に詐僞を用ひたる爲め十年間の徒刑に遇ひたるを見たり。無期徒刑の宣告を受けたる者は鎖繋八年、又二十年の宣告を受けたる者は四年、其他の比例皆これに準ず。而して獄中に於て犯則の者は更に更に刑罰を附加し、或る罪人の如きは日夜鎖繋の上一輪車を挽かせしめらる。

魯帝は西比利亞を配所となすとを廢止すべき計畫を立て遂に之を成就せり。されど數年以來露國の罪囚中優等に屬せし輩は西比利亞の僻陬に在りとは云へ、幾何か自由を享け新鮮の空氣を吸ひ、其他種々の利益を有したる事なれば、旅行の危險已に去りたる今日に於て之を露國の獄舍に換ふるを喜ぶべきや否や、これ疑問なり。唯露帝は西比利亞の繁盛を以て念とせり、而して曩に多數の罪囚が都邑に混入したる事が住民の怨嗟を招きしに臨み遂に此計畫を建てたるのみ。蓋し濠洲の殖民が盛大繁盛に赴きたる先例は露帝の見て倣りし所ならん。

西比利亞鐵道と裏海鐵道以外に於て露帝の計畫せる本支兩線の鐵道はなほ頗る多し。其一は西南西比利亞に在り。延長一千哩にしてわが合衆國の中央と西部との合積に均しき疆域を開くの目的に出づ。此地方は裏海の東に位し、ペークの油井より得る所の石油は貿易上殊に重視せらし、今日に於ても船舶の積換頻繁にして運輸の困難なるに拘はらず、石油穀物等の物產は水運の便に因つて中央亞細亞より黑海の諸港に輸送せられ、無數の汽船は常に西比利亞の大河を航行し、唯冬期に入れば北氷洋に注する河口に達する能はざるも、航路の間に於ける都府と漕運交通の便を資せり。

露國政府は裏海よりサマルカンドに達する軍用鐵道を有し、此鐵道には中央政府より特別なる許可を得るにあらざれば、何人と雖便乘するを得ず。之に用ふる技士其他の職員は盡く軍人なり。

ブックウォルター氏は沿道に夥しく米國の機械を使用するを見、又南北西比利亞共に米國の物產を要求することを反復せり。氏は軍用鐵道に乘りて旅行中一百戸の細民がタルキスタンの東端に移住するを見たるが、彼等の旅費は政府の供給

する所にして、其彼地に達するや成人は土地を授かり且つ戸毎に一百ルーブルを配賦せらるべき都合なりと。

途中メルヴの新都府あり。今や曾つてバルネビー大尉が冒險騎行の日に到着せし狀態とは大に異り、鐵道は此處よりして殆どヘラットに達せんとす。英人は露西亞の目的を印度に在りとして深く此鐵道を恐怖する事なるが、ヘラットの地たる古來の征略者が印度の門戸となす所なり。然れども其實露國は今日波斯との交誼に因り波斯灣上に海口を得んとするに外ならざるが如し。

一八九二年英國は波斯に金を貸し與へ、其報酬として波斯の灣上なるファル洲諸港の關稅を收むる事を條件とせり。尋で一八九九年波斯は又テーランの銀行より新に借入をなせしが、此私立銀行の背後に露國政府あるは猶北京の露清銀行に於けるが如し。斯くの如き露波二國の關係に加ふるに、アフガニスタンのアミヤが躍起運動を試み、英國より多く補助金を貪らんとしたる一事は英人をして益露國の企圖に就て疑懼の念を抱かしめたり。彼等は縱令露國現今の政略を以て內國の啓發に在りとするも、なほ其發展が他海口を得せしむるに至らんことを憂へざるを得ず。蓋し政治上の問題は姑らく之を措き、經濟上波斯の進步は偏に文明世界の喜ぶ所にして、現に布設中なる獨逸のバグダッド鐵道の如き最も重要なる關係を有する者と謂ふべし。若し二十世紀に至らば西部亞細亞に鋼鐵軌道の縱橫に貫通するを見るに至るべく、而して文明は必ず此線路に沿ふて發達せん。但し此線路は二千五百年以前ダライヤスが由つて以て大帝國を建てたる驛路に依傍せる者なり。

露國の計畫、政略及び其海口を得んとするの希望に關係あるを以て、茲に碎氷大汽船に就て一言すべし。右は一八九九年二月の製造に罹り屢實驗の結果非常の効力あることを證せしかば、露國の海軍々人は以爲らく、苟も此舟を用ひんか、バルティック、白海、北氷洋の諸港は終年交通を得るのみか、將來南北氷洋を探討して兩極を發見するも亦難からずと。今日に於て此種の舟はエルマック號一隻なりと雖、其他同型の碎氷船にして製造中に屬する者あり。エルマックは曾つて千秋の氷海を走ること二百餘哩に及び、其力量の强大なる如何なる層氷をも突過すべく、其結構の堅牢なる如何なる氷塊と擊觸するも內部に破損を生ぜず、普通の事變

に在りては水底に沈沒することなく、排水量一萬五千馬力を有す。

エルマックの意匠はもとわが米國の大湖に使用する碎氷船より着想せし者なるが、更に意匠を加へ進歩せし所あり。此船は船員と乘客を載するのみにして貨物を運送せず。其氷を擊破するや左右の舷側に拋擲して波浪の如き狀を成さしむ。この舟はサー・ウィリアム・アームスツロングの造船所に屬するニューガッス・ル・オン・タインに於て造られ、一八九九年二月進水を行ひ、エルマックと名づけられしが、右は「コサック」冒險者のヤルマックより轉訛せし語なり。其海上に浮びしより幾何ならずしてボスニア灣の冬氷を通過すべき使命を受けたるが、時宛も思慮を有する船長は敢へて危險を冒して進まざるべき季節に屬せり。此次の航行と其後北氷洋に試航せし時に方り、通過せし所の氷層は水上に隆起する事十八呎水底に達する九呎なりしと云ふ。

露國は世界各國中最も長き海岸線を有するも、其大部分は北氷洋に面し、船舶が北部諸港に達する事を得るは一歲の中僅に一ヶ月のみ。其餘は常に氷結を免れず。而して氷の厚さは八呎より十呎に及び、時として二十呎の高きに至る。

又通商上帝都の門戸たるバルティックの部分と雖、極寒の爲め毎年五ヶ月間は出入を得ず。寒氣はフィンランド灣及びバルティックの要處を一變し、海岸より二百里の間堅氷連亙寸碧を見ざる事あり。船舶が不幸にして結氷の際に會する時は小にして延着を免れず、大にして破壞の禍に遇ふ。(1)

(1) マックリュー雜誌(一九〇〇年四月)

第三章　平和會議　魯帝の皇弟

フィンランド

露帝が衷心より平和を冀へるは復た疑を容れず。苟も帝に咫尺せし者は何人も其深く露帝として責任を覺ゆる事に信服せざるなし。これ其少小の時より父帝が戰爭の怖るべきことを訓戒し、肺腑に徹底したるに由らずんばあらず。抑アレキサンダー三世の皇太子たるや、一八七七年の露土戰爭に際し一軍に將たりしが、當時凡そ軍旅の過ぐる所必ず殺戮刼掠の慘狀を現ずるを見て其怖るべきを覺り、文明諸國の戰、基督教民の爭と雖なほ且つ之を免れざるを嘆じたり。曾つて思慮の缺ける交際界の一婦人あり。ウェリントン公に向ひ、戰勝は如何に光榮ならんと謂へるに答へて曰く、さても夫人よ、余は戰敗を除くの外斯くの如き戰慄すべき者を知らずと。アレキサンダーの意も亦然りしならん。

夫れ歐洲諸國は魯帝を覇心ありとして鬼胎を懷けるなり。然るに平和會議が魯帝に由つて唱へられしかば、皆以爲らく、ニコラスは巧に獨帝の秘計を横奪したりと。蓋し獨帝にして其宿志の如く聖地を訪ふことあらんか、必ずヂェルサレムに立つて「地には平和あれ、人には善意あれ」と叫び以て世を欺くなるべしとは世人の揣摩せし所なればなり。

然れども露國の君主は、其意見補弼の臣と合するにあらざる限り何事をも行ふ能はず。アレキサンダーが正教以外の臣民に對して迫害の制を勵行せしも、内閣及び神聖議會の「プロキュラートル」が背後に在りて之を慫慂せしを以てなり。今ニコラス帝の平和會議に於ける亦之と同じく補弼左右の臣が之を贊同せしなり、鼓舞せしなり。然れども彼等の思ふ所は人類の福利にもあらず、歐洲の福利にもあらず、唯露國の利益これのみ。何となれば露國は平和を要す。歐洲列國との好誼を要す。而して之を要する所以は内國を發達し供せて不凍海に通ずべき門戸を得るに在り。若し此希望成就する日に至らば其後の形勢如何なるべき。露國は全歐の憂をなすべきか、將た列國が露國をして獨り統一の天命を全うするに任せ

しむるの條件を以て、依然平和を提唱すべきか。請ふ之を將來に徴せん。

平和會議は一八九九年の夏を以てヘーグに開かれしが、此時に方り委員を派遣したる諸國の中、一國はフィリッピンに於て戰を交へ、他の一國は又南阿に於て戰を交えたり。事實斯くの如くなりしかば會議の本意に於て甚だ得る所なく、僅に戰爭の慘害を減すべき方法を決議せしのみ。而して其案件は殊に赤十字の事業に關係せし者なり。然れども不羈自由の交戰者に對して効力の甚だ少きことは近日の事實に於て明かなる所なり。見よチカゴの移動十字院隊はボアの負傷兵を看護するが爲めに差遣せられたるにあらずや。然るに其トランズヴァールに到るや否や、紅章を破棄して愛耳蘭の愛國者と稱し、其戰場の通行券を有するを以て更にフォントニーの戰爭に加はらんとせしにあらずや。

當時會議に列したる伊太利のシグノル・ディー・ニグラの言に、世に三神人あり。曰く平和神人曰く耐忍神人、曰く慈惠神人。諸君先づ第二第三の兩神人と相識らざれば第一の神人に遇ふべき望なしと。

倫敦「スペクテートル」は佛國新聞紙に出てたる魯帝謁見の記事を敷衍して曰く、

魯帝の熱心なる弭兵主義は他人の爲めに異種の目的に利用せらるゝ事は之あらん。然れども露帝自身に在りては純の純なる者にして、其歐洲諸君主の中に於ける位地は尚「サルミスト」に云へると符節を合するが如し。余は平和の爲めに勤む。然れども余が平和に就て彼等に語る時彼等は自ら戰爭の準備をなす」。

露帝は平和の方法に關し自己の成案を有せしなり。然れども會議に上らざりしを以て觀れば提出せられざりしならん。

帝の意見は列國の紛議を決するに紳士間の爭鬪を理する方法を以てするに在り。即ち決鬪の恐ある時に雙方を抱持するが如き第三者に因つて之を調停せしむるに在り。

露帝は列國が平和會議に冷淡なるを見、會議が實際の結果を生ぜざるを見、世界に平和の熱心を普及するを得ざるを見るに及び、殆ど希望を極めたり。

時なるかな。帝は又骨肉の不幸に遇へり。之より前皇弟ジョージは假の皇嗣たる所より皇太子と稱せられしが、平素多病なるが爲め諸方に轉養せしのみならず、世界を周遊しアルジェリアに一冬を過せし事あり。終に醫士の勸告に因り空氣の清

淨なるが爲めコーカサスのアバステュマンに赴き、葡萄を以て蔽はれたる一軒の家に住せしが、其地たる壯大にして風景に富みたる處なり。

皇弟は童兒たりし時親族中最も溫良なる資質を有し、特に秀でたる所なかりしも人をして親愛せしむるの術に長じ、曾つて其兄弟と共に妹のゼニア公主と馬車を驅るべき約をなせしに拘はらず、遂に之を遺して去りけるが、父帝は皇女の泣涕するを見て其故を聞き知り、二皇子の歸るに及び之を責めて「他人は食言するを得るも露國の皇子たる者は斷じて然るべからず」と言はれしが、二皇子は長く此語を服膺せしと云ふ。

太公ジョージは世間に知らるゝを厭ひ未だ曾つて政治に與らざりき。

大公は甚だ痛むべき事情の下に薨ぜられたるが、其アバステューマンに在るや獨り自轉車に乘りて山中を遊行し、純潔なる空氣の力に因つて健康と强壯とを得るを樂となして好結果を期待せり。然るに或る山路に於て急病作り車上に堪へずして落下せし處、一村婦馳せ來つて介抱に及びたるも、幾何ならずして晏然として瞑目せり。

此婦人はアレキサンダー帝の御宇害迫を加へたる異教に屬する者なりしが、ニコラス帝は彼が愛弟の病を扶けたるを德として厚く賞與を施せしのみのみならず、此婦人の爲めに凡て人民の宗教に干涉する事を止めたり。

適露帝第三の皇女降誕あり。帝と皇后とは皇子ならん事を望み居られたる故深く失望せしが如し。是に於て皇太子の位は暫らくミケール大公に歸せしが、大后はアレキサンダー帝の第三男にして最も年少の皇子なり。ニコラス帝は是等の事情の爲めに頗る憂悶せられしを見て、左右の者は萬一讓位の心を生ぜんかと杞憂を抱き、之を引留むるが爲めに有力の拘制を加へたり。

「王冠を戴ける頭顱には不安を藏す」。而して平和を好める露帝の頭顱は更に不安と謂はざるを得ず。此時に起りたる「フィンランド」の事件は、帝を慰むべき者にあらずして益其憂を大にせり。

平和會議の終局と同時に露帝の發したる公文は、西歐諸國が帝の政略並に性質に就て理會せし所の者に異り、又從來帝を景仰し尊信せし者の諒解に苦みし所なり。

此文書は魯國歴代の皇帝が宣誓の上一百餘年來賦與したるフィンランドの憲法を侵害せし者なり。然れども此罪惡斯くの如き觀あり)は未だ熟するに至らざるが故に、若し其轍を改めんか、フィン人は更に故の如く彼等の太公即ち露帝に忠心を輸するならん。

フィン人はもとマグヤーと同人種に屬する亞細亞の一部族にして、其歐洲に移住せし後漸く北方に進み遂に北氷洋に達す。然れども今日の住民は往時基督教に化し文明を採りたる瑞典人の子孫多きに居り、政教兩面に於て二種の言語宛も其位地を同じうせり。

フィンランドは一八〇九年に至るまで瑞典の一部なりし處、ナポレオン戰爭の後歐洲諸國の版圖改定の擧あるや、更めて露國に屬する事となれり。然るにアレキサンダー一世はフィンランドに許すに其國民的生命を保つ事を以てし、露國と別つて一州となし、一七七二年瑞典が此國民に與へたる憲法を認めたる上重ねて之を宣布に及び、己れは其太公となり從來の法律と特權とを嚴守すべき約をなせしが、其後ニコラス一世アレキサンダー二世三世相繼いて之を誓へり。但しア

レキサンダー三世は時に彼等の自由を侵害せんとせしも亦甚しきに至らざりき。蓋し其原因は帝の露化狂と正教會長プロベードノセッフの指導に在り。ニコラス二世の位に即くや直ちに波蘭及びフィンランドの臣民に對し惠政を以て之に臨むべき由を明言せり。

フィンランド太公國の憲法に據れば、太公國の議會と帝國元老院とあり。議會は法律を制定す。但し露帝の批准を得るにあらざれば施行するを得ず。而して議會は斯くの如く立法の權を有するも、太公は緊急の場合に臨み元老院の贊同に由り行政命令なる者を發するを得、然れども此命令が憲法若くは法律の變更を馴致すべき者なる時は必ず議會に問はざるべからず。然らざれば永久の効力を生ぜざるなり。

フィンランドは此憲法の下に四帝の御宇九十年を通じて幸福を享け、從つて露國に對し何等の不平なく、クリミア戰爭の時の如き英佛の爲めに沿海を切掠せられしもなほ能く自國僅少の軍隊を送つてセントピータースボルグの守備に供せり。又憲法上重大の變更は、舊制に於て凡そ臣民たる者は總てルーテル教徒た

るべしとの條項ありしを删除せしに過ぎず。

アレキサンダー一世以來、代々の露帝は行政命令が暫時の外議會の立法權を凌ぐの効力なき事を是認し來れり。

一八九八年兩種の政府案議會に提出せられ、其一はフィン人に露人と同じく兵役の義務を課する者にして、其一はフィン軍の編成を定むる者なり。然るに二週間を經るも未だ議事に上らず、露帝は忽ち行政命令を發し憲法を無視して新法を立てしが、これに據ればフィンランド太公國は露西亞帝國の一部局となり、露帝は帝國全躰の利害に關する一切の法律に就き、唯一の審理者たるの權あり。蓋し此命令は勅撰委員の起草に係り、其中にはプロベードノゼッケあり。帝の大叔父委員長たり。フィン人は自ら進んで五千六百の自國軍隊を增して一萬二千となさん事を請へり。現役の期限を倍加せん事を請へり。自國の防衛に要せざる時に於て其軍隊を太公國以外に使用せられん事を請へり。然れども之と共に其國の丁壯を言語宗教俗習を異にせる露兵の隊伍に編入する事なく、必ず自國人の隊伍に編入せんことを求めて已まず。然るに行政命令によればフィンランドの服役者は進級

其他恩を命拜するに先だつて必ず露語の知識に關する證憑を提出せざるべからず。これ墺匈軍隊に於て徵集せる者に比すれば更に妄なる者と謂ふべし。而して墺匈の軍隊は種々なる國民より成立するは勿論なり。露政府とフィンランド人民との爭は殆ど一ヶ年前に始まりしが、未だ知らず究局の勝利は何れに歸すべき。露帝なるか抑亦人民なるか。

フィン人は總代を帝都に遣して陳情せり。屢連署の上哀訴請願せり。然れども何の得るあらず。是に於て數千の細民は合衆國に、加奈陀に移住を謀るに至り、彼等は絶好の海員にしてわが合衆國の船舶に用ふる水夫中許多のフィンランド人あるや已に久し。而して今日我邦に在る者殆ど二十萬人に及ぶ。

抑フィンランド憲法の蹂躪を計りし者は、露帝の輔弼中帝の寛容にして忠厚なる方針に反對せし者なるや疑なし。然るに露帝はフィンランドに於ける大權の擴張を喜び、これに因つて內地發達の宿志を展ぶるの望ありとなせし所より、十分に憲法問題を取調ぶるに及ばずして彼等の獻策を聽容したる者の如し。

北氷洋の沿岸に達すべき鐵道の計畫あるや、ヴランジェル・フィオルドを以て之が港

灣に充つるを得策とせり。此地の一面は那威にして一面はフィンランドなるが、フィオルドの水は年中氷結の憂なし。これ那威が北氷洋より瑞典を隔斷せる一帶の海岸は灣流の迂回して潮勢迅急なるが爲めなり。此處に達すべき鐵道はフィンランドを通過せんとし、露國及びフィンランドの兵を以て守備に當らしむるの考案なり。此計畫たる露帝の頗る意を用ひたる所の者ならん。吾人は露帝を稱するに專制を以てす。專制は其帝位に必隨せる稱號の一なり。唯其專制の意たるネーローの專制、ピーターの專制、若くは佛國大君主の專制と異り、土帝の如きは固より言ふに足らず。何となれば帝は「サブライム・ポルト」と稱する一體並に恩讎兩樣の外國公使より牽肘を受くればなり。而して露帝は何事も親裁する能はずして動もすれば內閣の反對に遇ひ、一方には世界の大勢を止むる能はず、一方には其臣僚の衆論を變ずる能はず、又其人民に深根固蔕の對外的偏見を如何ともする能はず。

露帝の最も苦心せし所の企圖は細民と耕作との永遠なる解決をなすに在り。鐵道を四方に布設し河川の舟航を奬勵するも之が爲めなり。新鐵道に沿へる荒

野に移住をする者を補助するも之が爲めなり。

不凍海に門戶を求むる計畫は獨り北氷洋に達する鐵道のみならず、過去五ヶ年の間アーチャンジェルに於て大改良を施し、なほ西比利亞の諸大河の便と、エルマック及び其他の碎氷船の力とに因り、白海を通商上に利用せんとし今や其發端なり。豈に只これのみならんや。バルティックと黑海とを連接するの大計畫も亦將に實際に現はれんとす。此水路の通ずる所は人口稠密にして物產豐饒なる土地なり。但し之より前この兩海の交通を資する運河は已に開鑿せられしと雖、石油穀物及び其他の出港日進の勢なるを以て、猶未だ其需用に應ずるに足らず。今計畫中なる運河は深濶にして軍艦を通ずるを主とし、其鐵道は軍隊を運ぶをを主とす。これ兵事上より見る所なり。

本書を讀める少年は定めて其生存中に是等の事業の完成を見るに至らん。而して其時に至らば露國の勢力は必ず絕大なるべし。知らず、那破崙の豫言せしが如く、二十世紀に於ては歐洲が共和人士となるべきか、コサックとなるべきか。若し果してコサックとならんか、ノールス人及びサクサンは露國と勢力を分ち、相互の猜

疑を含てゝ共に世界の遠隔なる地方に文明を扶殖するやも亦知るべからざるなり。

露帝は十八ヶ月以來悲哀と失望の結果、近來は皇后と共にモスコーに赴かれ、曾つて神聖なる式典を行ひたる寺院に於て偏に祈禱を以て其精神を慰め、其身體を强めんことを謀りしが、帝の心中は必ず左の如くなりしならん。「神は儼として茲に在り。これ天界の門戸なり」。此感情は兩宮の間の天緣を固結する所以にして、又吾人祈禱の福祥を知る者との骨肉關係を作る所以なり。兩宮は此地に於て皇女と共に午餐を受けたるが、魯國に在りては乳兒と雖尙此儀式及び洗禮の午餐に與るを得。但し皇帝が天に對して此巡禮をなすを得たる謝意を公表すると、此場所に於て上帝に祈禱を奉ずるが如きは西歐諸國になき所なり。

第四章　土帝及びアーメニア

一八九三年九月余が「十九世紀の露西亞及び土耳古」の原刻を校正せるに方り、初めて小亞細亞の基督教徒が殘虐に遭ひたる事を耳にせり。是に於て之に關する小註を補挿せしが、當時所謂アーメニア虐殺なる者は尙未だ始まらざりしなり。抑〻土帝アブダル・ハミッドの人格はグラッドストン氏の非議する所なるのみならず、吾人は元來帝の約束に一毫の信を措かざるに、東方の事件は一として益〻此念を固うせざる者なく、殆ど肺腑に入りたる者と謂ふべし。然れども下に抄出せるが如く余の帝に對する持論は決して從前に異る所なし。

コンスタンティノープルに住居し善く事情に通ぜる一英人は「コンテムポラリー・レヴィユー」に寄稿して云ふ。歐人即ち基督教徒は恐らく何人と雖、正確にアブダル・ハミッドの政略を評論する能はざるべし。帝は正直にして溫良なり、其企圖

せる事業に拮据して精力を消耗せり。其性質は慈惠なりと雖、常に刺客を恐れて四圍の人物を信せず。鑑察をなすに鋭敏なり。又帝國が危險の地に在るを憂ひ、政事の大問題に身を投ずるを避くると雖、道德上の勇氣と自任の氣象に至つては頗る稱するに足れり。

抑帝の政略は自己の功名心に本づくにあらず、權力を好むに出づるにあらずして、其國家と宗敎に對する義務觀念に發する者にして、アレキサンダー三世と宛も其揆を一にせり。

帝は回敎の終に勝利を得べき事を確信し以爲らく、若し其身にあらざれば則ち其子孫たる者必ず百王の王となり、モハメットの現身となるべく、而して基督敎猶太敎の如きは全く滅亡に歸し、一切の異敎徒盡く刀劍の力に因つて回敎に歸するの日あるべしと。

近來前土帝ミューラッドの事を記せる一書世に出てたるが、著者はディヂェマーレン・ベーと云ひ土國を逐はれて巴里に流寓せし人なり。但し彼が自ら知ると稱する所の者はその實眞に知る所の者より少きなり。此書には一八七六年アブダル・ハミッドとミッドハッド・パシャの談話を載せ、ミッドハット・パシャはアブダル・ハミッドに其兄を廢して自立すべき事を勸めたるりと云へるも、此談話は遽に信ずべからず。然れども土帝が基督敎徒に違約せし原因に就ては聊か機微を窺ふに足れり。蓋しミッドハッドは土國改革の必要を諷諫せしも、歐洲の强求に從ふの不可なる事を切言せしとは此書に傳へたる事實なり。

ミッドハット　殿下若し改革を約し玉はざるときは、歐洲は殿下の王位に即かせ給ふ事に就て後押をなし申すまじ。

アブダル・ハミッド　我宗敎は神政にして、其「コーラン」に本づけるは「マルテカ」の解釋したる一定不易の敎義に示すが如く、天下何物も之に勝る者なし。然るに何ぞや、此敎法に違ひ、基督敎徒をして回敎徒と同一の地位に立たしむるが如き憲法を發することを得べき。故に吾人は國民たるを失ふか、敎祖の遺法を遵守するかの二途あるのみ。汝は笑はゞ笑へ、余は此難局に處するに他の方法を發見する能はず。

ミッドハット　外國の政府は背後に武力を有する事なれば我國は如何にして

之に抗すべきされば たゞ約束を結ぶも差支なからん。眞正の信敎者は異端の者との條約を守らざるとも不義に陷らず。

此時ミッドハットは恐らく土國が議會と憲法とに因つて現出すべき光景を寫し出だして躍如たり。

アブダル・ハミッド　汝は如何にして善く改革を遂ぐべきや。

ミッドハット　臣は到底之を遂ぐる能はず。歐洲はわが土國を稱して病人となすと雖若し我國が此約束を履行せんと欲せば眞に病人の如くなるべし。臣の言ふ所は之を免れんと欲するのみ。……英國の親土派は土耳古に不利益なる證據には他くまでも信を惜かず、土耳古が英國の敵たる露西亞に萬々行はれざる議論を提出するも敢へて意に介せざる者なり。斯くの如くなる故、臣の作らんとする憲法は一見我治下の外人に自主權及び司法上の平等の權を許すが如くにして其實何等實行の實を負はざるべき者なり。

アブダル・ハミッド　然れども汝はコーランの大義に背きて豈に能く法律上總ての臣民を同一になすを得ん。

ミッドハット　これより容易なる事なし。宗敎の點に撞着する所なり約束は直ちに無効なり。此土國に於て宗敎が何物にも貫徹するは殿下の知り玉ふ所なり。

ミッドハットは回敎以外の農民を議會の下院に入らしめざる方法を建策して曰く、候補者の資格に土語を要する事となすべしと。

右の談話は恐らく想像に出でしならん。然れども之れに因つて土帝の奉ずる大主義を窺ふを得べし。帝の目的は此主義より發したる者にして其版圖に於ける回敎徒の優勢を計り、以て其國勢を挽回せんとするに在り。

願ふに帝は其版圖に基督敎徒の生息せざらん事を欲せり。何となれば回敎徒のみの支配すべき土地に於て彼等の必要なきが故なり。然るに基督敎徒は日に土國の煩累を招けり。帝の意を察するに、若し速に基督敎徒を殺す能はず、又之を國外に逐ふ能はざる以上はわが制御に從はしめん。

豫定の國會は一八七六年に開かれたるが、これ帝即位の元年に當れり。國會は一期に亘りしが外國人は深く驚嘆せると共に又滿足せり。然るに國會が土帝の爲

めに大藏省より費途の辯明立たざる支出をなせしに就て責任を問ふや、土帝は怪しみ且つ怒つて曰く、汝等は余が尤も然るべしとなす所の者を行ふの權利を奪はんとするかと。

一八七七年の露土戰爭將に起らんとするに方り、帝は戰後再び之を開くべしとの約束を以て停會を命じ、議員の領袖は永久に放逐せられ、或は偶然去て之く所を知らず。土帝が「クーデター」を行つてミッドハットの累を脫し、ミッドハットが亞拉比亞に亡命して俄に死亡したる顚末に至つては吾人の詳にせざる所なるが、若し彼果して土帝の爲めに從來の政略を畫策せし者ならんか、斯くの如き末路の否運は彼自ら取りたるものと謂ふべし。彼の死するや彼が曾つて翼戴したるアブダル・ハミット帝は純然たる專制君主となり、毫も宰相法律家イマムス、サブライム・ポスト等の牽肘を受けず。

土帝曾つてサムブライム・ポストの干涉を脫せんと欲し、之が手段を行ふ事一にして足らざりしも、少年回敎徒と自稱せる進步主義の回敎徒は之を喜ばざる事なほ外國公使若くは基督敎徒が其專制を喜ばざるより更に甚だし。

されど土帝が政治上最も力を致したる二改革は基督敎の文化に於て不朽の利ありと稱せらる。帝が健康と淸潔との規則を勵行し併せて敎育を奬勵せる其一なり。米國プレシビテリアン宣敎師の立てたるコンスタンティノープルのロバルト・コレージの如き少しも干涉する所なきのみならず、女子敎育を目的とせる米國敎會の學校に恩典を與へたる其二なり。

不幸にして位を廢せられたる土帝ミューラッドの歷史は余が「十九世紀の露西亞及び土耳古」の讀者が興味を感ぜし所ならん。ミューラッドは當初其弟なる今帝より尊敬と優禮とを受け、奢侈を盡したるチェラガンの宮殿に住せしも、後には皇帝の私邑イルディッの宮殿はベラ山の上に在り。眺望頗る佳にして勝景に富み、中に御苑あり。廣袤數哩繞らすに牆壁を以てし皇宮警察常に之を護る。皇帝は此處に來る每に數日を費し、決して門を出づる事なく、只金曜日に近傍なる寺院に赴き、或は「ベーラム」祝祭日を以てドルマバグチュー宮の饗宴に臨み、或は一年一回聖僧ソフィアを訪ふあるのみ。アブダル・ハミッドの如きは壯麗なる獄中に住すると謂ふも可な

り。イルディズの境内には華美なる樓閣及び涼臺を有し、後宮は花園の中央に位し、湖あり池あり、水禽魚介射るべく釣るべし。其他劇場の如きも亦設備せられ內廷の娛樂に供す。然るにミュラッドの居る所は同じくイルディズの區域內に在りと雖、トップカプーと稱せられたる古き宮殿なり。皇弟レスチッドも亦此宮殿に幽せられたるが皇弟は今弟の位を繼承すべき人なり。

此牢御所の秘密は外間の窺ひ知るべからざる者なるに、屢ミュラッドの健康が恢せられたりとの風說あり。右は宮中の一官吏が漏洩せしとの故を以て皇帝は之を刑罰に處せしと云ふ。

已にして土帝の內兄弟なる大バシャも亦罪を土帝に得たるが、これ隱謀の罪なりしか、又は「少年土耳古」と結托せしに因れるか、審ならず。彼は佛蘭西に出奔して今なほ同國に住す。土帝は從來屢之を自國に致さんとせしも今日に至るまで其志を遂うする能はざりしなり。

嗚呼憐むべき哉土帝、眞にサー・エドワード・ダイシェーの言の如し。

顏色蒼白にして憂心悄々たる土帝が、金曜日に至りセラミックの祈禱會に臨御

せんとて突然公衆の目に觸るゝ時、何人も同情の念に堪へざらんとす。土帝の臨まんとする寺院は宮門を距る五六ヤードに過ぎざるなり。然るに數千の兵士に護衛せられ、雲霞の如き從者の中に孤々依る所なき狀あり。嗚呼サルタンの名は曾つて世界を震動せしにあらずや。然るに今や其後を繼げる土帝は危殆なる王位の上に一身孤立を免れず。

然れども土帝が兄弟を待つや、之を昔より父帝アブダル・メジッドに至るまで代々のサルタンのなせし所に比すれば尙友愛の情ありと謂ふべし。何となれば王位を僭望し若くは王位に代るべき惧ある者を殺し盡すは「コーラン」の許す所、國俗の認むる所にして毫も疚しからざるなり。然るにアブダル・ハミッドは只之を幽閉せしに止り、幽囚に相當せる禮遇は之を施せしを以てなり。

百王の王たり、モハメットの現身たる口實(此口實は今帝より以前數世の間中絕せしもの)を以てモハメット全世界に君臨せんとせば、勢其臣民に對して確乎不拔の權力を有せざるべからず。これアブダル・ハミッドの境遇なり。蓋しコーランの不信者に關する法律は之をして回教、朝貢、刀劍の一を擇取せしむ。乃ち歐洲に於てオッ

トマン帝國の創建以來、回教主の版圖に住する基督教には生活稅を課し來れり。然るにアブダル・ハミッドの世に至り、戰爭の結果不順なる基督教徒は夥しく土國を去りたる爲め土帝は之が煩累を免れ、治下に留れる者はアーメニアの基督徒、クリートの基督教徒及びマセドニアの基督教徒のみ。後者は回教政治の下に幸福なる生活を營み、反つて回教徒互に反目して激爭を事とせり。而して此三種中アーメニア人は土國の最も苦しめ易く攻め易き者にして、外國の勢力至り難き處なれば從つて干涉を受くる恐れなし。

アーメニアは羅馬が西亞細亞を征服せし以前盛大の王國なりしも、今日にては分て土耳古露西亞及び波斯の版圖に入れり。其盛時に方つては東西二部の別あり。一はユフラティースの東に在り、一は其西に在り。羅馬の西亞細亞人と爭ふや、この地は其戰場となり、到る處荒廢を極め、尋て內亂に陷り、百七十六の小君主一時並び峙して統一する所なかりき。

傳說に從へば最初の宣教は聖徒ザッデュース、バルトロミューの二人にして、第三世紀の終に及び基督教は國民に普及せり。然るに羅馬に於て教育を受けたる當時年

少の國王は、羅馬人の偏見に化して害迫を行ひしが、之を害迫の嚆矢となす。王は聖徒ジョージ・ゼ・イリュミネートルを獄に下し、更に他の基督教徒を虐刑に處せんとするに當り俄然奇病に罹りし處、ジョージの爲めに救はれしかば、疾癒るや直ちに基督教を奉じ、その臣民は相率ゐてその例に倣へり。聖書のアーメニア語に譯されしは四一〇年なり。

アーメニア人が基督教を奉ぜしより二百年の後波斯の爲めに亡ぼされたるが、波斯は基督教徒の全滅を期したるなり。八三九年回教の教主これを征服したりしも爾來動亂相繼ぎ毫も寧日なかりき。

小亞細亞(ユフラティースの西方に在る國)のアーメニア人は十字軍に從へり。彼等は東方に於ける基督教徒最後の壘壁なりしが、十四世紀の終に至りアーメニア國民は全く掃蕩に歸し、アーメニア國の故地はクルド族一部を取り、波斯又一部を略し、オットマン帝國其餘を收めたり。已にして鐵木眞の劫掠に遇ひ基督教徒殊に殘虐を被れり。一六〇四年波斯の一諸侯復た全土を掠め、其民四千人を虜にして之を自國に移せしが、以來アーメニア人は國民たることを失ひ、各地に散在す

る猶太人の如く、銀行業及び其他の商業に從事する猶太人の如く、其結合力は專ら宗教に存す。而して昔日勇敢にして戰を好みたる人民も今や己れの住する土地の政府に對し從順を以て稱せらる。

露領アーメニアは波斯より征畧せし地方より成る。アレキサンダー三世は其臣民に盡く希臘正教を課せし爲め人民の不平を招きたり。抑アーメニア教會は四五一年誤解に由りて希臘教より分離せしものなれば、教義と云ひ儀式と云ひ多く異る所なし。唯露西亞の希臘正教は露帝を以て教俗兩界の元首とし、アーメニアの希臘教會は教長の管轄に係るのみ。

十五世紀の頃デュシュイトの宣教師は露國教會とアーメニア教會との合一に努力し、遂にアーメニアに羅馬舊教會の支院を立つるに至り、アーメニア人にして之に歸したる者は自らグレゴリアンと稱せり。かのバイロン卿の歴史と關聯せるを以て世人の耳に熟せるヴェニスのアーメニア僧院は此宗徒に屬する者なり。

一八七八年露軍はコンスタンティノープルに肉薄し、土帝をしてサンステファノーの條約を結ばしめ、土帝はアーメニアの基督教徒を滿足せしむべき十分なる改

良を施すの責を負へり。蓋し露國外交の當局者は回教の主義に反せる約束の履行は到底期すべからず、從つて土帝の言に信を措き難きを知れり。回教の主義とは何ぞ。曰く、回教徒は何事に於ても猶太教徒基督教徒の主者なり。優者なり。主者なるべし。優者なるべしと。即ち是なり。然れども露人は又コーランに定めたる他の法則を知れり。他の法則とは何ぞ。力敵すべからざる者に遇へば、服從するか若くは服從の態度を示すことなり。是に於て條約に定めて曰く、土國が約束の改良を實行するまでは露軍應に土領アーメニアを占領すべしと。

然るに列强は伯林會議に因りサンステファノーの條約を破棄し、土帝の口約のみにて十分なる事を宣言せり。露公使ゴルチャコッフは少くとも改良の着手に至るまでは露軍を該地に駐屯すべしと主張せしも、英國はサイプラスの會合に據り、露軍撤退するも其後に於てアーメニアは何等の害を受けざるべきを保し、長く土都に公使たるサー・フィリップ・キューリーは揚言して曰く、其契約に余が名を署するよりは寧ろ余が右手を切斷すべしと。

サイプラス會合は英土の秘密條約にして伯林會議より數日前に在り。これに由

つて英國は或る一國がアーメニアを併さんと謀る時に方り、兵力を以て土國の爲めに之を拒むべきを約し、土帝は又アーメニアに於ける基督教及び其他の臣民を保護するが爲めに他日兩國の協定を待つて必要の改革を行ふべく、英國をして此契約を行ふに必要なる準備を得せしむるが爲めに、英國をしてサイプラスを占有し並に之を管理する事を許諾せり。

サイプラス島は英國に取り許多の費用を要するのみにて無用の地たり。されど此地には多數の基督教徒を有するを以て、英國政府は何れの內閣の時と雖敢へて之を還附するに忍びず。而して一方には土耳古より此島を割讓せられたるより、縱令土耳古がアーメニア改革の契約を履行せざるも英國は自己の契約を守らざるべからざるの義務を負へり。

一八七八年より數年の間アーメニアは靜穩なりしが、土國に於て基督教徒と回教徒が斯くの如く和合せし事は未だ曾つて有らざる所なり。會、山中に住したるクルド族は時々アーメニアの村落を劫すること、宛も蘇格蘭の合同以前高地の寇賊が低地の民を掩襲して田圃を掠め家蓄を奪へるが如く、クルドは又蘇國の

山賊と同じく刼掠を免れんと欲する者より賂を徵取せし所、其誅求は次第に巨額に達し、饑饉の歲の如き小民は土國の收稅吏に向ひ免稅を希ふに至れり。而して稅を納めざる者が住居の櫨を奪はゝは土國の規定なり。

アーメニアの小民が此の如く窮狀に呻吟するに方り、其中に革命の萠芽を生ぜり。彼等は自らハンチャジントーと稱し、多くは露國のアーメニアより來りし者にして、村民の間に革命協會を作るに努力し、人目に觸るゝ場處每に革命の文辭を貼付せしが、其米國宣教學校の壁に貼付せし者は校員の爲めに取り棄てられたり。但し村民は毫も此輩に同情を有せず、之を畏るゝことクルドより甚し。

學問あり智慮ある一アーメニア人はヘップウォルス氏に謂つて曰く、彼等は騷動を以て糊口の資となす者なり。然るに憐むべし吾人は彼等の爲めに困しめらる。嗚呼是か非か。余は斷言す、何人と雖アーメニア人の如く革命黨を怖るゝ者あらざるべし。吾人は曾つて幸福なる人民なりしなり。吾人は巨額の租稅を納めたり。吾人は少からざる商業の益を有したるなり。吾人は滿足にして繁榮なりき。然るに嗚呼伯林條約、嗚呼英國の干涉、若し歐洲が吾人を束縛せざらんか、

吾人は尙將來を有す。然るに歐洲は土國をして吾人に對する惡意を起さしめ、猜疑心を生ぜしめ、其結果吾人は只生死を天に任さゞるべからざるに至れり。

「クルド」(義勇なるサラディンの發したる人種)は幾多の族に分れ、各「シーク」(君長)なりを戴けり。この人民は曾つてアーメニアと稱せられたる土地の山中に住せしも、アーメニアの名は今や禁止となり、言文ともに之を用ふるを得ず。アーメニアは今のアナトリアの部分にして、アナトリアは土帝國の要用なる地方をなす。クルドは山間に散在し、その本性に於て因襲に於て共に山賊たるを免れず。土耳古正兵の勇猛柔順なる長所は一も有する所なく、一種の美質と殘忍とを混ぜる者なり。之を以て土國の恐るゝ所は露西亞が土領アーメニアを取り、クルドが露人と合して來寇をなすに在り。

アブダル・ハミッドは此慓悍なる人民の薄弱なる方面より之を誘ひ、好餌を啗はしめて其歡心を收めたり。即ち「シーク」をコンスタンティノープルに招き優遇至らざるなく、與ふるに勳章を以てせり。而して其歸るに方り彼等の新首領ゼッキーパシャに訓令を傳へ、邑民の强壯なる者を偏して騎兵隊を作らしめ、之に華美なる制服

と武器を授け、土帝は之に己れの名を賜ふてハミデー騎隊と稱せり。是に於てクルドは從來の情態を變せず村落生活を改めずして土國軍隊の一部を組織せり。元來土國に於ては聯隊を其徵兵區外に送るの慣例なりしも、クルドの場合は全く之に反せる者と謂ふべし。而して一旦緩急あるときは彼等は土帝の爲めに死力を出して勤王す。蓋し彼等は天性宗教心に乏しく、回教徒としても亦冷淡を極む。然れども猛勇躁妄の武夫にして毫も拘束を受くることを屑とせず。吾生命を顧みざると共に人の生命をも重しとせず。文明の何たるを知らざる獷悍半開の人種なり。

今やクルドは土國より支治を受け、土國の兵たる名義を以て山賊の許可を得たるが故に、再びアーメニア村落を侵し、一八九四年五月初めてアラット山下のビトリスに近き一村を襲へり。風說に據れば少しく以前より露西亞の間諜村家に宿して煽動を謀りしに、クルドの酋長等は之を捕ふべき命を承け抵抗するものを殺し並に物品を奪掠するの許を得たり。而してクルド村民の家畜を奪つて去らんとせし時、アーメニア人は之を追跡して兵を交へ、賊の中死者を出せり。地方

官はコンスタンティノープルに打電しアーメニア人が王の軍卒を殺せりと報ぜり。

アブダル・ハミッドは之を聞て大に怒り、直ちに令を下して兵をアーメニアに發し、其民を殺し、其家を燒き、其物を掠め、其市を破壞せしめたり。

英國領事の報告に曰く、八月十二日より九月四日に至るまで、アーメニア人は野獸の如く驅逐せられ、彼等の目に觸るゝや處を擇ばずして殺害に遇へり。これ決して誇大の言にあらず。若し其殺戮の此處に止りしは此地方の山脈廣大なるが爲めにして、人民は四方に散處し逃匿の便ありしに因る。

サッソーンに於ける三週間の殺戮と劫掠に就ては、余が之を記するよりも生存者の言を述ぶるの反つて讀者に切なるべきを信ず。左に錄するものは即ち當時死を免れたる村民の談話なるが多少節略を施せり。

一八九四年に至るまで余の一家はサッソーンに住し、他の家族と共に幸福なる生活をなせり。吾人の居る土地の山上に住したるクルドは時に家畜を偸みたる事あるも、概にして相親みたり。又奪はれたる家畜は自己の物と他人の物と

を問はず之を奪ひ返す事を得たり。……襲擊を受けたる時は余は家族と家畜とを携へて急ぎ村外の山上に逃れんとせり。……クルドは吾人の村に火を放ち、余は遠方より關中其燒くるを見たり。

吾人はクルドの兵士に逐はれ、或は岩窟に或は廢趾に屬せる羊欄に匿れ、彼處此處に遁逃せり。吾人のアガス(吾人が路を贈れるカルドの酋長)の住したる一村に於ては酋長等吾人を保護せんとせしも無效なりき。是に於て吾人は日となく夜となく山中に彷徨せしが、夜々吾人の村落が燒かるゝを見たり。余は兄弟の一人及び其女子と林中に入りし處、忽ち敵兵の見る所となり、兄弟と姪とは其銃丸に斃れしも、余のみ幸に免れ余の家族と出會して途中の事件を語り、翌日共に林中に入り骨肉の遺骸を見しかば、之を埋めんとせしに敵兵忽ち出て來りし故奔つて身を匿せり。それより間もなく隱れ居たる人々と林中に會合し、共に疲勞と飢餓に堪へざりしかば、火を焚きて其處にて發見せる牡牛の料理を始めたるに、豈に圖らん、此火の光は敵に在所を知らるゝ本となり、兵士は次第に近づきたれば余等は岩石の間に身を潛め、恐怖の餘り戰慄せる際二

人の敵兵は忽ち余等を認めて發銃し、余は之が爲めに二個所に傷を負ひ殆ど殺されたりと思へり。余の仲間も亦打たれて地上に倒れぬ。敵の一人は余を死せしと思ひ五分切にせんと申出せしに、他の一人は刀の血を洗ふべき水なければ止むべしとて同意せざりき。彼等の去るや仲間に語をかけし處甚だ力なき返事をなしたるが、歩行する事も身動きもならず、余も亦股に丸を受け、頭と肩に創あり、殆ど彼と同一の情態に在り。此夜の艱難は口にも述ぶべからず。疲勞と云ひ、飢餓と云ひ、渴と云ひ、傷の痛みと云ひ、若し悶死するにあらざれば則ち野獸の餌となる外これあらず。余は敵兵を呼て曰く、來れ吾人を殺せ、此苦痛を脫せしめよと。然れども余の薄弱なる聲は彼に達するに足らず。已にしてアーメニア人は余の方に來りしが其疲勞はなほ吾人と異らず。然れども余の懇請に因り勉めて余等を古き鳩舍に運び、水及び乾酪を與へ余等を辭して去りたる時、飛丸は余等の頭上を過ぎ、或は身邊を掠め去れり。……斯くの如き艱苦の中に三週日を經たる處、聞けば土帝の勅使到着して殺戮の停止を命ぜり。是に於て兵士は負傷者と否とを問はず、凡ての逃亡者を驅り集め、之を彼等の荒

涼たる故村に逐ひ返せり。余はヴァルテニスに於てわが妻に遇ふを得たるも、其他の家族に就ては一も知る所なし。

余は公平ならんと欲す。今余の引用せるアルゼルームよりの報告は非常なる慘狀を述べたる後下の如き記事を掲げぬ。

然れども亦其罪を償ふべき景象なきにあらず。多くの土耳古人は救を求めたるアーメニア人を助け、之を己れの家又は店に庇し、其危險なきを待つて彼等の家に送附せり。或る土耳古人の如きはアーメニア人をして羊毛を積み累ねたる下に匿れしめたるに、クルドの發見する所となれり。主人は目前の急を救ふに他の方法なかりしかば、之に告げて曰く、余は彼が不良のアーメニア人なる事を知る。是非とも絞刑を行はんが爲めに之を置けるのみと。危難の去るや主人は彼を安全の地に送り、其時計と金錢とを返附せしが、是等の物は主人が僞つて分取の權ありとなせる所のものなり。

左に抄錄する所はサッソーンよりの書簡なり。

屠殺の勢は暴風雨の如く四方に狂ひ廻り、爲めに荒廢に歸したる處は三十ケ

村に下らず。その破壞の甚しき、後日村名すらも官府の帳簿より除き去らるゝに至れり。殺戮せる人數の如きは精算に由なしと雖、必ず五六千より少からざるべく、或はそれ以上なりと云ふものあり。若干の兵士は云へり、かれ等は一人毎に百人の殺戮を配當せられたりと。中には徵募以外のクルドが彼等より多數の殺戮を得たるを羨みて泣きたる者あり。又之に反して心ならず手を下し非常なる苦悶を抱きし者あり。又一人の妻は夫が平日の如く祈禱せざりし故之に注意せし處、夫の言ふやう神は祈禱を納受なし玉はざらん。若し果して神あらば斯くの如き怖ろしき所行に報ひ玉はん。祈禱も無益なりと。又一群の兵士は其家に歸りし時知人なるアーメニア人に問ふて曰く、ナザレスのヂーサスは誰なるや。サッソーンの婦人は絶えず彼を呼んで救を求むるにあらずやと。

ハルプートに於ける米國宣教師の家屋破壞に對する賠償の件は現在に外交問題に屬するが故に姑らく之を措き、一八九五年の終に起れる事件に就て述ぶる所あらんとす。抑、この時に至るまでハルプートの平原はアーメニア中尤も肥沃を以て著はれ、住民は土耳古人ありアーメニア人あり、共に平穩無事なりしな

り。而して米國附屬の大學は常に土耳古の官吏を歡迎し、彼等も其體操を參觀せし時は深く喜悅の情を表せり。宣教師と土耳古官吏との間も平素親密を保ち、殊に知州とは懇意なりし上、此地方には一も革命的兆候なかりしかば、萬事都合善く運びたるに、意外にもクルド族は幾隊となく山中より馳せ出てゝ東西に殺到し、過ぐる所の村落は盡く鹵掠を免れざりしが、土國の官府は宣教師に向ひ其身體住所の安全を保證せり。然るに一八九五年十一月十一日に及び、クルドが俄然掩襲を行ふに際し、土耳古の正兵は殺戮劫奪を防止するが爲め武裝して來會せしに拘はらず、袖手傍觀して賊のなす所に任せ、米人の家屋は物を奪はれたるが上に火を放たれ、罹災の人々は宣教師の家屋に避難せし者あり、丘陵を望んで逃れたるものあり。已にして賊は大學を燒き延いて拜堂に及びしが、高等學校のみは一人の宣教師が一個の小喞筒を運用して纔かに免れたり。但し賊の計畫は建物を燒き拂ひ米人及び耶蘇教に歸依せしものを逐攘するに在り。米人は、土耳古兵の指揮官の救を求めたるに、彼答へて曰く、余は三日以前に於て、若し一人のクルドなりとも諸君に害をなす者あらば、余の身首處を異にするとも可なりと言

ひたる事は決して忘れたるにあらず。然れども一萬五千のクルドに對し余は實に何をなし得べきぞと。

怖るべき暴行は二ヶ月に亙り、其如何に甚しかりしかは到底此抄錄の盡すべきにあらず。基督敎の敎正も、僧侶も、校師も、平民も共に毒刃に斃れ、拷掠に遭ひたる者亦少からず。或は身上に柴を積まれて焚殺せられたる者あり。宗敎に屬する人々の如きは往々手足を切斷せられたる者あり。賊は放火する毎に石油を使用し、一方には男子を殺し一方には婦女に回敎を强ひたるが、之に從はずして殺害に遇ひ若くはユーフラティーズに投身せし者亦少からず。

余は思ふ、これ已に十分なり。宣敎を事とせる一貴女がウルファより發したる一私信に曰く、其地は全く荒廢に歸し、殘趾遺基の外何物も存することなく、精密の統計に據れば新敎徒の殘れる者は十人に過ぎず。生命を失ひし者一百五人、其中九人を除く外皆男子なりし。余の保護に就き全力を用ゐたるは明白なり。然れども若し幾千の子女の爲めに其父母の生命を全うするを得べきならんには、余は寧ろ死を冀ひしなり。或る人は僅なる食物を家內に　したる爲め多少飢餓を免れ

たれども、或る人は全く何等の食物を有せず、一人の大人は余を招きて同情を表し、且つ土耳古風の話し方にて余に謂ふ、食料は神より賜りし所の者にして、余は感謝措く所を知らず。而して政府は毎日二百塊の麵麭を準備すと。

基督敎の拜禮に供すべき家屋は許可を經るにあらざれば、建築再造若くは修復するを得ざりし事已に數年、而して其許可は尤も之を得るに困難なりしなり。土帝は米國の要求せる賠償をなす能はざるも、破壞せられたる米國宣敎師の建物を再建するの許可は之を與ふべしと言へり。蓋し帝は自ら之を以て讓步となせしも米人は斯く感ずる能はざりし者の如し。

余が任意に引用したる著書は云へり。宣敎師と土政府との關係は如何と云へる問題は屢提起せられたり。土政府は宣敎師の勢力を以て有害多事なりとし、宣敎師は現政府の敵なりと稱するも、これ全く事實に相違せる者なり。何となれば米國宣敎師は皆法律に其身を委ね、土政府を國土の主宰として之に從はざるべからざる事を自覺せり。然れども彼等の施せる敎育の一般に及びたる結果が智識の啓發を促し、人々自ら壓制に抵抗するに至りしは則ち事實なり。

土國は此殺戮の報が基督教國に傳はらんを恐れて百方之を防ぎ用意到らざるなし。而してコンスタンティノープルに於ては勿論眞相を知れるが故に、土帝は西歐諸國が之を聞知したる結果の如何を豫想し、頗る危險を感ぜしも、尙殺戮に從事せしクルドの軍隊に軍旗を授け、セキーバシャに勳章を與へたり。セキーバシャは殺戮の當時現場に馳せ附け、アーメニア人を屠殺すべき土帝の命令書を軍隊に讀み聞かせ、右畢るや命令書を己れの胸に懸け、軍隊を奬勵して任務を盡さしめたる事あり。之は土帝即位の一週年にして八月三十一日に當り、兵士は之が爲め奮激して殺戮の功を立てしなり。

一八九八年ヘッブウォルス氏は紐育ヘラルドの通信員としてアーメニアの全土に騎馬旅行をなし、惻然として下の如く言へり。

アーメニア人が斷腸すべき虐刑に處して毅然屈せざりしは偉なりと謂ふべく、余は之が爲めに筆を役して其美德を彰さゞるを得ず。西はハルプートより東は波斯の界なるヴァンに至るまで、即ちアーメニアの各地より聞き得たる話を察するに、アーメニアが死地に臨み義勇なる殆ど一轍に出るが如し。眞正にして奪ふべからざるの精神は全土に亙り、愚鈍なる迫害、何人にも益なき迫害の犧牲となりし者は、其生に於て忠誠なりしが如く其死に於て高尙なりき。彼等は其家宅の侵掠せられ燒失するを見たり。山中に逐はれて飢寒に苦めり。其家蓄を失へり。其幸福を削られて赤貧となれり。然れど其善く忍びたるは吾人の敬服して驚嘆する所なり。……或る場合に於ては其生命を全うせしが爲めに宗教を棄てたる者なきにあらざれども、……殺戮の當時に於て信仰を棄つるが如き外觀を示せし者と雖、亦甚だ多からず。大概は屠者の面前に立ち吾肉を毒刃に委ねたるが、余は殆ど如何に之を稱揚すべきかを知らず。彼等は其近隣の回教徒の如く土屋に住し塵芥に混する至極の貧民にして、無學不文未開の徒なり。されど一旦大節に臨むや、頸を延べて刀を受け、宗教の爲めに死せしは尤も偉ならずや。若干の婦人が閉鎖せられたる事は已に之を記述せしが、此婦人等は土耳古人の爲めに貞操を汚されじとてユーフラティースの絕壁より逆卷く水中に飛入れり。嗚呼昔時羅馬が迫害を行ひたる日に於て身を以て宗教に殉ぜるこれ以上の者あらんや。

土國政府の漏洩を防止する手段は一として效を奏せず。サッソーン事件の風說は歐洲各國領事を經て本國に傳はり、歐洲より又合衆國に傳はれり。

合衆國の元老院は新聞紙に因つて土耳古兵士の兇行を知るや大に激昂し、一八九四年十二月政府をして基督敎及び人道の名を以て干涉を行はしめんとし、努力頗る至れり。政府は大統領の敎書を以て之に答へて云ふ、數日前(十一月二十八日)コンスタンティノープルの駐在公使より左の電報を受けたりと。

新聞紙に載せたるサッソーンの殺戮兇行の報道は煽動誇大に失せり。殺戮はアーメニア人と土耳古兵との爭鬪に出て、土耳古首相は暴動を鎭壓するの必要ありと云へり。土耳古人の死せし者殆ど五十人にして、爭鬪の後三四百挺小銃を拾ひ上げたるが、首相の言ふ所に據ればアーメニア人の殺されたるは概ね右の數に當れりと。余はこの陳述に信を措く。

此電報は十二月二日を以て議院に回送せられしが、又公使よりワシントンの內務省に達したる電報に曰く、

英國公使の通知に據ればアーメニアに於て虐殺せられたる數は余が十一月

二十八日の電信にて報じたるより頗る多しと。

英國は騷動のありたる地方に領事を置きたるに因り、領事は公使に報告を送りしも、合衆國は領事を置かざりし爲め事の敏活を欠きしなり。若しバルブート若しくはマーラッシに於て一ヶ年前に領事館ありしならば、米國宣敎師の家屋は恐くは破壞の禍を免れしならん。議院が此問題に關し强硬なる建議をなせし結果、政府は領事を指定せし處、サブライムポストは認知狀を拒めり。初めクルドの援兵として派遣せられたる土耳古の正兵は官吏より傳へたる中央政府の訓令に勵され、クルドの中に散在せし事なれば土帝の公命に因つて擧措したるや明白なり。已にして土帝アブダル・ハミッドは事體の容易ならざるを悟り、併せて歐洲列國の己れに對する態度を實驗せしより、クルドに殺戮刼掠破壞の命を傳へたる一官吏を召集し痛く叱責を加へたるに、官吏は激動の爲め心臟病を作して眼前に斃死せり。

土耳古の一紳士は一歐人に問ひて曰く、君等は土耳古の衰弱なることを云々するも、土耳古の偏强なる所以は歐人の一致せざるに在りと。この評たるアーメニ

ア事件に於て適中せり。何となれば六强中の一强が方案を提出し、二の贊成を得るにあたり、少くとも二ケ國は必ず之に反對するが故なり。而して最も防害的なるを獨逸とす。露西亞はアーメニアを一領域となすの計畫には一も二もなく反對し、自國の疆界に新バルガリアを生ずるを欲せずと云へり。

諸外國の選定に係れるサッソーン虐殺事件の調査委員は百難を排してその任を遂げ、遂に報告書を送致するに至りしが、委員の說に曰く、アーメニアの煽動に凡ゆる手段を竭せし者はパンチャジスト革命黨にして、その言にクルドの首長と兵士とは以爲らく、住民より攻擊を受けたる場合敵對せる村落を刼掠するは土廷の許す所なれば何ぞ忌憚するに足らんと。サブライムポメートはサッソーン虐殺に就き大に壓迫を被りたる結果、土帝は調査委員を任命すべき事を諾せしも、帝自ら言へるが如く、基督敎徒虐殺の調査を行ふ爲めにあらずして、アーメニアの山賊の犯したる暴行を調査するが爲めなり。

純粹なる土耳古委員は固よりコンスタンティノープルに於ける歐洲各國の公使と意見を同うすべくもあらず。諸公使はエルゼルームの英、佛、露三領事館の譯官

より列席せしむべき許を得たるも、固より證人を訊問するの權なく、又會議に與るの權なし。調査會の希望に因り米人デュウェット氏も亦指定せられしが、氏は個人として調査をなし且つ證人を訊問せんことを欲せしかば、これ亦會議に預るを得ざりき。

事は全局に亘つて暴虐なる滑稽を演出せり。即ち獄中のアーメニア人を誘惑し騷動の罪をアーメニアの名士とヴァンに於ける英國の領事に嫁したる文書に署名せしめたる事是なり。

一八九五年五月十一日、英佛露の三領事は土帝に改革案を呈出せしに、土帝は之を拒絕して曰く、非回敎徒に特權を授くるはコーランの敎に悖るが故に從ふ能はずと。

コンスタンティノープル駐在の米國公使テレル氏は改革案に關し本國政府に報告して曰く、余が信ずる處に據れば所謂改革にして發表せられんが、之に次て來るべき者は第二のアーメニア人虐殺と我宣敎師の危險なり。之を以て十月二十一日他の公使が土帝の發布せる勅書諸領事の改革案を見て歡喜せるに當り余

は土國政府に要求し、全國の文武官に一々電信を以て米國の宣教師を保護する事を命ぜしめたり。

アーメニア虐殺の一週年に及ぶも改革案の實施せられざるを見るや、コンスタンティノープルに於ける革命的アーメニアンは代人を選んで首相に請願書を提出せんとせり。然るに警官が其進行を沮止せしより忽ち動亂を興し、遂に府中アーメニア人の全體を攻擊せしが、ソフタス(神學生)最も與つて力あり。土帝は深く其功を嘉みせりと云ふ。此騷動は一八九五年十月に在り。

コンスタンティノープルに於てアーメニア人が攻擊を蒙りたる事は地方都會の人心を激發せり。蓋しこれ政府が此暴舉を制止せず、此暴徒を罰せざりしが爲めなり。トレビゾンドに於ては一齊にアーメニアの男子と小兒とを殺し婦人は之を辱しめたり。

屠殺は五時間に亙り最早抵抗すべき男子なしと見るや、暴徒はアーメニアの家宅店舗に入りて財物を奪ひたるが、此時に方り官府は一人の暴徒を捕縛せざりしのみか、其武器を押收する事をもなさず、都會の地は相繼いてアーメニア人の

遭難を見たり。而して其中には商人あり、工匠あり、銀行家あり、店主あり。是等の實業家は概ね都會に住し其富裕なる事は土耳古人の夙に妬視せし所なり。蓋し暴徒が官府の方針に從つて鋭意アーメニア人を殘虐せし所以は一は官府の默許を恃むに在りと雖、一は疑心暗鬼を生ぜしに在り。即ち彼等は疑つて以爲らく、アーメニア人は基督教國の後援により土帝を廢し、土政府を覆し、自家の宗教を樹立するの企をなす者なりと。是に於て此種の暴徒は又亞細亞土耳古に蹶起せり。聞くが如きは土帝が改革案を許容するや、之か輔弼の者は竊に謀つて此騷亂を發せしめたるなり。これ回教徒が其人種上の特權を侵害せらるゝ結果を示して西歐諸國の再考を求むるの目的に外ならず。

一八九六年の夏秋に及び土帝は二黨派の爲めに脅かされたるが、其一は土帝を以て眞正なる回教の保護者にあらずと思へる者、其一は少年土耳古即ち進歩派これなり。土帝の廢位に關する煽亂の落書は帝都の各所に貼附せられ、革命の回報は市街に散布せられたり。

革命派のアーメニア人はゼクツーンの强に起つて政府に反し、堅固なる城塞を

拔きて其守兵を降せり。クルドは又防備なき村落を掩擊して暴行を逞うする前度に過ぎ、十一月に至るや土耳古兵これと合してハーブールなるアーメニア區を劫して數千のアーメニア人を殺せり。此時或る都會に於ては土耳古の知州健氣にも身を以てクルドの銃口に當り遂に劫掠を免れたれども、バルプートの米國宣教所は盜火の災を被り、マラシの米國宣教學校も亦破壞せられたり。十一月の終に至るまてアーメニア村落の荒廢に歸せし者二千五百ヶ所、其中に住したる男子は大抵屠殺せられ、市街の死者は二萬人に及べり。又食物なく、衣服完からず。住家を失ひたる者は地方に於て二十萬を超え、市街に於て七萬五千を過ぎたりと云へり。

虐殺の止むや土耳古政府は飢餓を救ふべき處置を取り、クラヽバルトン孃は合衆國よりの救助を以て土帝より窮民救濟の許可を得たり。

虐殺は改革案を應用すべしと定められたる地方に限り、その他の場處は偶之あるも例外に屬せり。又ハルプート及びマラシに於ては米國宣教所賊に焚かれたれども、其他の地方に於ける外國人の生命財産とは何等の禍を蒙らざりしなり。

之より先き八月に於てコンスタンティノープルに反亂の兆ありし事は已に之を述べたるが、革命黨は尤も之を希望せしなり。蓋しこれに因り列强をして基督教徒保護の口實の下に干渉を行はしめんとするの計に出づ。而してこの政畧たる二十年前バルガリアの革命委員が從事して成功せし所のものなり。革命的回教徒とコンスタンティノープルの暴徒とは動もすればアーメニア人の殺戮刼掠を行はんとし、ハンチャジストの首領等の計畫はオットマン銀行を占有し、列强がコンスタンティノープルの公使を經て土帝を脅し、相當の改革を行はしむべき手段を取らざれば之を爆發せしむべしと威嚇するに在り。列强は其計畫を熟知せしと雖、寧ろ其破裂を喜べり。而して銀行を占領せし者は之を放棄して英國の船に乘るべき勸告を受けたるが、英國公使は勿論之が保護を約せしなり。然れども暴徒は多くコンスタンティノープルの各所に蝟集し、アーメニア人の虐殺と刼掠せんを企て、兵士と警察の各隊は終始アーメニア人の抵抗を防止し、事宜に因つて之を捕縛すべき準備をなし、外國の店主は多く其手代が店頭に於て寸斷せられたるを目擊せり。而して苟くもアーメニア人と認められたる者は盡く逆殺に罹り

しと雖兵士は概して之に與らず、又シーク・アルイスラムは他の重なる土耳古人と共に市内アーメニア區の或る場所を救はんとせり。此殺戮は三日間繼續し、而して別に人心の動搖を致さゞりき。

此殺戮を行ひし者は人民にあらずして政府なり。但し無智猛惡の階級に屬せしは回教の爲めなりと敎へられて行動せしのみ。貧賤なる一婦人あり、米人の一家族を庇護せしが、之に謂て曰く、余は暴徒の攻擊に對して君等を保護すべし。然れども暴徒若し回教祖の名を以て諸君を求めば余は之を引渡さゞる能はずと。虐殺已に終り秩序恢復するや、土耳古の官府はアーメニア人のコンスタンティノープルに在つて書記となり、稅監吏となり、鐵道の職員又は人の家僕となれる者に至るまで、盡く解雇の上帝都の外に放逐せり。其外に於ては一定の期限内に出來得る丈多くのアーメニア人、就中實業に從事する者を殺さんと謀り、其家族の如きは赦されたる者あれども自然の結果不幸に沈淪するを免れず。

以上已に十分なり。余は復た恐るべき虐殺の禍を述べざるべし。アーメニア事件を記したる書籍にして余が閲讀せる者の中、尤も裨益あり尤も平正信實なりと

思惟する所の者はジョージ・エッチ・ヘップウォルス氏の著はせる「アーメニア騎馬旅行」なり。但し氏は表題紙に於てリヴェレンドの稱を其名に冠せざりき。氏の尤も力を用ひたる點は土耳古人民の性質を公評するに在り。是に於て書中には土耳古人の罪惡を回護せざると共に、又敢て惡意を以て事實を揭げず。而して文體は多少ジョージ・ボローに類する處あり。これ此書の聲價を高からしめたる所以なり。若し讀者にしてなほ審にアーメニアの事情とこゝに起りたる悲劇とを知らんと欲せば、余は實に此書を勸むるなり。

土帝アブダル・ハミッドは大義名分上頗る其地位の嚴明ならざるを病めり。蓋し帝は通常カリフと稱せられ、又バディッシと稱せられしが、バディッシとは百主の君たる義なり。土帝はカリフの威權を擧ぐる汲々たりしも、モハメットの法則に從ふときは正當のカリフにあらず。何となればカリフの語たるモハメットの後嗣を謂へばなり。コーランはカリフの繼承に就て只一系を許すのみ。即ちカリフたる者は必ずコレーシュに屬する亞拉比亞人ならざるべからず。モハメットは數多の夫人ありしに拘はらず、一人の子なく、其豫言に曰く、眞正のカリフは我死後僅に三十年續

くべしと。又曰く、これより以後は勢力により、簒立により、暴虐によつて得たる所の地位に過ぎざらんと。

モハメットの死するや三十年にして第一回四カリフは終を告げ、果して其言の如くなりき。此四カリフはモハメットの血族にして、眞正にして完全なるカリフと稱せられ、其後を承けたる六十八のカリフはモハメットの血屬にあらず、從つて不完全のカリフなりしも尙コレーシュの種族に隷せしが、此種族はアブラハムの直系より出てたることを主張せり。

一五一〇年オットマンの土帝セリム一世埃及を征服するや、カリフの名を稱せり。セリムは外國の人種に屬しモハメットと血族の關係なく、又コレーシュの部落と連結なく、其カリフの稱を得たる根據は、其埃及に勝ちたる時メッカノシュリーフがカイローに於て之に神都の鍵を授け、而してアバサイド・カリフ最後の君なるモハメット十二世が其權利と位號とを傳へしを以てなり。爾來世々の土帝はカリフの號を稱し、眞正のカリフは埃及に在り。世に顯はれず。其最後の者は一八三八年に死せり。

抑一四人の完全なるカリフの最後なる教主死せし以來、カリフに關する爭鬪はモハメット教徒の間にその跡を絕たず。蓋し波斯人は不完全なるカリフがコレーシュ族なるに係らずして之に君事するを肯せず。又オットマン帝がカリフの號を稱しイモーム・ウル・マスリミンの職を執るや、亞拉比亞人及び印度ソータン、モロッコの回教徒は之を認めざりき。此イモーム・ウル・マスリミンは信徒の大將軍と云へる義なり。

土帝セリムにカリフの稱號を附するの可否に就き回教學者の意見を徵せしに、曰く、君主の權を有すべき者は最强の人にして實際の治者たるを要し、指揮權は其軍隊の勢力に存ずと。

コーランに從へば一切のモスレムはイモームの治を受けざるべからず。其權力を絕對にして一切を綜べ、何人も之に服從するの義務を負ひ、何れの國も他國に歸服するを得ず。然るに法則に據ればイモールはコレーシュの親族に限れり。

アブダル・ハミッドはカリフとして資格に欠くる所あるは以上の理由に因て明かなり。然れども其一旦位に即くや自らカリフたりイモームたる實權を行ひ且つ

其宗教の爲めに何事をも犧牲にせんとせしが、これ帝の宿志にして唯一の政略となせし所なり。乃ちオスマン帝位を中心として總ての回教界を統率するの決心を抱けり。蓋し其動機は道理に出づるにあらずして信仰に出て、使節を回教全界に發し、コンスタンティノープルに重なるイモームを召集し、回教の中興に就て彼等の熱心を鼓舞せしが、亞拉比亞人、波斯人、亞非利加内地の部落並にモロックの君主の如きは土帝を以て纂立者となし教祖の知らざる外國人となし、教界の元首信徒の大將軍と認むるを肯ぜず。是に於て會議の結果はアブタル・ハミットをして少からず失望に及ばしめたるが、尚其計畫を斷念するに至らず。元來土耳古人の臣民は回教界中少數を占むるに過ぎず。帝は其代官を全教徒中に置きて活動をなさしめ、殊に中央亞非利加の帝領に力を用ひたるがこれ回教の黑人を驅つて亞拉比亞人に反抗せしむべき望ありしを以てなり。亞拉比亞人は自己の種族がカリフとなるの權を固執し、動もすれば機會を視て土帝を倒さんとせしは之が原因なりと謂ふべし。近時に及びワダイに於ける土帝のカリフ權を恢復するが爲めに兵を發し、トリポリーを過ぎてフェッザンの南彊に至らしめたり。トリポ

リーは土帝の亞非利加に於ける最後の領土なり。之に就ては帝の政略佛國の利害と衝突し、記すべき事尚許多あり。抑ワダイが教界の元首とマーディーとして戴けるはセノーシー(ヂャブーブ第一セノーシーの子)にして、モハメットの女ファティマの直系に當り、カリフには最も重要なる資格を有せし者なり。前のソーダン「マディー」アブダラ、アーメッドがコレーシュの亞拉比亞族と關係ありしや否や審ならず。土耳古が北亞非利加に於ける佛國の勢力と暗鬪をなすや已に多年なるが、右は他章に於て更に述ぶる所あらんとす。

一八九九年の冬、獨帝はコンスタンティノープルを訪ひ、旋つてパレスタインに詣らんと圖れり。此時に當り希土戰爭は已に局を結びたるが、獨逸は交戰に關して土耳古に心を寄せて之を援け、其勝利に與つて力あり。但し土耳古太子の妃は獨帝の姉妹なりしも亦其一因なるや疑なし。獨逸の將校にして公然土軍を指揮せし者はあらざりしも、軍政上獨逸が土耳古の陸軍省に少からざる援助を與へらるゝが如き世人の知る所なり。則ち土帝が相當の敬意を以て獨帝を待つに吝ならざるも固より當に然るべし。而して獨帝の東遊を圖るや、小亞細亞の經營は其

目的の一に居れり。土帝は又之を助くるの意ありしなり。

獨帝の一行は皇后、宮女、宮內官、侍從武官、及び私に隨行せし者を合して一百人の多數に上り、獨逸の僧侶も亦ジェルサレムに於ける獨逸ルーテル敎會の神事に招請せられて皇帝の賓客たる待遇を受けたり。

土帝は獨帝を迎ふるに壯麗なる儀式と懇切なる情意を以てし、此處に君主は一見甚だ相歡べり。蓋し土帝の人となりは之に接する者を心醉せしむ。況や獨帝と會見の際希土戰爭に想ひ到り、土兵の操縱の巧なる歐人を驚嘆せし事を憶ひ起し得意滿面なりしかば、一層親しむべきを覺えしめたるなり。又獨帝ウィリアムの人となりは多方面にして事情に精通し且つ聰明なりしかば、何人も之に面謁する者をして滿足に堪へざらしめたり。已にして土帝は國俗に從ひ獨帝に許多の贈遺をなせり。

獨帝の一行はコンスタンティノープルよりマルモラ海、ダーダネル海峽、イージアンに沿ひ、地中海は則ちレヴァントよりヘーファに至り、此地に於て獨逸の少貴女等白衣を裝ひ、皇后の好める薔薇百合の花を着けて奉迎せり。

十月三十一日ジェルサレムの獨逸ルーテル敎會は神事を擧行せしが、其隅石は今帝の父王が尙皇太子フレデリッキたりし時置きたる所なり、

數百年來パレスタインに於て有力なりしは羅馬加特力敎、希臘敎、アーメニア敎にして、其勢力は傳敎より寧ろ政治に屬せり。然るに新敎は第十九世紀の初に至るまで是等の敎會と比肩するを得ざりし處、米國先づ之を導き、英普之に次でジェルサレムに敎正を置きしが、その任選はこの二國遞番に之をなせり。然るに英國の高敎派が之に反對せし理由は、聖徒の法嗣たる敎正をルーテル派と同視するに在り。余輩は敎正スタンレーの著はせるアーノルド博士傳に於て此論爭を詳かにするを得べし。

獨逸帝の一行は神聖式の終りし後パレスタインとシリアに向つて三週日の遊歷をなし、名蹟を訪ふて天蓋の中に起臥せしが、土耳古兵は始終之を護衛し、運輸及び兵站は此事に慣れたるクック之を擔當せり。獨帝は初め西班牙を過ぎて攝政后に逢ひ、ヂブラルタル海峽を通行すべき豫定なりしも、隨行の妃嬪等旅行の急速なりし爲めに疲勞せしと世間に秘せる或る理由とに因り、西班牙行を中止し、

トリーストに上陸をなし汽車に乘じて伯林に歸着せしが、此遊歷は凡そ六週日を要せり。

小亞細亞に鐵道布設の權を得る事が遊歷の目的中に數へられたるは余の已に述べたる所なるが、獨逸の土國に投じたる資本は頗る巨額に達し、獨逸人の村落はパレスタインとシリアの間に點々として散在せり。而して土耳古の財政は困難なりしにも拘はらず、バグノッドに鐵道を延長するの便を圖るが爲めに土國政府も亦少からざる金額を支出せり。蓋し此線路は土帝の最も希望せし所の者なりと云ふ。

此鐵道の布設は自ら土耳古の經濟發達を促せしがブラック・ウードに載せし一記者の言に曰く、若し獨逸の鼓吹に因つて斯くの如き好ましき結果を得べきならんか、願はく是非とも十分にして且つ自由なる意思に出でしめよと。果して其言の如し。而して政事上人道上の謀慮に於ても英國の懇切無私なる輔助を受くるに足るものあり。

或る論者は左の言をなせり。

吾人は數語を以て六大强國の土耳古に於ける關係を一括して叙述すべし。乃ち露西亞世襲の政略はコンスタンティノープルに向往するに在り。時として勢の不可なる爲め中止することあるも未だ曾つて之を懷に忘れず。佛國は露國の爲めに不幸なる孤立の境遇を救はれたるを德とし之を扶翼せしと雖、頗る信切を缺けり。而して一方に於て獨逸の土耳古に力を貸すあり。これ一は獨帝が土帝に對する親密の情誼に出づると雖、一はオットマン帝國の保全と云へる大局より打算せしものにして、英墺伊の三國は獨逸と歩調を同うす。

余は此章の終に臨みアブダル・ハミッドの自己に關して人に語りし所のものを記せざるべからず。こは一八九七年帝が合衆國の公使テルレルと半公半私の會見に於て談話せし者にして、當時帝は公使に向ひ其言の米國公衆に傳播せん事を希望せしが、右は一八九七年十一月のシェンチュリー雜誌に出でたり。凡そ個人的會見に關する歷史を叙する者は僞證を發く勿れ」との聖戒を服膺すべきが故に余は土帝の語を其儘に寫すべし。之を疑ふと信ずるとは讀者の思ふ所に任ず。

土帝は先づ言へり、苟くも親しく己れを知る者は決して酷虐なりとなさゞるな

りと。帝は進んで帝國に於けるアーメニア人の地位に關して言ふ所あり。これに據ればオットマン民族は戰爭の人民なるが故に商工業の如きは自然アーメニア人の手に歸し、アーメニア人は回教君主の治下に幸福を享くること已に四百年、其人民は尊敬を受くるのみならず、宗教の如きも亦寛容せられたり。然るに回教徒は何爲ぞ獨り宗教の故のみを以てアーメニア人を殺戮せしや。コーランは酷虐を禁ず、且つ何人も神を信ずる者は戰爭を除くの外保護すべしと命ずるにあらずや。余が祖宗なるセリム一世は以爲らく、若し臣民が都て同一の宗教を信ずるなれば帝國は更に强大なるべしと。或人シェーキ・ウル・イスラムに問ふて曰く、回教に改宗せざる基督教徒を盡く殺し玉はゞ合法と謂ふべきやと。シェーキは勅答を與へて曰く、これ合法にあらず、平和なる基督教徒は保護せざるべからずと。土帝は更に父帝と自身とが愛撫保護せしアーメニア人の數を詳說し、アーメニア人にして金錢を賜はり宮中の恩顧に浴せし者の浩瀚なる名簿をテルレル氏に授けられたり。

テルレル氏が老宣教師レヴァレント・サイラス・ハムリンの米國に齎らし歸れる報

告書に暗示せし言に據れば、ハンチャジストが東部の土耳古人に暴害を加へし事を圖りたるは、これ土耳古人が其復讐として暴行をなすを豫想し、之を口實として歐洲の干涉を致さんとするの計畫なり。

土帝は終りに臨みテルレルがシリア及びメソポタミアに甘薯の培養を導きたる盡力に對して滿足を表して曰く、人類に善き者は善き宗教なり。教祖モハメッド嘗つて言へるあり。曰く、茲に卑陋の人あり、酒に倒醉して豕の如く酣睡し、起つ能はざるが如き醜體を演ずるも、若し悔悟せば其罪を赦すべし。然れども若し故意に人の心を破る者あらば決して赦すべからずと。

余は復た言はんとす。憐むべきかな土帝と。歐洲に於て斯くの如く憫むべ人を見ず。其帝國には秘密會社の並び立つこと蜂窠の如く、國庫は空乏に陷り、債主は督促して已まず人民は稅吏の不正なる收斂と高官の壓制なる處置に對して怨嗟の聲を聞くに堪へず。而して又六强の畏るべきあり。縱令盡く畏るべからざるも其中の五强は竟に畏れざる能はず。且つ巴里に於ては少年土耳古人各種の新聞紙を公刊し、佛語のものあり、土耳古語のものあり、又革命委員の如きも許多の組

織を有せり。而して宮廷の中に於ても革命思想の發作あり反動あり。二十二年間無効に歸せる一八七八年の憲章復活の風説は絶えずアブダル・ハミッドを刺撃せり。

數年を經て進歩主義を抱持せるキアミル・パシャは英國公使の推薦に因つて首相となりしが、未だ幾くならずして、トリポーに竄せられたるが、近日此處より英國船に搭して出奔せり。これミッドハット・パシャと同一の運命に遭遇すべき恐ありしを以てなり。其免職せられたるはキアミル・パシャが土耳古政府の實權は「ポルト」の諸大臣に在るべく、宮内省に在るべからざる事を公言して少しも忌憚する所なかりしに因る。

コンスタンティノープルのオットマン銀行に對する侵害は改革黨の進勢を阻すること數十年に及べり。之を計畫せし者が嘗て其黨與に首唱してスタムボール全體を燒かんとせし事あり。此スタンボールはコンスタンティノープル中木造家屋の區なり。其後彼が其同志と逃れてジェチヴァに在りし時同志の一人は笑ひつゝ曰へり、これオットマン銀行を取るより容易なりしならんと。答へて曰く、然り數千倍

易しと。

第五章　クリート　セッサリー戰爭

クリートは余が地理を學びたる時カンディア島の名あり。中世の間西歐羅巴諸國は等閑に付せし處なり。其歴史は幽晦は免れずと雖、往々口碑に上れる人物と著るしき事件とあり、一點の微光暗中より漏るゝを見る。イドメニュース、メリヲチスの二人がトロイ戰爭の時一部隊を率ゐて希臘軍に加はりしが如き、アレキサンダー帝國已に瓦解し、シリア埃及の兩國互に干戈を交えたる時、クリート人が彼此の客兵となり、大に戰爭に與りたる如きこれなり。

次に一般の讀む者がクリートに就て知る所は、聖徒ポールが島民の性質に加へたる惡評にして、ポールは同島に駐錫せる基督教最初の教正タイムスに與へたる書中、或る希臘の著書を引いて曰く、クリート人は常に言を僞り、懶惰にして大食、惡獸の如しと云へるは信なりと。

是非の論は姑らく置きクリート人は今日に至るまで尚此惡評を脱する能はず。數週日以前余は一雜誌を讀みたるに、其中クリートの事と思はるゝ一節あり。題して「僞言者の中に」と云ふ。余は亞拉比亞に渉れる記事を面白く讀みたるが、其記せし所は亞拉比亞に左の如き小說あり。シターンと云へる者は僞を盛りたる袋を背に負ひて旅行を試み、其徒の各地に在る者に僞を分配せんとなしたる處、北亞非利加の或る地方を經過せし際、袋に破綻を生じ多量の僞を亞拉比亞人の中に洩れ落したりと。若しこれにしてクリート人の性質を寫したる者ならんか、其僞の進歩せし所以は他にあらず、九世紀頃亞拉比亞人が此島に移住し、沿海の港灣に富めるを幸として海賊の巢窟を營みしに因らずんばあらず。

蓋し詐はレヴァティン族の通性なるが上に、希臘基督教徒は不信の俗習なりし事は回教徒の基督教に對する憎惡の念を長ぜしめたる者にして、商人と旅客とが土耳古人の正直なるを認めたる處は伊太利以東の地中海岸に過ぎず。余の父の時代に然りしとは余が父より聞きたる所なるが、父は昔ナポレオン戰爭の當時地中海の附近に十年の歲月を送りたる人なり。而して之を今日の旅行者に聞く

も亦皆然らざるなし。唯外交に關する土耳古政府の言と基督敎の保護に關する違約とは此限にあらず。此約束は勿論基督敎列國の強ひてなさしめたる所なり。土耳古人の說に據れば世界は只二種の人民より成る。其一は神祐に因り基督敎文明と戰つて終局の勝利を制すべき回敎徒にして、其一は改宗により、朝貢に因り、利器に因り、究竟回敎に低首すべき非回敎徒に外ならず。回敎徒は新權に憑つて特權ある人民にして、異敎徒は之と雜居する限り、若し回敎徒の心を失ひ或は之に順從せざる時は、アーメニア人と同一の處置を受くべき者なりと。吾人は紀元九六一年に至るまてはクリートに就て聞く所なし。此歲希臘東羅馬帝は一將軍を遣はしクリートを征略して之を帝國に併せたるが、これを第一十字軍の一百年前となす。

已にして一二〇四年ラティン人がコンスタンティノープルを取るや、モンフェラット侯ボニフェースはクリート島を得たり。此人はコンラッドの後を襲ひ該地の諸侯たりし者にて、コンラッドはスコットの「タリスマン」に標出せらる。

ホニフェースはクリートをヴェニス人に賣りわたせるが、ヴェニス貴族の惡政はホニ

フェースより更に甚しかりき。これ他なし、ヴェニスに在りては異敎糺彈の甚だ酷虐なるを以てなり。之を以てクリートは文獻の遡る所、叛亂、暴舉、黨爭、殺戮、戰鬪の事、史に筆を絕たず。土耳古人は一六四五年に至り、初めてクリートの征服を圖り、交戰二十四年の久しき纔に其志を遂げ、之より以後一八二〇年希臘叛亂の作りし迄は殆と聞として聞く所なし。之より先きたゞ旅客が其土その古領に在りて最も惡政の地たるを言へるあるのみ。それ然り、數千人の基督敎徒は地方政治に參與せしが爲めに敎籍を脫し、今日クリートの回敎徒は實に其子孫にして、クリートに於ける是等回敎徒と基督敎徒との劇爭は輓近の紛擾に與つて力ある者なり。近時の旅客の云ふ所に據れば、クリート山民の一體スファキオットは立派なる人民にして屈、自由の爲めに戰ひ常に能く之を保てり。身材高く毛髮美しく、快活なる野性を有し、面貌は英國の東郡の土人と相類する所あり。各、鐵銃を携帶し、時に臨んで之を用ふるに躊躇せず。クリート內地の險惡なる山谷に據り、獨り土耳古軍を敗るのみならず、土耳古人をして敢て城邑を出づる能はざらしめたり。

一八二九年歐洲列强が希臘の獨立を認むるに當り、クリートは切に希臘王國に

編せられん事を望み、已むなくばサモスと同一の特典に霑はんとせり。これサモスの人民が繁盛にして幸福を享くるを以てなり。然るに英露佛の三國は相謀つて之を當時有力なる埃及の總督メヘメット・アリーに授けたり。

一八四〇年英佛の葛藤に因つてクリートが復び土耳古に還附せらるゝや、島民は又異議を唱へ、是非とも希臘に合せんとして終に變亂を謀れり。

變亂の第一擧は一八五九年に在り。次は一八六七年に在り。この時に方り土耳古はオーマン・パシャを遣はして之を討たしめし處、スファキオットは之を破ること二回、其一回の如き敵を殺す二萬人の多きに及べり。蓋しクリート叛亂の狀に在ること前後六十年の久しきに亘る。

列强は一八七八年十一月を以て土耳古に迫り、改革の約劵をクリートに與へしめたるが、これ所謂ハレバの約束なる者なり。但しクリートが終始戰爭を繼續したる事は土耳古をして此約束を履行せしめんが爲みのみ。

一八九六年に起りたる人種上の殺戮はかのアーメニアに禍せし者とその轍を同うせり。當時クリートの知事は希臘敎徒にして、之を任命せし所以は東羅馬帝

に對する約束を履行するに在り。右は固より公然の事に屬す。然るに土耳古政府は彼が努力して平和を保たんとするを妨げ、憲兵の支給を拒めるが上に土耳古の武官は彼の權力を壓倒じて何等の施設を得ざらしめたる爲め、辭職の已むを得ざるに至りしが、回敎徒と雖亦深く其去るを惜めりと云ふ。

之より以來時事日に非にして、「ボルト」は將軍をして革命を鎭壓せしめたり。然るに猛獰なるスファキオットの獨立隊は回敎徒を殺して其田畝を害し、其クリートに於ける宛もクルドのアーメニアに於けるが如し。

抑ハレバの約定は基督敎徒に對し公道、容忍、均稅及び政權の一部を許せし者なり。然るに毫も實行せられざりしかば、クリートの基督敎徒は之を促せしと雖、土耳古政府の期する所は、叛亂を鎭むるに讓步を以てせずして勢力を以てするに在り。

各國領事は各本國政府に打電して、土耳古をして約束を履行せしむべき責任を盡うせん事を警告し、或は軍艦の派遣を請ふ者あり。已にしてカニア市に虐殺の起るや希臘は之が爲めに激昂し、クリートの亡命者は群を成してアゼンスに逃

れ、回教の孤兒のコンスタンティノープルに救濟を受くる者數百人に及ぶ。アゼンスに於ては公論沸騰、希臘政府が起つてクリートを救はざるを咎め、若し民心を容れざるときは暴動の恐あらんとす。

墺地利公使の本國に送れる公文に曰く、現今の地位より之を言へば其責全く土耳古人に在り。希臘人の如きはクリートに蠻行あるに際し、之を傍觀するを欲するも復た得べからずと。英國領事ピリオッティー(今のサー・アルフレッド)はソーリスベリー卿に電報を送つて曰く、土耳古兵の過ぐる所刼盜と放火の跡を留めざるなしと。蓋し氏の所謂土耳古兵なる者は恐らくクリート回教徒より補充したる別動隊のバーシ・バヅークを指すならん。何となれば他の外交官は土耳古正兵の訓練と善行とを稱贊すればなり。

露國の外務卿ロバノーフは墺國を誘ひ列國に提議せしめて曰く、宜しく封鎖を行ひ、希臘よりクリートの暴徒に給する武器と義勇兵とを遮斷すべしと。然るにソーリスベリー卿は之を斥けて曰く、クリート人が訴ふる所の疾苦は根柢頗る深し。今若し此擧に出てば亂民の怨を買ひ仇を結ぶに至るべしと。又曰く、アーメ

ニアに多起りたる事件に照らすも、土耳古が戰勝の後寛典を施すことは望むべからず。故にわが陛下はクリート人の活動を制遏すべき干渉に與るを憚ると。是に於てクリート封鎖の擧は行はれずして止み、終に何等のなす所なかりき。蓋し如何なる契約も土耳古政府を束縛するに足らず。是に於て外國の擔保は全く無用に歸す。

一八九六年六月基督教徒なるペロヴィッチ・パシャはクリート島の知事となり、善後の策として一部分の自治を許さんとし、一は以て法廷の改良を圖り、一は以て憲兵を編成するが爲めに委員を設け、島會に議員を撰擧せしめ、これに因つて數週日の間は島内靜謐を得たり。基督教の議員は基督教民との双方へ意向を告示して曰く、同一の國の民にして同一の人種に屬する以上、互に相爭はずして平和を享けよと。爰に希臘に逃れたる基督教徒の次第に還り來れる者千を以て數ふべし。然るに其田畝は已に回教徒の占領する所となりしかば、勢兩者の間に爭を生ぜり。然れども双方とも衷心爭を止めんとするの志あり。何となれば新知事は在れども、なきが如く、約束從つて改革を施すべきの實行を得べきや否や覺束なかり

しと雖、此歳は橄欖の收穫尤も有望にして、苟も其利を享け幸福を得るは平和に限るを以てなり。土耳古の官吏は中央政府より内訓を受くる所あり。而して回教徒は將に改革に抵抗せんとするの色あり。

一八九六年の夏、六强と土耳古帝の代理とか妥協に出てたる時に方り、英國の領事ビリオッティーの本國に通信して曰く、從來の孤危の境遇を脱するは基督教徒と回教徒に取り共に幸福なるが如し。然れども前議の施設を行はんとせば、雙の協定に對して一層善意を望まざる能はず。而して基督教徒より寧ろ回教徒に對して善意を望まざる能はずと。

此通信の墨痕未だ乾かざるに、カニアの近村に基督教民虐殺の變あり。彼等は庇護と安全とを得らるべしと信じて歸り來りし者なり。

尋て殺戮焚燎等の惡虐は四方に蔓延し、基督教徒は山に避け、回教徒は沿海の都市に逃れ、歐洲列國は軍艦を派遣して事件を監視せしむ。未だ幾くならずして再びカニアに殺戮行はれ、市街は放火せられたる處、軍艦より喞筒を送つて消防に從事せり。而してカニアの基督教徒は皆外國船に難を避けて甲板の上に群集し、

市中に一人の留まるなし。

全島到る處回教徒は盡く武裝せり。翌日島會の開くるやクリートを希臘に併合するの議決をなし、右畢つて希臘の國旗を掲げ、島中の基督教徒は希臘王ジョージに臣徒の誓を取れり。アゼンス人は之を聞きて慨然奮ひ興り、國王がクリートに兵を發して應援すべき事を主張せしを以て、陸軍大佐ヴァッソスは三大隊を率ゐて進發せり。これより先き約束の自治制度は毫も履行せられず、列國の計畫は水泡に歸したりと雖、希臘がクリートに干渉して其企圖を破るは列國喜ばざる所なり。然れどもヴァッソスは遂に能く其軍隊を率ゐて上陸に及べり。

夫れ希臘の軍隊は同朋なるクリートの基督教徒を助けんが爲めに來りし者なり。則ち敵を以て之を待つは列國の忍びざる所にして、又敢てせざる所なり。然れども歐洲の平和と云へる四字は世界の利害上第三等國の熱望を遂げしむるより大なる者あり。クリートの處し易からざる所以實に茲に在り。且つ希臘が自ら内訌に苦しみ財政に窮するに方り、能くクリートの秩序を恢復すべしと謂ふも誰か敢て然りとなさん。況やクリートの事情手を下し難き者あるはエム・ド・ブレ

スセンセーの言の如くなるをやそのその言に曰く、イジアン海に横はれる此島には人種上宗教上激烈なる紛爭あり。多數なる基督教徒の怨恨と讎敵とに當れる少數なる回教徒あり。即ち一八九六年以後の殺戮は基督教徒の被りたるにあらずしてなせしなり。回教徒のなせしにあらずして被りたるなりと。

六大強國は彼等の小兒視する一小國の爲めに恐弄侮蔑せらるゝに堪へず、希臘に向つて撤兵を迫り、カニアを繞繞せる丘陵の上より希臘の國旗が列强軍艦の面前に翻々たるを見るや、直ちに其處の防害に砲擊を加へたり。グラッドストン氏其國人に謂ひて曰く、これ羞惡なる手段を遂げたる者なりと。

ソーリスベリー卿は更に平和自治の兩策を建て之を決行せんとせり。これに據ればクリートは名義上舊に依つて上帝を戴き、基督教徒なる總督を有し、島會は全くコンスタンティノープルの覊絆を脱して獨立し、希臘は其兵を退け、全島の秩序復舊するに至るまで土耳古の工兵は島中に留り、軍事警察を行ふ事となるなり。列國はクリートの併合を諾する能はざる旨を希臘に通牒せしも、希臘は尙ほ之ソス大佐を召還せざりしが、その北疆に於て土耳古と戰端を開き敗軍するに及

んで、初めて之に歸國を命ぜり、當時クリートに在りし希臘官吏は大抵義勇兵として從軍せんが爲めに其任を辭せり。

一八九七年クリートの回教民は其田畝と橄欖園とを失ひ、二三の城市に閉居せしめられ、城市の周圍には哨兵線あり。人畜に論なく、若し一歩その外に出る時は國際的保護を失はんとす。又基督教民は多く山中に遁逃して難を避けたり。此時にクリートの沿海は封鎖を被りしかば基督教徒は武器輸入の途を絶たれ、回教徒は食料供給の便を塞がれ、城市の中に閉居せし者は尤も飢餓に苦めり。已にして土耳古兵の撤退に關し、「ボルト」と海軍將校との間に論議を生ぜり。會、英國の海軍提督ノーエルはクリート人を用ひて農稅を徵收すべき計畫を行はんが爲めカンディアに海員を派遣せし處、クリートの回教徒と土耳古の亂兵とは之を襲擊せしかば、此事件の爲め土耳古文武官の衝突は久しからずして止めり。英國の海員の殺されたる事は頗る危機を促し、シーフォルス・ハイランダルの一派は上陸して秩序を復せんとしたるに、吏卒共に害に遭ひし者數人に下らず。

苟も土耳古の戍兵クリートに留る間は、信義公正と云ひ、平和幸福と云ひ、宗教慈

惹と云ひ根柢を有する能はざる事は明白となれり。英國は其兵士と海員とが襲撃を被りたるに困り、コンスタンティノープルに於てクリートの難問題を決するに就て第一着の權利を執れり。而して此時に至るまで獨露兩國は共に希臘の王室と婚姻の關係ありし爲め常に異議を挾めり。

然れども結局列强の協定に因り、土耳古は君主の虛名を維持するに止まり、クリートの政權を擧げて盡く之を放棄することゝなれり。是に於て土耳古兵は島地を去りクリート回教徒より成れる奇兵は兵器を土耳古の軍隊に交付し其武裝を解けり。

クリートの管治者は列國の推薦せしもの少からず。而して英國は英人若くは土耳古人にあらざる以上何人たりとも承諾すべき由を述べ、私にリュクセンブルグ人、デーン人、モンテネグロー公子等を推薦したる處、露西亞は希臘王の第二子ジョージを提起し頗る列國を驚かせり。王子は露帝が太子たりし時遊歷の伴侶となり、太子が日本大津に於て兇漢に襲はるゝや之を救ひたる人なり。ポルトは之に反對して謂ふ。ジョージの撰定はこれクリートを希臘に併合するの地をなすものなりと。已にしてジョージは希臘の王位を繼ぐべき權利を拋棄し事局は終に滿足なる協定を得たり。

事局の極めて其滿足なりしは下の語に徵して之を知るを得べし。「クリートが內亂に因り、外寇に因り、虐政に因り、四分五裂の狀に在りしこと二十五年、忽にして自國の人種に屬し自國の言語を用ふる治者の下に、自由を享け善政に浴せり」。ソーリスベリー卿の自治方案は最初クリート人に悅ばれざりしが、これ從來此種の案は極めて數多なりしも、一として實現せし者あらざりしが故なり。且つ回教徒は以爲らく、自治なる者は基督教政の謂にして、我特權ある地位の喪失に外ならずと。而して彼等の最も憂慮せし所は、基督教徒が一旦勢力を得る時は己れに對して舊怨を報ずるに在り。

列强の不活動不決斷なる爲めクリート問題は懸案となつて久しきを經たるも、結局クリートに於て眞正なる自治の設立を見るに至り、全島の人口七分の五を占むる基督教徒は回教徒を沿海の都市に鎖し、歐洲人は封港を以て其供給を杜絕せり。暴徒は回教の民落を燒き、基督教徒の邑里橄欖園の如きも亦非常の損害

を被れり。

曩にセッサリー戰役の後、土耳古政府より命ぜられてクリートの知事となれるエドヘム・パシャはカナディアに於て英兵を攻擊せし事實を非認せるも、英國は土軍が該島を撤退せざれば滿足せざりしかば終に之に從へり。旣にして四强は土耳古政府の承諾を經てジョージを以てクリートに於ける四强の高等委員となし、三年の期限を以て託するに主權を以てし、列國間の分爭も玆に至つて暫らく中止せり。

一八九八年十二月二十一日ジョージ公子はカニアに入りし處、クリート島民の熱情は殆ど窮まる所を知らず。蓋しジョージの卽業は殘破の遺墟を變じて文明國となすに在り。ジョージを以て全く斯くの如き任務に堪へざる者と思ひし人も亦少からざりしと雖、戰鬪を好める山民スファキオットの如きは輙ち之に服從せり。これ五十年間如何なる官憲も曾つて綏撫する能はざりし民族なり。回敎徒に至つては容易に懷柔する能はざりしも、公子は全力を用ひて之を化せんとせり。然るに土耳古の有司は百方公子の計畫を妨げ、回敎の細民を誘導して曰く、ジョージの政

令に從ふよりは寧ろ移住するに若かずと。之が爲めクリートの回敎徒は公子の意思を曲解し、小亞細亞に移る者七萬人の多きに及べり。但し其中には望鄕の念に堪へずして歸土の志を生ぜし者あり。

都會に住する回敎徒と田土を有せる土耳古人とは今や熱心に公子を奉じて其政治を輔翼せり。

近日希臘女王(露國の大公爵夫人)は王子を訪ひし時、回敎徒の貴婦人が來つて謁見するや、一々自ら答禮せられしを以て公子の人望日に加はれり。公子は又常に回敎の寺院に詣りしのみならず、內務卿(所謂顧問)は回敎徒なりしかば、益〻人心を得たり。此內務卿は治安の責を負ひ憲兵を統べたる者なり。

クリートは憲法を有し民會を有せり。而して民會は法律を定め、租稅を課し、公費を制するの權ありと雖、行政に干涉するを得ず。公子は內閣を經て政治を行ひ、其實權は國王の如く又大統領の如くなるも、其位置其名稱に至つては異例破格なりと謂ふべし。何となれば公子は四强の高等委員なり。其任期は一九〇一年に至つて終を告ぐるなり。然るに其政治の宜しきを得たる再任せらるべきは毫も疑

を容れず。近日の「ヂーシ、ン」に希臘人の寄稿せる一節あり。頗る參考するに足るが故に之を左に錄す。

公子が非常の重權を授けられ、而して民會の權が立法のみに限られたるは、斯くの如き政治上幼稚の民にして怒り易く激し易き人種に在つては自ら然らざるを得ず。縱令數百年間內亂虛政の爲めに疲弊せざりしとするも亦當に然るべきのみ。試に見よ、希臘本部の如き、誤つて早く代議政體を採用せしが爲めに、僞政治家をして國家を誤らしめたるにあらずや。普通選擧は議院制度を腐敗し畢りたるにあらずや、クリートは一八七八年ハレバ會議の結果、十一年間クリートの政弊は之とその轍を同うして更に甚しく、其自治なる者は破廉耻漢をして臘官を事とせしめたるのみならず、少數黨は常に土耳古任命の總督と結托せる多數黨に反對の隱謀を企て、殊にコンスタンティノープルに於ける該總督の私讎と氣脉を通じて總督に反せんとし、多數黨は又武力を以て少數黨を山間に驅逐せり。それ然り、議院制度に必要なる自制心の存せざるクリートの如く、而して物質上社會上の革新を要するクリートの如き、將來一般の狂

想情熱を超脫する鞏固なる政府を要するなるべし。

セッサリーの戰爭は歷史上三十日戰爭と稱すべきものなり。何となれば實際の交戰は一八九七年四月十六日より五月十八日に亙りしを以てなり。而して其原因は英、獨、露、墺、佛、伊の六國が劇烈なる外交的商議の後、土耳古、希臘及びクリートの事局を處理せんとしたる絕對的命令に反抗するの意に出でたり。

希臘と土耳古とは各、夙に戰爭の準備を講じ、土耳古は動員八萬二千人にして、多くは小亞細亞より取りたる「レディフ」即ちレザルヴィストに屬す。希臘は外國に住する凡ての希臘人を招きて軍隊に加はらしめ、紐育より船に乘じて來り會せし者頗る多く、伊太利に於ては伊太利自由の成立せし時解除せられたる赤シャツの一隊は乘つてガリバルディーの麾下に集れり。世界各處の精神家は希臘に同情を寄せ或は後援を與へし者あり。當時文明諸國と希臘自身の說に就てはジー・ダブルニー・スティーヴン下の如く述べたり。

土耳古の軍隊は食料不足にて衣服は僅に半身を蔽ひ、不健康不秩序の無頼漢に過ぎず。一日と雖文明なる希臘軍と對戰する能はざる者なり。故に歐洲に於

て東洋の事情に通ずる者は土耳古を危めり。これ今日に在りては殆ど信ずべからざる事なれども、當時の事實斯くの如し。而して希臘人も亦自ら必勝を期せしなり。兎角する間に土耳古は武裝して起ち、政府は日々公報に因り出征の兵數を示せしと雖、世人は概して信を措かざりき。これ土耳古が外國人の從軍視察を許さゞりしが爲めなり。これ故に新聞紙の報告は人をして土耳古の陸軍より發せる公報上の兵數は反つて實數に超過せる者なる事を感想せしめたり。然れども其實コンスタンティノープルの報は正當なり。而して動員は遲緩なりしと雖、着々として行はれたり。勿論動員の便は獨逸與つて力ありしと雖、亦土耳古豫め之が準備を講ぜしに由らずんばあらず。其準備とは何ぞや、コンスタンティノープルよりサロニカに達する直線の鐵道これなり。蓋し土耳古の海軍若し整頓せしならんには豈復た此鐵道の必要あらん。然るに希臘の艦隊は外觀に過ぎざるも儼然として多島海を制するが故に、土耳古は海路に緣つて兵員糧食を輸送する能はず。是に於て獨りサロニカ線に依頼するの外其途なく、亞細亞の豫備兵は數週日の間戰陣に加はるを得ざりき。

戰端を開きし者はエスニケ、ヘタイリアなり。これは革命協會にして普く委員を派出して苟も希臘人の在る處は煽動挑發至らざる所なし。此時に方りアゼンス人は列强がクリートを處するの濡滯なるに堪へず、頗る激昂せるに際し、列國は斷乎として希臘がクリートを併するを禁止し、加之該島を封鎖せしかば希臘人は亂徒に兵器糧食を給するの道を失へり。而して列國はこれに止まらず、亂徒の掲げたる希臘の國旗に砲擊せし爲め、希臘人は復た忍ぶ能はず。若しジョージ王が全歐を敵として土耳古に對して宣戰するにあらざれば、革命を謀り王位を廢せんとせり。ジョージは斯くの如き脅嚇に遇ひ、其位を失はん事を恐れて國民的運動の牛耳を執れり。

之より先き一八三〇年列國が希臘の疆界を定むるに當り、セッサリーとエパイラスとは之を除いて其版圖に入れざりしが、其後一八七八年に至り伯林會議が東歐の形勢を論定するに當り、希臘人は以爲らく、列國曾つて此二州並にマセドニアを土耳古より奪つて己れに與ふるの約束あるが故に、今やその履行を得るなるべしと。最初列國はこの約束を行ふの意なく、又敢て之を拒まず、曖昧の態度を

取り來りしが希臘の强請終に列國を動かし、一八八一年特別の條約に因つてセッサリヤを希臘に與ふる事となれり。これ一は希臘の亂賊をして土耳古を侵さゞらしめんが爲めなり。已にして一八九七年列國は希土兩國に通牒して曰く、苟も列國の意見に從はず承諾を待たずして先づ戰端を開く者は二國孰れにもせよ戰勝に因つて利する所なかるべしと。

希臘人は希臘と云へる名聲を賴めり。アーメニア虐殺の爲めに土帝に深恨を抱けり。是に於て基督教國の俠義を恃む所あり。以爲らく、必ず救援の擧に出て土耳古をしてわが土を侵し、わが民を殺し、わが財を掠めしめざるべしと。是に於て列國がクリート問題を國際事件として自ら之を處理せんとし屬、此意を希臘に告げたるに拘らず、希臘人は遍く其民族の各國に在る者を招き、國家の安危を共にせしめんとせり。一八九七年の早春に於て希臘の兵は疆上に向ひ、土耳古の軍はサロニカに陣し、兩軍とも希土の界なる連山を攀ぢて進めり。土耳古の元帥をエディム・パシャと云ひ、善人にして良將なるも只「活」の一字を缺けり。「活」即ち休止せざる行動は基督教文明の特色にして東方文明と異る所なり。土耳古の諺に曰く、遲緩

は神に屬し、急速は魔に屬すと。エドヘムの軍略は實に之を證する者と謂ふべし。

英米二國の新聞社は各〻通信員を戰場に派出せしが、其中リチャード・ハルディング・デヴィスは希臘軍に從ひ、ジー・ダブルユー・スティーヴン、ベンヂット・バレーの二人は土耳古軍に從ひ、各〻其見聞と感想とを冊子として世に公にせり。

土耳古の通信員はサロニカに集れり。サロニカは彼等が名けてスパニッシ・デューの都市と云へる處にして、住民はファルディナンド、イサベラ及び宗教糺彈の爲め故國西班牙を逐はれたる者の血統に屬し、今尙故國の語を用ふ。墺地利が將來土耳古分割の日に於て其有となさんと欲する所は即ち此サロニカの地なり。

サロニカの土軍は毫も活動せざるより、通信員は厭倦に堪へずして土耳古の輜重に觀察を注ぎ其奇觀にして効力あるに一驚を喫せり。蓋しコンスタンティノープルより鐵道に由り輸し來れる物品は更に小馬に駄して之を戰陣に送ることなるが、武器あり、ビスケットあり、秣草あり、凡そ五萬人に供給すべき糧具は皆之を馬背に積み、陸續として山を越え河を渡り目的地に運搬せり。通信員は又土耳古の病院を參觀せし處、清潔にして秩序あり、其外面には一個の時計を懸け、其刻文

に據れば英國の水夫が疱瘡に罹りし時、此病院の治療待遇宜しきを得たるより英國政府が之を表彰せんが爲めに贈りたる者なり。

通信員は終に土耳古政府より特別の許可を得て前面に往きたるが、一八九七年三月二十八日、忽ち希臘の山賊が國境に侵入せりとの報あり。時に土耳古兵はセッサリー、マセドニアの界をなせる山岳の麓に在りしも、空しくイルデッより開戰の電報を待ち敢て動かず。エドヘムの本營を置きたるエリッソナと云へる小都邑は一帶の丘陵に沿ひ、丘上は即ち希土の界にして兩國の防舍互に相接し、近く望中にあり。守兵時に小衝突をなせり。

マセドニアよりセッサリーに至る山蹊には二途あり。一をメリュナとなし、一をレヴェニーとなす。希臘兵の一大隊は山賊の名を以てマセドニアを侵すこと二回、希臘の士官僞裝して之を指揮せり。然れども得る所なくして終り、希臘政府は此侵寇に就ては責任なき事を宣言し、罪をエスニケ、ヘタイリアに歸せり。

四月十六日エドヘム・パシャは攻勢を取るべき命令を受けたり。然るに其前日希土の二兵はアナリプシス山頂中立の地を爭ひ、希兵の勝に歸せり。蓋し此地たるセッ

サリーのオリムパス麓に出づべき、メリュナの要路を扼せる者なり。

エドヘム・パシャ已に攻擊の許可を得しかば先づメリュナの要路を占領せんが爲めに砲兵動作に出て、リザ・パシャ之を督し頗る運用の妙を見はせり。其他土耳古有名の將官にハネスハット・パシャ、メムデューク・パシャ、セーフーラー、バムディ、バイリー諸パシャあり。ネスハットはコンスタンティノープルに長じたる人にして、今やアドリアノープルより少壯のアルバニー人より成れる精錬の歩兵三大隊を率ゐて來りしも、彼は初より如何に之を用ふべきの成案なかりしなり。已にして機到るや土の歩兵は希人が砲臺の排列したる山頂を攻擊し、又他部の歩兵隊は其側面を突き、驍勇なる健兒の小隊はドモコーに於て殆ど全滅を致せり。メムデュー・パシャは老將にして武名あり、多く部兵の心を得たる人なれども獨り無學無識なるのみならず戰術に至つても何等の智識を有せざりき。ハイリーとハムデーは遲鈍無能動もすれば時機を失ひ、セーフーラーは曾つてアゼンスに於て土耳古公使館武官たりし事あり。希臘の官吏と其地理とに於て知らざる所なかりしかば上官の股肱として稗益を與へたる事勝げて言ふべからず。

希臘の元帥は太子コンスタンティンにして其參謀はアゼンス交際場裏に有名なる貴公子にして太子の昵近せる者より成り、太子の弟ニコラスも亦共に軍中に在り。而してジョージ公子は小艦隊を率ゐてクリートの岸を去りしが、これ「巨大快活、戲謔なる海狗」と稱せられたる人物なり。

第一日の戰爭はメリュナの山道に始まり、土耳古兵は之を俯瞰すべき丘巔を取りてこれに據り、日已に暮れければ交綏せり。翌朝土耳古兵は再び戰はんとせしに希臘兵は隻騎を留めず。蓋し之より先きセッサリーの一大都邑ラリッサに退却せし故なり。

レヴェニー道の一方はスモレシスキ將軍之に當り、副將マヴロミカリー亦無比の良將なりしかば防禦頗る効を奏し、マティーの戰の如き希臘人の勇敢を證するに足れり。然るに太子はスモレンスキ將軍に命じてラリッサに退却せしめたるが、これ其四面敵に圍まれたるを以て復た已むを得ざるの處置と謂ふべきなり。

土耳古兵はメリュナレヴェニーの二道よりセッサリーの平原に出で、直ちにラリッサに進めり。然るに至れば則ち希兵は已に去つて影なく、土民も多くは刼掠を恐れて

逃散せし後にして殆ど土耳古兵の意外に出づ。

左に錄する所はスティーヴンがラリッサに入りたる時の實況を記せし者にして、氏の目擊に係る記事は、他の諸通信員の確認する所なり。

斯くの如き支離滅裂なる紛擾の狀態は恐らく未だ曾つて見る能はざる所なるべし。馬鞍は處々に散亂して堆を成し、軍隊の文書は翩々風に隨つて空に舞ひ、此處に背嚢あり、彼處に軍帽あり。砲車は輪碎け轍斷じ、塹濠の上に覆へり。彈藥までも委棄するに至つては何たる醜體ぞや。夫れ兵士は何物を棄て去るも尙多少の望なきにあらず、彈藥を棄つるに及んでは最早取る所なし。又路傍に累々たる希臘兵の遺屍を見たるが其腫れ上りたる面上には蠅の群れる爲め黑色をなせり。これ希軍が潰走の際其同胞を殺したる者なり。

余は他の人々よりも亦同一の說話を聞けり。希臘人の退去するや初め暫らくティナヴォーの小都邑に憩ひ、金曜日の夜此地を去りし時は非常に狼狽を極めたり。此夜太子はラリッサに到りしも午前二時を以て去れり。風聲鶴唳に驚きたる敗兵は秩序を失ひ訓錬を忘れ、終夜騷がしく市中に闖入し、翌日ファラサラに向ひたるが、

此際獄中より二百人の罪囚を出だし、之に武器を授け終夜盗殺の公行を見たり。然るに日曜の朝土耳古人は來れり。……希臘人の遺棄せる都邑、城邑、銃砲、武具、衣服、食料、秣草等盡く土耳古人の手に歸せり。即ち希臘人は一切を失へり。其名譽を併せて之を失へり。

希臘人は戰に敗れたるにあらず。唯自ら砲火の戯を演じて自滅せしに過ぎず。而して其逃走を率ゐたる者は即ち元帥なる太子なり。又其參謀等が逃走の途中鐵道に於て快樂の設備をなしたる奇談あり。是に於て國人と雖尚罵つて曰く、希臘の細民はマラソンよりの競歩に勝ち、希臘の太子はラリッサよりファルサラに至る競歩に勝を得たりと。

然れども斯くの如き醜躰を極むる敗走をなせし者は希臘人の一部に過ぎず。スモレンスキの麾下に從へる一萬二千の兵はレヴェニーの山道を過ぎ、ヴォローよりファルサラに達する鐵道の南側に屯せしが、此沿路中の要衝はヴェレスティーとなす。右はラリッサを距る四十哩の處に在り、其名甚だ顯はれず。プラサラは都邑にあらずして大村なるが、希臘兵の此處に集る者殆ど六千人、其地形は防禦に適せり。希

臘の兵略はニドヘム・パシャの鋭鋒を避けて其必勝の策を齟齬せしむるに在り。而して希臘はファルサラの地利を阨するが故に、或る人は云へり。此敵に向つて戰はんと欲する者は之に勝る要地を得んが爲めに歐洲半部を採り盡さゞるべからずと。土耳古は前後三回ヴェレスティノーを攻擊して逐斥せられしが、これスモレンスキの兵が善く主將を奉じ勢少しも阻喪せざりしに由る。已にして土耳古は又一萬二千の兵と四個野戰隊を以て第四回の攻擊をなせり。これを五月四日となす。是に於て兩軍復びヴェレスティノーに戰ふこと一日半に及びし處、五月五日太子はファルサラよりデモコーに退き、スモレンスキに命じて其軍に合せしめたり。土耳古人はウォローに至る途中ヴェレスティノーの村落を燒けり。此時に當りスモレンスキの名は五萬の豫備兵よりも力あり。彼の率ゐたる七千の兵は二日間濠中に伏して土耳古の軍を反擊すること其幾回なるを知らず。櫛風沐雨彈丸の間に立つて一歩も退かず。これ其勇敢に因ると雖、主將の恩威與つて力あり。蓋し牛頭矮軀の驍將が將几に凭り千里鏡を手にして戰場に望むや、兵士は混戰の中に在りと雖、猶將軍が目前に在るの想をなし、勇を鼓して戰ひしなり。

將軍がファルサラより退軍するや、ラリッサの退軍に比して頗る規律あり。外國兵を以つて殿となし隊伍整然、發銃し且つ速行し、而して亂走するに至らず。

是に於てスモレンスキの軍は已にヴェレスティノーを保つ能はず。而してヴェレスティノーの喪失は即ち鐵道及びヴォローの喪失に外ならず。スティーヴン氏其伴侶と共にヴォローに入りし時の記事は尤も人目を悅ばすに足る者なり。彼の伴は英國通信員二人、米國通信員一人、土帝の副官一人、亞拉比亞の警部一人にして途中にて取り押へたる離群の騎馬一頭を從へ、共にヴォローの都邑を占領せり。已にして大尉チドヂップが市民に生死の界に在る事を告ぐるや、市民は皆免れざらんと思へり。此事たる訛言に過ぎざりしと雖、反つて一場の悲劇を演ぜり。土耳古軍は路上ヴォローに駐在の外國領事より派出せる委員に邂逅せしが、此一行は各自國の國旗を掲げ、中に制服を着せる英國の水兵を雜へたり。蓋し委員等の目的はエドヘム・パシャに於て邑民の安撫保護とを乞ふに在り。邑民は擧げて土耳古軍を畏れて戰慄せしが、其邑の中央に進行するまて一人をも殘害せざりしを見て稍安堵の想をなしたるも、尙或は殺戮に出づべきかを恐れたり。

土帝の少副官と其七人の從者とは共に市廳に入りしが、何人も市長の代理として降服に署名せんと欲する者なきには困却せり。已にして其手續を終り、エドヘム・パシャの告文をバルコニーより人民に讀み聞かすや、市街に群集せる者殆ど一千人に及び、彼等は目を側して仰ぎ見たり。然るに告文を聞くと共に喜色面に溢れたる者は他なし。彼等は赦されたるなり、蘇生したるなり、此時バルコニーの上に在りし一希臘人土帝の萬歲を三呼し、人民は之に和せり。彼等は今朝に至るまても土帝を稱して鬼魅となせし者なるに、今や之を視る事活佛の如く、最早殺害と奪掠との恐れなきを知つて喜悅に堪へず。

土耳古軍はファルサラよりドモコーに進めり。ドモコーは山を負ひ河を帶び、又繞らすに壍濠を以てし、要害頗る堅固の地たり。ヲスパットは少壯のアルバニー人より成れる三步隊を率て之を攻めしも全く用兵の道を知らず、徒らに彼等を驅つて死地に赴かしむ。然れども兵士の精悍なる、新調の制服を着けモーゼル銃を手にして突進し、累々たる死屍を超えて城に迫れり。

ドモコーはオスリー山の下に在り。此山は南方に於てセッサリー平原を繞る所の

者なり。山を通ずる一道は之をフルカと云ひ、以てセルモピリーに達するを得べし。但し此路は山道と云はんより寧ろ沙汀と謂ふべき者にして、一方は海に沿ひ一方は峨々たる峻峯なり。

希臘の敗兵は猛勇なるアルバニー義勇隊の爲めに此道を逐ひ下されたり。此義勇隊は大半童兒に係り、賃錢の爲めに兵籍にあるにあらず、戰鬪を好むと奪掠を欲するが爲めに戰へるなり。而して奪掠の一點に就て全く其望を失ひしと雖、其勇氣は毫も之が爲めに阻喪せざるなり。

土耳古軍はフルカの山道を過ぎて進みし時、希臘の武官が白旗を揭げて來るに遇へり。これエドヘム・バシャに捧ぐる爲めにして、之と共に兩國に休戰の假條約の成りたる事を報ぜんとせし者なり。是に於てセッサリーの三十日戰爭は五月二十日を以て終を告げたるが、エパイラスに於てはアルタ灣(アドリアディクに通ずるアイオニア海の一部)の周圍に別種の戰爭あり。然れども其實戰爭にあらずして戰爭の餘派に屬し、セッサリーに於けると同日の談のみ。即ち土耳古の進軍と希臘の退却とに關する事實なり。或る時希臘兵はセヴン・ウォールの稱ある處にて敵に

出遇ふべき事を豫期して一日半の行程を進めり。然るに未だ其地に到らざるに途中味方の兵が潰走する者と出で遇へり。是等の敗兵が希臘の海岸を望んで逃奔し、アルタに架せる長高にして狹隘の橋梁を過ぎたる際の光景は倫敦タイムスなる米國通信員の筆に上り、頗る眼を慰むるに足る者なり。

アルタ灣の一岸は希臘に在り、一岸は土耳古領に在り。土領の一小堡壘をプレヴェサと云ひ白色に塗られたる者なり。希臘の軍艦は四月十八日より砲擊を始め、戰役の終局に及びたれども何等の効なかりき。

リチャード・ハルディング・デヴィス氏曰く、

抑希臘人の大患は民主的に過ぎて良兵たるを得ざるに在るか、將た又獨立的に過ぎて政事と軍事とに論なく、何人の命令にも服從するを肯ぜざるに在るか、これ疑問なり。凡そ世界中凡ゆる民主政の最も完全に最も純粹なる實例は今日の希臘に在り。其平等の狀態の如き吾人の有せざる所にして、佛國共和國に於ても亦之を見る能はず。希臘人は各獨立して思ひ、獨立して行ひ、其隣人の說が己れと符合する間は亦之を尊敬す……此國は宛も大なる討論會の如し。

此國民が兵役に服するや、一兵卒と雖、作戰に關して各己れ一個の見を有し、而して其上長の意見と衝突する場合に至ては屢混亂を醸すなり、…初め從軍せる希臘人は概ね誇大の念を抱き、以爲らく、土耳古兵の如き一擧して之を塵するにあらざれば一擊して之を走らすべしと。然るに土耳古兵の死する者少くして走る者あらざるを見るや、大に驚愕すると共に勇怯地を易へ、畏侮心を異にし、狼狽の餘りラリッサの敗走を現出せり。

希臘に於ては軍民の別なく皆信じて以爲らく、此戰役の發端は國王と歐洲各朝の親姻との通信に胚胎せりと。殊に兵士は國王を以て己れを賣りたりとなし、太子に戰を避けて一連に退却すべき秘密の命令を與へたりとなせしかば、アゼンスに於ては革命の虞あり。曩に國王をして劈頭より人民に向ひ、明白に戰爭の準備絶無なる事を告げしめたらんには、尙斯くの如き威信を失はざりしならん。然るに若し開戰に至らば自ら彼等を率ゐてセッサリーに出陣すべしと誓ひたるが如き、之を失計と謂はざるべからず。然れども退いて考ふれば、希臘人の輕佻なる西領米國共和の民に異らず。其激昂の勢は狂瀾怒濤の如く、ジージを捲いて深淵

に沒せしめざれば已まざりしなり。これを以て之を觀れば王の不幸も亦憫むに堪へたり。

平和條約は十二月に至り始めて批准を終り、土耳古はセッサリーより其兵を退けたり。然るに列國は其條欵に就て意見を異にし、容易に定まらず、而して希土兩國も亦列國の提議に滿足する能はざりしなり。蓋し列國の中に立て獨り紛議を起せし者は獨逸なり。獨帝は土帝の慰撫を欲せざりしにあらず、只獨逸の資本家が巨額の金を希臘に貸付せるを以て、其利益を損せざる程度に於て希臘の土耳古に支拂ふべき償金を定めんとし、英國は主張して曰く、償金を全部若くは一部を拂ふまで土耳古は希の版圖に兵を駐むるを得べしと。露西亞は滿足なる支拂を希望し、彼が二十年前伯林條約に因り土帝に對せし時の如く償金を迫らんとせり。已にして百事協定に及び、土耳古は已むを得ずセッサリーの侵地を還し、希臘は國際的委員に因つて財政を監督せらるゝに至り、アゼンスの人民は之が爲めに憤怒せり。首相は立法會議が必ず大多數を以て條約を排斥すべき事を豫想せしかば、或る口實を設け之を議會に付せずして批准を終りたり。

之を要するに土耳古はセッサリーを放棄せり。然れどもセッサリー、マセドニア間に介せる疆界の改定を得たり。即ち一八八一年より希土戰爭に至るまでは、其界線は希土を分てる一山脈の絕頂に在り。然るに改定の界線に於てはオリムパス、オッサ、ペリオンの諸丘陵と山道とを土領に繰入れ、分割嶺の麓に於て界線を引けり。又希臘は一億五千二百萬ドラカム即ち土耳古の四百萬磅を拂ふべき事となり、其上クリートを併合するの企圖を拋つの已むを得ざるに至れり。而して疆界の村落に住する基督教ウォレーキ人(ルーマニア人)が希臘に屬するよりは土耳古に屬せん事を請願して列國の容るゝ所となれり。條約に據れば若し希臘人土耳古に在りて罪を犯す時は自國領事の裁判を受くるの權ありしに、希臘は之をも放棄せり。條約締結後希臘には古物發見に關するものを除くの外復た世界の耳目に上るべき事件あらず。

一八九六年に至りオリムピアの競技はアゼンスに再興し、力技の人々及び希臘古典の學者は多數世界中より來會し、希臘は四年毎に之を擧行すべき事を提唱し、且つアゼンスを以て其場處となすの權ありとせり。然るに列國は一九〇〇年

巴里博覽會の時を期して同地に開くを可とせしも、一八九六年以後希臘は之を度外視し、巴里は博覽會の歲を通じて心力を用ふべき事件蝟集せし爲め之を顧みるに暇あらず、競技の擧は終に廢止に歸せり。

第六章　バルカン

一八九九年十一月の「エコノミスト」にバルカンの形勢を論じたる一篇あり。其中に云ふ、

バルカン今日の政態は頗る西歐中世の政態に類せり。全半島は幾多の小國に分れ、宗教を除くの外一も利害休戚を同うするものなく、之が君主は互に雄を爭ひ、一正一譎其手段を異にせり。而して何れの國に住する人民も其業とする所は戰爭と耕作との二種にして、其政法德敎の上に於て君主と一致せる人民に至つては均しく害物たり。列國は通常戰爭に由り、詐術に由り、互に蠶食を事とするも、若し敵國の君相甚だ雄傑にして如何ともなすべからざる者ある時は、刺客を用ひて之を斃し、毫も顧慮する所なし。

右は一八九三年九月以後バルカンに起りたる事件の梗概なりと謂ふべく、オットマン帝國より分裂し外國君主の下に獨立せる小邦の摘要なりと謂ふべし。但し一八九三年九月は余が「第十九世紀の露西亞及び土耳古」を擱筆したる年月にして、バルカンの歷史は左の語を以て結べり。

ファルディナンドのその首相スタンプロッフあるは幸福なりき。スタンプロッフは君主更迭の間を通じて地方政府の統帥たり。ファルディナンドのバルカン王位を受けたるに就ては彼與つて責任あるが故に、此君臣の利害は互に相關係せり。其國民の輿望は極めて大なりしが、君臣兩つながら露西亞より嫌忌せらるゝ事は、更にバルカン人の愛重を致せる所以なり。

バンカンの君主が將に選擇せられんとするに當り、コンスタンティノープルの一故老は曰く、余はアレキサンダー王の位を繼ぐべき者を羨まず。何となれば若しブルガリアの利益を主として國政を施さんか、事毎に侮辱を被り百方阻害せらるべし。若し又單に露國の總督として此國に臨まんか、必ず人民の怨府となるべしと。

一八九三年以來ファルディナンドと其國との歷史は斯くの如くなりき。

サックスコーブルグのファルディナンドが初政の第一年に於ては未だ人民の愛慕を受くる能はざりしは其外國人なる爲めなり、舊教徒なる爲めなり。加之ファルディナンドは全く國情に通ぜざるのみか、其國語をも解せざりしなり。但し他日勉めて之を學習し久しからずして此不便を除きたるや疑なし。

然れども其終に民心を得たる所以は人民は國家獨立の守護者なりと信ぜしに在り。而して其之を信じたる所以は、スタンブロッフの擁戴に出でたるに在り。スタンブロッフは深くファルディナンドに信賴せしが如し。

ブルガリアのビスマルクなるステファン・スタンブロッフは一八五四年一月三十一日を以てティルノヴァの小城市に生る。此地は其昔ベザンツステートの都なりし處なり。其父は旅館を業とし、三子あり、ステファンの勢力赫々たる日に於て兄弟は依然舊業に安んじ立身の念なかりしが、ステファンは幼より功名の志を抱き、其身を起せし第一着は教育を得たるに在り。初め父は之をして裁縫師の丁稚たらしめたるが、彼は務めて智識を得べき機會を求めたり。此時に當りブルガリアの知州ミッドハット・パシャは州内に善良なる學校を設くるに盡力する所あり。ステファンは一

校師に就て夜學に從事するに際し、グリートの叛亂はブルガリアの基督教徒を皷舞作興せしが、これ一八六六年なり。是に於て大都邑には革命委員の組織あり。ステファンは學業の旁其一に加はれり。已にして僧職に必要なる學科を攻めんが爲めオデッサ大學に入らんとし、父は甚だ之を欲せざりしも、其篤學に感じ遂に許可を與へたり。會オデッサに虛無黨の亂あり。大學生三百人の中之に與らざりし者は僅に三四十人に過ぎず。此輩は秘密の場所に會合せしも終に逮捕せられ、其中のブルガリア人は二十四時間内に土耳古へ歸るべき命令を受けたり。スタンブロッフの歸着せし所は今日のルーマニアなりし處、革命黨と視做されたる爲め此地より又ブルガリアの故土に送還せられたるが、其後土耳古人より官立學校の教師を勸められたるは頗る奇と謂ふべし。然るにスタンブロッフは反つて書籍の行商人となり、一は革命黨の巡回委員を以て自ら任じ、一は革命の文字を傳播するの方便となせり。此間飢寒困窮至らざる所なく、終にコンスタンティノーブルに達す。然るに駐在の露國公使イグナティーフは土耳古領の叛亂を利とせしかば、スタンブロッフにオデッサに至る通行券を與へたり。

初めマセドニアの匪徒を驅つて土耳古に反せしめんと圖りしも、其私利に汲々として反覆常ならざるを厭ひ之を中止せり。

一八七七年の露土戰爭に方り、露軍に投じて戰ひしは、露軍はブルガリアの同胞を救ひ異教の桎梏を脫せしむるの目的なる事を宣言せしが故なり。已にして戰爭畢るや、二十五萬人のブルガリア人に代り將に露帝に謝辭を演べんとするに先だち、サン・ステファノーの條約は列强の爲めに制止せられ、ブルガリアはルーマニアを有する能はず、又露國の附屬たる能はずして、依然自治國として土帝を戴かざるを得ざるを知れり。

是に於てスタンブロッフはトリノヴァに退き辯護士の職に就けり。蓋しブルガリアが列强より多少獨立を許されたる以來、彼は其國體を維持し其國民をして自治に適せしむる事を以て終生の目的となせり。已にしてバッテンブルクのアレキサンダーの君臨せし間は政事に於て活動する所なかりき。

アレキサンダーの廢せらるゝや、全國到る處紛擾を極め、皆其故君を慕はざるなかりき。但し軍隊が都て信賴するに足りしや否や、露國がブルガリアとルーマニ

アの人民を煽動せしや否や、共に未だ審ならず。

假攝政を設けらるゝや、スタンブロッフ之が長たり。而して余が「第十九世紀の露西亞及び土耳古」に述べたるが如く、サックス・コーブルグのファルディナンド撰ばれて攝政となりし處、ファルディナンドは施政上の閲歷なく、且つ其國語に通ぜざりしを以て、スタンブロッフ之を指導せり。余の「露西亞及び土耳古」の筆を起せし時ファルディナンドの御宇は已に五年を經たり。

スタンブロッフは以爲らく、ブルガリアの獨立は王統の長久なるに在りと。因つて切にファルディナンドの結婚を希へり。蓋し憲法はブルガリアの人民に希臘正教の君を立つるを許せしも、其嗣王は必ず自國の教徒ならざるべからず。茲に於てスタンブロッフは憲法中此條項の撤去に力を致せり。

ファルディナンドはパルマのマリア・ルイサを娶り男子を擧げたる所、ブルガリアは喜んで狂せるが如し。これ數百年來ブルガリアの王子がブルガリアに生れしは之を以て嚆矢となせばなり。王子はブルガリア小說の英雄ボリスの名を附せり。

ブルガリアの故老は曰く、ブルガリア人の如き沈靜なる者が斯くの如く狂喜せ

し事は未だ曾つて見ざる所なりと。

此時に至りファルディナンドは始めて以爲らく、我王位の名分は宰相の輔弼と翼戴とに存せずして別に在るありと。

スタンブロッフはブルガリアの憲法中のファルディナンドの繼嗣を希臘教に限れる條項を廢止する事を得たるより、アレキサンダー三世は益〻之を厭棄して信用せざりき。何となればアレキサンダー三世の意は希臘教をスラヴの中に弘布するに在ればなり。王子ボリスの生誕は一八九四年一月三十日に在り。一週日を經てブルガリア羅馬舊教の大教正之が洗禮を行ひ、その教親は外祖父なるパルマのロバート、外祖母なるオルレアンのクレメンティンにして、此時トリノヴァ公子の稱を受けたり。

ファルディナンドは脱教して國民所奉の舊教に屬するも測られずとはブルガリア人の風評に上れり。ファルディナンド之を聞いて曰く、余は脱教するよりは寧ろ吾王位と生命とを棄てんと。

佛國の僧院長は一八九五年ブルガリアの事を記せし文中に、「嗚呼貴ぶべきかな

此語」と云へり。

咄王子ボリスの二歳に達するや、希臘教會に於て復び洗禮を行ひ、露帝は教父として招請せられたり。

元來ブルガリアに於て舊教徒多數を占めたるが、此輩は之が爲め失望する事甚しく、殊にファルディナンドが結婚の日に於て、法王に書を送り、ブルガリアに舊教の王統を望む由を告げたるが如き亦頗る人心を懲かせり。

ファルディナンドの詐術を弄するは其地位が未だ曾つて歐洲諸君主より公認せられざるに由る。何となれば伯林の條約によりファルディナンドの撰立は尚六大國と土帝の正式に承諾するを待つて確定すべき者なればなり。而して英、獨、佛、墺、伊の五ヶ國は容易に之を諾せしも、露西亞は獨り之を拒めり。

宮廷の虚禮を好み、地位の顯榮に跨り、威嚴の消長に心を役するファルディナンドの如き人に在つては、其王位の固からざるより來れる輕侮と抵抗との苦悶を感ずるは、他人の比にあらず。而して一方には其宰相が王位の確立を致すべき手段を務むるに意なきを見るや、これを以て自己と王統との期望を危うする

者となしたるならん、

ファルディナンドは或る信憑すべき出處より報告を得たり。曰くスタンブロッフは土耳古の黨與にして露西亞の敵魁と視做さるゝが故に、苟も彼の政柄を奪ふにあらざれば露國の歡心を得る能はず、從つて露帝をして王位を承認せしむる能はざるべしと。皇后マリアは產後數週間篤疾に係り、稍〻輕快に赴くや維納の近傍に往いて病を養ひ、ファルディナンド之と同行せしを以て、其不在の間はスタンブロッフ例に因りて攝政を命ぜられたり。

時に一八九四年、マセドニアに於ける基督教正の撰任に關して土帝と紛議を生ぜり。これ實に希臘人、ブルガリア人及びセルヴィア民族間の爭なり。蓋し各國皆宗教と教育の權を握り、其勢力を增さんとし遂に此に至りしなり。

スタンブロッフは自ら進んで土帝をコンスタンティノープルに訪ひ、會見の結果ブルガリア教會よりマセドニアに定員外の教正二人を置く事となり、ブルガリアの僧侶は之が爲に權力を加ふる所あり。

斯く希臘教を壓倒したる一事は益〻スタンブロッフの名望を高め、人民は或は彰功

會を開き或は炬火行列をなし、以て其德を頌せしが、スタンブロッフが群集に對せし演說に曰くブルガリアの利益を進むるは土帝に信賴し土帝と協同するに在りと。群集之を聞くや喝采湧くが如くなりき。

ブルガリア人のスタンブロッフに傾倒するに反して、ファルディナンドは之を忌めり。夫れスタンブロッフは以上の如き重大なる協定をなすに方り、ファルディナンド批准を經ざりしのみならず、其措置たる成功の名譽を己れに歸せしを以て、ファルディナンドは心中平かならず。これ他日彼を免黜する口實の一となれり。

スタンブロッフは自ら己が國王に萬缺くべからざる者なる事を自負すると共に、國王も必ず之を知れりとなせり。然るに國王は益〻彼の羈絆を脫して露西亞に倚らんとするの心を抱きしに、會〻其怨を骨髓に撤せしアレキサンダー三世崩じてニコラス露帝の位に即きしかば一層其志を長ぜり。

露國の間諜は活動し、ファルディナンドは之に默許冥助を與へ、隱謀となり、刺客となり、寃獄となり、誅罰となり、姦計となり、ブルガリアの宮中は昇沸の狀をなせしが、今其詳細を述ぶるに暇あらず。其一端を擧ぐれは流言を以て彼の不品行を誣ひ、

彼が政治上の罪人に拷問を施せしを誣ひしが、彼を除くに最も明白に又最も國俗に叶へる方法は之を殺すに在り。而して之を殺すべき方法は種々試みられたるが、其一エム・サヴォフが決鬪を挑みし事なり。サヴォフは何等の根據なきにスタンブロッフに負はしむるに其妻と姦通の罪を以てせり。然るに第二者の審判に付せし處、齊しく判決を下して曰く、サヴォフは狂的の妬夫にして大宰相を責むべき理由を有せざる者なりと。茲に至つてこれより確實なる方法は暗殺に若くはなし。一夜スタンブロッフは財務卿エム・ベルツェッフと共にクラブより家に歸へるの途中、牆背より銃を放ちしものあり。右は固よりスタンブロッフを殺す目的なりしも誤つてベルツェッフを殺せり。

ファルディナンドは曾つてマセドニア教正事件に關し不平を抱きし以來、スタンブロッフの時日を記せざる辭表を掌中に握りしが、尚未だ之を用ゐざりしなり。然るに今や無智剽輕の人民が大宰相に對して暴動を作せるを機とし、此國家に忠良なる人物を黜けて其家に禁錮し、其親友と雖交通するを得ざらしめたり。

不幸にして彼が逆境を憤慨せる感情は其識力を奪へり。彼は一新聞紙の記者なりしかば筆を揮つて其敵を痛擊し、ファルディナンドの如きも亦其中に在り。加之彼は獨逸の記者に心事を洩らしたるが爲め、其人はスタンブロッフがファルディナンドの爲めに害せられたる顚末を掲載し、其文字は頗る人心を動かすべき筆法を弄せり。

之より以後政府はソフィア朝廷の許を得て百方スタンブロッフと其黨與とを迫害せり。スタンブロッフはファルディナンドに哀訴して其敵の毒手を脫せんを請ひ然らざれば其健康が轉地を要するが故にブルガリアを去らん事を願ひたれども許されず。これファルディナンドは其宰相を救ふが爲めに露國と和解の望を失ふを欲せざればなり。エドワード・ダイシー曰く、これ罪よりも更に惡なり。これ一妄人なり。此種の妄人に在りては悔恨の餘地あらずと。

一八九五年に一歲を通じてスタンブロッフ一派の迫害を見たり。軍事裁判所は彼がその友ベルツェッフを殺せしとの罪名を以て逮捕令を發し、實際の下手人にしイ伏罪の上五年の禁獄に處せられたる兇漢は反つて釋放せられたり。暴民は暴然として其等の處置を正當なりとし、スタンブロッフの曾つて登庸せし文武の官吏

は大抵罷免せられたり。

七月十五日スタンブロッフが其故郷に逐ひ返さるゝに當り、一友一僕と同行せし途中に於て匪徒四人の爲めに其馬車を襲撃せられたるが、賊首はテューフェッチェフと云ひ、曾つてブルガリアの公使ドクトル・ヴルコヴィッチを殺したる罪によりコンスタンティノープルに於て死刑の宣告を受けたる者なり。然るに當時ブルガリアの政府は彼を以て土耳古より來つて自國の臣籍に在る者とし、之を保護の下に置きたるが爲めに刑を免れたるなり。今や此賊は部下三人と共にスタンブロッフを刼かし、二人は銃を放ち二人は刀を以て之を刺し、彼を救はんとせし者は盡く傷を負へり。然るに巡査は直ちに賊を捕へずして其逃走に任せ、反つてスタンブロッフと車中に居りたる忠僕と朋友とを捕縛せり。

スタンブロッフは遭難の三日後自宅に於て死亡せり。彼は終に臨み加害者を公言し、其夫人を戒しめて其背恩の君主より如何なる恩例をも受くる事なからしめたり。已にして葬儀の時に臨み、愚民等は喜んで舞踏し、墳墓の前に淫鄙なる歌曲を歌へり。

スタンブロッフは貧窮を以て終れり。蓋し一意其國の福利を增進せんとして全力を傾注し、復た自家の貧富を顧るに暇あらざりしなり。然り而して其終を全うせざりし者は他なし、其政治上の罪人を處する峻嚴にして、或は殘酷非道に流れたるが如き其一なり。又其君國の事に於ける斷々乎として其地位上尤も正義なる意見を持し、輕浮虛誇にして多年己を忌める君主と和衷する事を務めざりしが如き又其一なり。

スタンブロッフは一男二女あり。男子は尙幼孩なり。

スタンブロッフ遭害の時、ファルディナンドは殊更他處に避け、事後に至つても物議を憚り速に歸らざりき。余は思ふ此殺害に對し一人も罰せられたる者なしと。

今やファルディナンドは初めて自己の政略を施すを得べし。是に於て露國の新帝と和親を結び以てブルガリア王位の承認を得んと欲し、之が第一着として一八九六年三月王子ボリスの改宗式を行ひ、尋いて露國はファルディナンドのブルガリア王たる事を認め、土帝亦之が爲めに勅準を與へ、他の五ケ國は承諾を經るの必要なかりき。

之より先きスタンブロッフ曾つて政柄を專にせし時、エドワード・タイシーに語つて曰く、余を以て之を觀れば露國の王位を承諾する事は吾君主の尤も切望する所なりと雖、果して其目的を達したる時は國家の災害を釀すべし。抑、承諾は事實の上に於て何等の利益あるにあらず。而して其一旦確定するや露國は必ず一公使をソフィアに送り之が紛擾を起すべく、露國の領事は各小都邑に於て不平の中心となるべし。是に於てかアレキサンダー以來國家の局に當りたる者は其生命危險の虞ありと。此豫言は略ぼ適中せり、但し爾來ブルガリアの混亂騷擾の事情の如きは復た之を言ふの必要なし。

希土戰爭の時に方りブルガリア人はマセドニアを侵せしも、これ政府の奬勵に出てたるにあらず。蓋しファルディナンド及び其宰相等は露墺二國が相謀つて他日土耳古分割の時は、マセドニアの部分を墺に屬せしめんとするを知れり。今やファルディンドが公然たる歐洲の一君主として抱ける大目的は、セント・ピータースボルクとヴィアナの二帝に媚ぶるに在り。乃ち屢、露國の少帝を訪問したるが、露帝は甚だファルディナンドの人となりを悅ばざりしかば、其歸るに臨み種々なる贈遺

を以て禮貌を盡したるに止まり、實際は何等の利益を與へざりき。墺地利帝は又ボリスの改宗に慊焉たらざりしと雖、ファルディナンドは尙訪問を怠らざりき。然るに輓近に至り墺地利が己を遇するに一公子を以てし、遠くルーマニア、セルヴィアの二王に及ばざるを見て心大に樂しまず、是に於て王位を得んが爲めに頗る努力せり。會、ブルガリアの人民は漸く不平を生じ、露帝が約を踐んで巴里博覽會に臨める歸途ブルガリアを過ぎたる時は已に叛亂の狀をなせり。

ファルディナンドは機に乘じて露國の心を迎へんとし、一切のブルガリア亡命者、アレキサンダー廢位の事件に連坐せる武官、及び露西亞ブルガリア隱謀の罪に服して國外に逐はれたる者を召還せしが、獨り是等の官吏を舊職に復し其功勞を賞して年金を與ふるに止らず、之を平生忠良にして格勤なる將校の上に置けり。加之モンテネグローの君は最も露國の宮廷に寵ありしかば之に對して懇切を盡し、ブルガリヤの國教の如きも亦希臘教に合せしめんとなしたり。茲に教會の異れる點は教義に在らずして政治に在り。人民は側に之を聞くと齊しく以爲らく、これブルガリアの政治上の利益を棄てゝ希臘の利益を成す者なりと。舉國殆

ど一致反對せしが爲めにファルディナンドも宗教の事は之を斷念するに至れり。ファルディナンドの妃なるバーマのマリア・ルイザは、一八九七年を以て短折せり。ファルディナンドは各國の王公の會葬を得て自ら名譽とせり。

ルーマニアは公然バルカン州の一に加はることを拒絶せり。其理由はルーマニアが地理上此半島と接續せざるに在り。ブルガリア、セルヴィア、マセドニア、ボスニア、ヘルツェゴヴィナ等の諸國と異りて貴族政治を有するに在り。政府と人民と共に其君主に固着するに在り。然れども、ワラキア、モルデヴィア、ドブルースカ等の土耳古領を編入すべき他の方法あらず。一八九三年以前のルーマニア史は余が第十九世紀の露西亞及び土耳古に於て詳述せし所なり。一八八一年五月二十三日其君ホーヘンゾルレンのチャールスがプレヴナに於て土耳古より得たる砲材を以て造れる鐵冠を戴きし以來、從來歴史を有せざりし富裕なる國の一となり、富强日に增し、貨殖の道冥々の間に開けたり。

カーロル一世の王位確實となるや、務めて意を一國の啓發に致せり。

其后をエリザベスと云ひ、文學に所謂カルメンシルヴにして伉儷頗る厚かりしも、不幸にして子なく、其兄の第二子なるホーヘンゾルレンのファルディナンドを以てルーマニアの太子に擬し、一八八九年ルーマニア國會は之を確定せり。已にして一八九三年はエディンバル公サックス・コーブルグゴサ公なるアルフレッドの公女マリーと婚せしが、公女の母は露帝アレキサンダー一世の皇女マリー大公爵夫人なり。

カロル王の御宇に在つては別に外交に渉れる事件の記すべき者あらず。王はホーヘンゾルレンとして武人として最も力を軍事に盡し、サー・チャールス・ディルクは一八七七年ルーマニアが露土戰爭に顯はしたる功績に據り之を評して曰く、戰爭の實質に在つては英國兵の下にあらず。蓋し國王は之を訓練して極精の域に達するを務めたり。即ち王は毎年の大演習に就て其兵士の行動を觀るに止まらず、常に其將校と相接し、苟くも其力を增し其强を致す者あらば大小となく之を發揮せざるなし。王は文皇后と共に教育の進歩を圖り、國民小學の開張と貴族の女子教育に就て拮据倦むを忘れたり。而してルーマニアの農業に至つては歐洲中最も富饒なる者の一に居り、佛國の敘論家は近く其住民に關して云へり。明快

慧敏にして勤儉を事とし、輕忽ならず、又小心なるを以て一時の慾を遂ぐるが爲めに債を負ふが如き事なしと。

然るに國内の微隙は忽ち平地に波瀾を生じ、將に蹀血の慘を現せんとせしが、其一は宗教上の事に屬せり。蓋しルーマニアはもと希臘正教に屬し、コンスタンティノープルの教長の管轄に隷せし時あり。而してその儀式と教義とは後來に至つても羅馬教を奉ぜり。斯くの如くコンスタンティノープルの監督に係る希臘正教を篤信するが故に、露帝を以て元首とせる露國の希臘教とは勢ひ反目せざるを得ず。今を去る四十年前、余が尚少女たりし時巴里に在りしが、此時代に於てはルーマニア人ルー・ヌーヴ・ド・ベルリーの露國希臘教堂に入るを許されず。又其牧師に因つて埋葬結婚若くは洗禮を行ふを得ざりしなり。然るに一八八二年に至りルーマニアはコンスタンティノープルの教長と關係を絶ち、自ら長老を撰んで宗教上の元首となり、一八八五年終にコンスタンティノープルより獨立を認められたり。一八九七年首相は政治上の理由により、政府の壓制を以て擅に總管長ヂェンナディヤスを神聖會議の糺問に附せり。首相は急激黨の傾向を有せる人にして、此

處置の爲めに頗る物議を招けり。但しヂェンナディヤスの罪案は正教の根本たる教則を違犯せしと云ふに在り。教會の基本金を濫費せしと云ふに在り。終に其職を褫かれて僧院に退居するに至りし處、人民はこれを以て政治上の迫害となして憤怒甚しく首相の信望地に落ちたり。是に於てヂェンナディヤスの宣告は取消され再び舊職を授けられしが彼は直ちに之を辭せり。

他の紛擾は急激黨の提出に係れる一議案にして、外國人がルーマニアに於て土地を買ふことを防止するのみならず、相續上より來れる不動產を所有する事を禁ぜしとせし者なり。極端論者は以爲らく、斯くの如き場合には須らく之を官沒すべしと。穩和論者は以爲らく、外國人に其相續せる土地の賣却を許すべしと。結局此說採用する所となれり。一八九七年非セミティクの舉あり。全國到る處之に附和せざるなかりき。抑猶太人は一八七九年市民たる事を許され、曾てルーマニアの軍港に勤務せし九百名の猶太人は來つて此特權を要求せり。然るに一八九七年に至るや迫害の事起り、先づ其有せる特權の若干を剝がんとし、就中高等諸學校に入る事を禁ずるは其主眼なり。蓋しルーマニアの猶太人が獨逸、墺地利及び露

國に於ける同民族と齊しく、學校に於て名譽褒賞を得る者不相當なる多數を占めたるは國人の妬忌を招ぎし所以なり。暴徒四方に起り、ブルカレストに於ては猶太人の家宅店舗を襲ひ、ガラッに於ては猶太商店の切盗に遇ふ者六十戸に及び、店主の負傷せし者亦少からず、而して巡査は袖手して之を制せざりき。斯くの如き騷擾ありしに拘はらず、ルーマニア政府はバルカン半島に於ては他の諸國の如き動亂なしと稱して頗る得色あり。

獨逸の今帝ウィリアムが一八九一年を以てカロル王に贈りたる書中に左の如き意を述べたり。

陛下がルーマニア國の招請を受けて其政府を擔當せられしより已に二十五年を經たり。又陛下が攝政として戰爭に勝ち平和を全うし、國民全體の切望によりルーマニアの王位に即きたる記憶すべき日より、今月二十二日に至るまて十年を經たり。陛下がこの天恩あり着實なる國民に臨むに嚴格完密の政治を以てし玉へる結果、ルーマニアは列國と同格の地位に立ち國際間の榮譽ある一國となり、ルーマニア人は陛下の下に文明各國の好意を享け、舊文明の保

護者たる貴國に屬するの名譽を有す。

わが兩國の王家は親密の關係を有するが故に、余は此慶日に於て切に熱誠なる祝意を表せんことを願ひ、又余と陛下との私交とルーマニアと獨逸との國交が、陛下の卓越したる政治の下に將來永續すべきと猶過去に於ける如くならんを期望す。

陛下を助けて技術及び理想を開發し、併せてルーマニア國の構造したる不朽の名譽ある皇后に對して、亦謹んて切なる祝意を表せんと欲す。

ポスニアとヘルツェゴヴィナとに就ては一八九三年以來殆と述ぶるに足る者なし。二國の人民は墺地利皇帝に屬し、平和繁榮の生活をなせり。但しセルヴィア及びモンテネグローの二國に就て少しく言ふ所あらんとす。

モンテネグローは其國民を自ら稱してセルノゴラと云ふ。歐洲の最小國なり。之が人口は米國合衆國第三等の都會に比して伯仲の間に在り。然れども余が「露西亞及び土耳古」に於て述べたるが如く、其歷史は頗る重要なる者なり。グラッドストン曾つて曰く、若し爲めに傳奇を著はすのスコットあり又バイロンあらしめば、必

ず世界的の不朽なる名譽を得たるならん。

其剛毅なる人民は數百年間ブラック山に據つて土耳古の進勢を遏め、其獨立を維持せしが、近年著しくとして進歩をなしたる所以は其王ニコラスの力大に與れり。ニコラスの此國に君臨する事四十年を超え、其政治は專制と雖父母の子に於けるが如き者にて、其人民の必要と性質に適し、常に王宮の近傍なる一樹下に座して人民の訴を聽けり。其人となり教育あり、能なり、人民の爲めに法典を作り、道路を築き、校舍を設け、常備兵を置けり。但し其極めて少數なりしは固より言を待たず。是に於て人望甚だ高く、獨り其領内に止まらざりき。

アレキサンダー三世は王を稱して露國唯一の同盟と云ひ、墺國及びセルヴィアの人はセルヴィアの王統に更迭あつてモンテネグローのニコラスが其位を充さんことを切望せし者あり。王女は多く美麗にして庭訓を受け、歐洲諸國の王室に嫁せしかば、モンテネグローの王家は自ら聲望を得、此一小國も亦世界に知らるゝに至れり。乃ち王女エレナはネープルスの君主と結婚し、今や伊太利の皇后たり。若し二十世紀に至らばモンテネグロー王族の血族が歐洲の諸國に君臨するを見

るならん。然るにセルヴィアに於てはモンテネグローのニコラスに王冠を奉ずるの方法を得るにあらざれば、尙前王ミランの譎詐を忍ばざるべらず。此王は今日世界に於て最も惡聲あり最も卑陋なる君主なり。

この王はオブレヴィッチ族なるミラン王の子にて、童子たりし時其叔父ミロスチの暗殺せらるゝや其位を繼ぎ、幼仲の間佛國に留學し、國事は攝政之に當り、施設宜しきを得たり。ミランは巴里に在て佛人生活の弊處のみに諳熟して自國に還り、尋て露國の一婦人を娶れり。これ即ち皇后ナタリーなり。然るに此夫婦間の爭は數年に亙つて東歐洲を攪亂せり。但し其始末に至ては已に書中他處に於て之を述べたり。一八八九年ミラン王は迫られて位を去り、巨額の金を與へられたり。これ一は其賭博の債務に供し、一は歐洲の都會に於て生活の生面を開かしむる爲めにして、王は其條件として復びセルヴィアに見はれざるべき約束をなせり。

一八九四年年少の國王アレキサンダーがクーデタを行つて内閣を顚覆し憲法を中止せし以來、臣民の御し難きに苦しみ國政に倦みたるより人望を失墜せり。然るに逐王ミランはその子アレキサンダーの孤立にして而も經驗なきを利と

し、己れをベルグレードに招き寄せて敎を受けんことを勸め、一八九四年故國に歸り、師父たり顧問たる資格を以て急激黨の反對に立てり。これミランは急激黨を以て皇后ナタリーと黨與と視做せし爲めにして、皇后は嚮に一旦離別したるも今や迫られて再び之を娶ることゝなれり。

一八九八年ミラン王はセルヴィアの大元帥となり、急激黨の首領パシッチが己れに就かざるを怒り之を叛逆の罪に問ひ、已にして之を赦せり。又アレキサンダーを して各國を視察せしめんが爲めに相携へて周遊を試みしが、これ一は己れが博識にして才幹あり、容止觀るべき者あるを以て、少王と同行する時は何人も之と對照して熟れか國王の資格ありとし、從つて勢力を得べきが故なり。二王がバルグレードに歸りし後、子ゼヴィッチなる者市街に於てミランを銃擊し、ミランは幸にして負傷を免れたり。然るにこれを以て反對黨を逮捕するの好機會となし、セルヴィアに大獄を興せしに、會〻佛國に於てはレンヌにドルフューの軍法會議あり。余は倫敦のタイムス紙上に日々兩者の審判に關する報告を見て頗る奇異の想をなせり。而してセルヴィアの審判は幾日を經るも何等の證據を發見する能はず。ゼネ

ヴチは罪狀を自白せしと雖、その申立の中には種々矛盾の點を含めり。而して糾問の目的は急激黨と公子ピーター・カラジョージヴィッチの共謀せる事實を擧ぐるに在り。カラジョージヴィッチ家は公子の父アレキサンダーの建たる所にして、公子は近く印度に關して重要なる著述をなしたる人なり。但しゼチヴィッチは以前ベルグレードの消火隊に屬したる者にして、其職業を求めつゝありし際、ダニューブの汽船の甲板に於て名を知らざる不思議の紳士に遇へり。これ若し他人にあらざりしなれば必ずカラジョージヴィッチなりしならんとは一般の證據なりき。其他隱謀嫌疑者に反對なる證據の二三を擧ぐれば、其一は一人がパシチと握手せし事なり。その一は一人がアレキサンダー・カラジョージヴィッチの宣告書を懷にせし事なり。他の罪案も亦皆之と同じく不適切にして瑣細なる事に屬せしかば、如何に不直なる裁判所もミラン王の誣告せる四十人の嫌疑者に對して國王暗殺の重罪を宣告する能はず、而して露墺二國は罪囚の中に政爭上自國の與黨ありしかば進んで干涉を試み、死刑を行ふ事を妨げたり。一八九九年九月裁判の終結するや、英國の「エコノミスト」は其經過を槩叙して曰く、

ゼネヴィッチが王ミランを銃撃したりと云ふの外何等の證據なし。固より人民はゼネヴィッチの目的を達せざりしを憾とせしが、法廷は何等の證據をも信ぜざりしが如く、被告を二十年の懲役に付し、法律の手續に至ても亦殆ど之を顧ざりしなり。被告の中に連累官吏の夫人ありしが、其罪を擧ぐべき一證なきに拘らず、法廷は主張して曰く、彼女は其事を知らざりしとするも知らざるべからざりし者なりと。斯くの如き犬儒的論法の下に他の被告と一網に羅織して同一の宣告を與へたり。當時人民の反抗せざりしは兵士がミラン王に與したるを以て銃殺せられん事を懼れればなり。是に於て墺露の皇帝を除くの外復た哀訴すべき者なく、哀訴の結果干渉を施して死刑を免れしめたるも、死刑以下の刑罰を施すは之を獄吏に一任せり。而して刑の輕重は罪囚が赦免の後に於て王ミランを扶くるの如何に因れり。

第三編　英吉利

第一章　ダイアモンド・デュビリー

余の著せる第十九世紀史談の第三卷英國は其記する所一八二二年に起り、余の生涯に亘つて(ヴィクトリア女王の生涯に亘ると謂ふも可なり)一八九四年の終に達し、開卷はジョージ四世の時に當り、末章は一八八七年の女王在位五十年慶典に關する記事を收む。

今余が茲に述べんと欲する所は一八九四年より一九〇〇年に至る事實なり。この間女王の御宇六十年の慶典たるダイアモンド・デュビリーを除くの外、英國の本土に於ては一として目を悅ばしむべき事件あらず。三ヶ年の英國史上に人の耳目を聳動せしものは概ね亞非利加に在り。この書の第四編は一八九五年より今日に至るまでの亞非利加に關する歐洲の歷史を擧ぐるが故に、英國の事も亦就

て見るべきなり。

一八八七年のゴールデン・デュビリーより、一八九七年のダイアモンド・デュビリーに至る十年間の英國史は殆ど國會の歴史と謂ふべく、而してその歴史の効驗は箇人の事爲若くは傳記に存せずして英國諸制度の作用に存し、英國と云へる國念、本國に對する感情、女王を思ふの忠心は深く人々の肺腑に徹せり。一八九七年六月二十二日は大慶典の當日にして、政府は海外領土の代表者が此日を以て內地の人民と共に本國女王に於ける忠愛の至情を表明するの時會となさん事を願へり。蓋し從前大英國は其僻遠なる屬邦殖民地を等閑視するの譏を免れざりし處、是に至り印度の王公に命じて盛儀に參せしめ、自治制を行へる殖民地の首長の如きも、殖民軍の支隊と該地の名士を率ゐて陪列すべき招を受けたり。

リチャード・ハルディング・デヴィスは之に就て言へるあり、

英領各處の移民を代表して盛典に列するの撰に當りたる有數の人民が他の羨企する所となりしも亦偶然にあらず。……彼等は大抵富裕なる少年なれども、その故郷に在るや全聯隊の一員に過ぎずして、その社會上の地位は巡査と

伯仲の間に在り。彼等より之を觀れば倫敦は實に世界の首府なりしなり。……彼等の倫敦に達するや殆ど自ら神の如く英雄の如きとを覺えたり。而して其一樣の奇裝は自由に劇場に入り音樂堂に入り公堂に入るを得、男子は彼等に立ちながら一杯を侑めんとて相爭ひ、婦人は彼等を見て嫣然笑を含めり。帝都を擧て彼等の地位に應じ、或は宴會を設け或は特別なる娯樂を供し、賞牌榮稱を授けて應接に暇あらざらしめたるが、彼等は又非常の奇觀を都の觀に供して之に酬ひたり。

行列の通行すべき倫敦の市街は、六里の間を通じて人家は盡く松棚の裡に蔽はれたるが、行列の當日に至るや松棚は又赤色の布匹に蔽はれ、國旗標章若くは花把等の飾あり。蓋し倫敦は夙に準備を怠らざりし處、果してこの慶典は毫も障礙なく百事宜しきを得たり。天も亦良辰を嘉し玉ひけん、夜の明けし頃は晴雨疑はしかりしも、女王のバッキングハム宮を出る數分前に至て全く晴れ渡り、女王は宮門を過ぐる時電鈕を一押して傾屬の各政府に勅を傳へて曰く、朕は中心より朕の愛する人民に謝す。神は斯民を眷祐し給ふべしと。

勅語の奉答はオーストラリア、カナダ、ケープ等より電線を通じ來り、女王が倫敦に達するに先だつて御前に輻輳せり。

倫敦「スペクテートル」は云ふ、

女王の勅語は母親が子女の賀辭を述ぶるに對する謝辭に過ぎずと雖、誠に思へ世界の他の君主なりせば果して如何なる勅語を下すべき。如何に不自然なりしならん。如何に愼重なりしならん。如何に巧侫なりしならん。

女王はヂョン・ブライトを初として國務諸大臣が英國に於て最も信實なる女流と稱したるに恥ぢずして、只其中心言はんと欲せし者を言へるのみ。其言はずして可なる者を忍ぶと共に、言ふべき者を言はざるを得ざりしは、其人民に謝するの厚き、反つて勅語に巧妙なる文字を用ふるに勝れり。

英國の本土と殖民地とを論ぜず、到る處倫敦と相應じて祝賀の儀を行ひしが、獨り愛爾蘭のみは之に與らず、慶典の夜中英國ウェールズ及び蘇格蘭に於ては二千五百發の煙火煌然として丘頂に輝けり。

慶典より一ヶ月前の新聞紙を觀る者は、種々なる危險の豫兆を發見するなるべ

し。卽ち棚架の墜落の如き、急遽の恐慌の如き失火の如き、暴徒の如き、人民が互に蹂躙して死に至る。巴里モスコーに於けるが如きこれなり。是に於て萬一の爲め一週間前八千の棺槨を倫敦に漕運せしと云ふ。

慶典の終に至るまで何等の變故なかりしは尤も注目すべく特筆すべき事實なり。而して善く之を未發に遏めたる者は英人保守の氣風なり。法律を奉ずるの精神なり。行列の編成、觀覽の規制に於て行政の伎倆措置驚嘆すべき者ありしに因れるなり。然れども警察の長官が群集の行動を制する最上の方法を用ひ、而して群集が喜んで其命に遵ひたるの一事最も與つて力あり。……女王の馬車を驅られたる順路は護衛周到を極め、人民の忠愛を表する裝飾は人目を眩燦せしが、其長さは六哩に亘り、此六哩は英語を用ふる人種に取つて歷史上重要なる、凡そ世界地圖より何れの六哩を擇ぶも未だ之に過ぐる處あらず。

行列中唯一の人たる女王が人民より第一の喝采を受け玉ひたるは言ふを待たず。其次カバル及びカンダーのロバート卿にして、白駒に跨り胸に六個の武勳章牌を懸けたり。此白駒は卿がカバルよりカンダーに至るまで十九日間乘用せし

者にして、群集はボブよ神は卿を眷すとの語を以て之を祝せり。將軍は此間時々輒を弛め、曾つて印度に於て麾下に屬し今列行の中に在る兵士を顧て談話せり。女王の乘輿は蔽なき駟馬四輪の車にて、馬はハノーヴァルの產なり。車の後部に陪乘せしはウェールスの太子と太子妃へレナなり。女王は例の如く黑衣を着し大なる日傘を携え玉へり。

行列の馬車は一哩半に亞り、歐亞の諸王公、殖民地の首相、英國兵、殖民兵及び黑色、褐色、黃色の補充兵、陸續としてセントポールの本寺に至り、河の南岸に沿ふて王宮に還りしが、行程六哩半の間群集は御駕の後に隨ひ、喝采の聲は鳴つて休まず。地球上復た此聲に類する者なく、一度此聲を聞きたる者は復た忘るゝ能はざる所なり。而して斯くの如き雜沓に係はらず、行列は些の遲延なく一の事變なくして其儀式を全うせり。大本寺前の光景は女王をして歡喜の涙を浮ばしめ、國歌は洋々として湧けり。群集は滿足に止らずして深く感動する所あり。夜に入れば倫敦の全市、飾火燦然曾つて見ざる所にして、蓋より此時に至るも何等の暴行なく、巡査の命に從はざりし者なく、巡査も亦潮の如き群集を保

護して善く秩序を維持せしが、反つて從來一切の場合より容易なりき。

大本寺の階下より起れる大露臺は三部に分れ、其背後には赤布を蔽へる許多の張廊、巨大なる大黑柱の間に懸れる狀は宛も鳥の巢に似たり。

其下に巨壇あり。裹ひに錦繡を以てし、點ずるに寶石を以てし、光彩四射、其美麗なる事花の塘を築き出せるが如し。此花卉の間に生ぜるは印度の王公にして、其外被には金剛石を縫込みたるを以て、身は殆ど陸離たる奇光の中に隱れたり。此外大教正及び教正は羅馬寺院の用ふる所に擬したる金袍を被り、各國公使は其僚屬と共に勳章を佩び飾帶を施し金色燦爛たり。中央に於ては夜袍を着たる天使の如き歌童の一隊と、多くの軍隊より撰べる二百人の樂人あり。各一樣の服裝をなす。最下段には本寺の高僧の席あり。其袈裟は淺深兩紅色にして諸大學より喜捨せし所なり。之を外にしてフィンランドの教正、露國の代僧、紐育の僧正の席あり。參列者は如何なる種類も含まざるなく、其中に於て最も奇觀なるは救世軍の大尉にして、其帽の周圍に赤色のリボンを繞らせり。又假髮を戴き黑色の絹袍を服せる判事あり。各色の絹袍を服せる支那人あり。龍帽な

る土耳古の使節あり。アストラカン帽の波斯使節あり。……テュードルの服裝せる衛士の列あり。エドワード六世の服裝せるクライスト・チャーチの學士あり。女王の到着と共に行ひたる儀式は甚だ單簡なりしも、此一瞬間は帝國の歴史中最も深き印象を與へたる者なり。此儀式はテデューム、國歌及びドギソロジーより成る。……ドギソロジーは恐らく未だ此場合の如く歌はれたる事あらず。……何となれば一萬の公衆が「萬福の源泉たる神を贊す」の一語を高唱し感涙面に溢れたればなり。……斯くの如き世界多數の人種、斯くの如き各種の階級が時を同うし處を同うし、同一の精神を以て神歌を奏せし如き場合は古來決して之あらず。式已に畢り、倫敦塔より放てる砲聲が隱々として水を渡り來るや、カンタルベリーの大敎正は其腕を揮ひ「女王の爲めに三呼せよ」と呼び、兵士は劍銃を熊皮に挿み、之を帽上に搖がして喝采し、婦女は屋上又は張廊よりハンカチーフを搖がして喝采し、男子は帽を空に舞はして喝采し、女王は彼等に對して低頭し、眼中涙珠の宿せるあり。

此慶典は高尚なる感懷と寛和なる性質をして一層深からしめたる者なり。

エム・ド・ブレスセンセー氏は慶典を記し、併せて其外國に及ぼせる効驗を記して曰く、

一大人民は其敬愛せる女王の長久なる御宇を祝頌して其宜しきを得たり。而してこれ獨り其君主の光榮を發揮するに止らず、又其人民が自ら光榮を發揮せる者なり。……英國が國民の感情を一變したる所の公德私德を稱揚するや誠に宜しきを得たる者なり。英人は六十年來其幸福榮譽が如何に女王の公私の德に因れるかを感銘するや久し。此頌贊たる實に羨望すべき者にあらずや。然り女王ヴィクトリアのなせし所となさゞりし所を觀れば完全なる憲法的女王にして、女王は未だ曾て寸分も義務の下に在らず、又未だ嘗つて寸分も權利の上に在らず。其家庭に在つては愛情あり職分を勤め皇配に柔順なる妻たるの道を解し、又其國土に在つては其生來の權利を以て九五の位に當れる女君たるの道を解せり。……倫敦は莊重なる儀式を以て既往半百年の懷舊を行ひ、之が人民は六十年間の變化を顧膽して欣然自得せしが、其變化たる根本的、一貫的、組織的の變化なり。政治上、社會上、道德上に於ける革命の變化なり。而して

英人は最も一個の新事實に就て感覺を動かせしが、新事實とは帝國の雄大なる事是なり。……然れども大英國たる者誼んで忘るゝ勿れ、帝國主義は帝國にあらざるなり。帝國は帝國主義の爲めに起りしにあらず。祖先以來穩健寛濶なる思想を抱き、戰勝と內外の自由保存とを第一義となしたるに因るなり。英國の雄大を害する極惡の讐敵は帝國主義の論者なり。此論者は純粹なる理想的連鎖を緊着せんとする者にして、此連鎖たる之を短縮するも之を實現するも、共に桎梏を免れざる者なり。

余は已に米人デヴィス氏、佛人エム・ト・プレスセンセーの慶典に關する文書を引用したれども、更にウィリアム・エム・スティード氏の言を引用せんとす。氏は英國の北方に生長せし人にして、自ら從前は異教徒にして全く王政及び王政の諸機關に反對を抱きし者なる事を公言せり。

今日(一八九七年レヴュー・オブ・レヴュースの六月號)の英國と女王ヴィクトリアが妙齡にして王位に登りたる時と對照する時は、科學技術が非常なる啓發をなしたる結果、吾人日常の生活に便利を與ふる一にして足らずとは、氏の言なり。

今日貧窮人が一ペンニーの錢を以て得る所は、六十年前富者がシルリングにて得たるものよりも多し。蓋しペンニーが二倍の價あれば即ち之を有する者は宛も二倍のペンニーを有するに同じ。彼は倫敦全市を吾有とし、而して倫敦の市たる從前に比すれば繁榮華麗となり、その清潔にして整頓せる自己の爲めに設けられたるが如く、其博物館、圖書館、美術館も亦皆然らざるはなく、公浴場、洗濯所は何れの處にも之なきはなく、學校は殆ど自家の戶庭に在り。公園は逍遙自在、吾領土を行くに異らず。常職を有し、高き賃銀を得、廉價なる麵麭、廉價なる砂糖、廉價なる茶を吃し、其勞働の時間は長からずして、銀行休日の外土曜の半休日あり。病院には施藥あり。此工場には無賃の寢處あり。家々清洌なる水の供給を受け、下水は大規模の排水法を行ふ。これ皆六十年來の新面目と謂ふべし。此外半片の郵便端書はヂョン・オグローツ・ハウス又はランヅ・エンドに配達せられ、世界各處よりの新聞紙は半片にて門戶に到り、工人の汽車賃は何れの線路を問はず半片にて一哩を往復べし。六片は以て電音を合衆國中に送るべく、六片は以て寫眞を取るに足れり。

然れども少年のリップは難じて曰く(こはリップ・ヴァース・ウィンクルが一八三七年より九七年に至るまでの變化を記載せる內に在る想像的對話なり)貧と罪とは依然たり。去年は吾人の監獄に於て五千の罪囚ありと。其父叫んで曰く、汝は幾何と云ひしや、五萬とや。曰く、有り難き事には五千なり。父曰く、余の時代には人口半ならざるに罪囚は五萬なりしと。

女王ヴィクトリアの世に生じたる最大變化は男女とも己れの所有を他人に分たんとする事なり。蓋し六十年前の重なる思想は排外と獨占との二者なりき。然るに今日英國在ては我が有するの所はわれ之を分つと云へる主義となれり。女王即位の時に於て海底電線は只規畫に過ぎざりしも、今や全世界に貫通せり。但し即位の最初五年間は女王の御宇の幸福なるべき望絶えてなかりしなり。

サー・シオドル・マーティン曰く、一八三六年以來凶年繼續したる爲め、食物の價格は格外の騰貴を來し、一方に於ては工業の萎靡、商業の澁滯は勞力者の賃銀を減少せるが故に、物價の昂進は殆ど耐ゆべからざるに至れり。

全國に亘れる大暴動は延て一八三六年に至り、纔に兵力に因つて之を鎭壓す

るを得たり。……暴徒は全國を橫行して碓舍工場とを問はず闖入してその機械を破壞し、罷工の意ある者を脅して暴動に與せしめたり。

女王即位の時カナダも叛亂を作せり。然るに今日は英國の殖民中斯くの如き忠順なる處あらず。異敎と國敎とを問はず、眞實なる宗敎の再興を致し、時に宗派形式の爲め其明光を蔽るゝ事あるも、各派皆奮て貧困無學の徒を救濟せり。ステッド氏は曰く、前代に於ては斯くの如く英國の善男善女が一般の康禍に努力せし事あらずと。桂冠詩人オースティン・アルフレッドは慶典に際して作る所ありしが、倫敦の批評家は非常の佳句となせり。

女王は其人民に就て云へり。

彼等の思想はわが思想、彼等の目途はわが目途。

彼等は忠義の心より、わが神權を成すぞかし。

然れども國民の肺腑を穿ちたる詩はキプリング氏の「リーセッシナル」なり。之よりも一層余の心を動かせし者は慶典の當週にデーリー・クロニクルに見はれたる詩篇にして、これ或る人がニコラス・ローエの「ゼ・ローヤル・コンヴァルト」なる舊劇よ

り檢出せし所なりと雖、一七七四年に至るまでは再版せられざりしなり。但し氏の死せしより久しき後なり。

哲人が未來を豫想せしは左の如し。

尊き王者の血筋よりプリティシ女王は興るべし。
神を敬ふ念深く、高運なるが其上に、仁あり、智あり、大あり。
其花遠く輝きて、英名後に轟かん。
暴君必ず斃れなん。不信の君は殺されん。
玉手民をば撫て玉ひ、倒に懸けたる繩を解き、
樂土の本は何事ぞ。叡慮賢く往きとどき、
母より深き其惠み、
狂瀾怒濤を推し開き、利濟の磁針誤らず。
武功の譽重なるも、
平和は心の悅ぞ。

名譽の一は連合に、ピクト、サクソン、アングルの

其名は消えてブリトンの、名のみ世界に貴けれ。
昔の敵を今の友、
內訌內亂跡絕えて、
理義と慈愛を守りつゝ、
德輝は御代を照すなり。
神は御世をば惠みつゝ、
合同無窮に續くらん。

余はこの詩に附するにソンネット体の一篇を以てせんと欲す。これ作者が「慶典に對する米人の反響」と命題したる者にして余の最も美とする所なり(詩略す)。

慶典の當週中最も美觀にして又偉觀なりしものはスピット・ヘッドの觀艦式なり。艦船の火飾なり。一七九七年(ノーア、スピット・ヘッドに大叛亂ありし年)に英國の海員が抱きたる感情と、此演習に與りたる各海員の君國に對する忠情との相懸隔すること甚しき、殆ど其類を見ず。

余の父が常に余に語りし所に據れば、一九七九年ノーア、スピット・ヘッドに叛亂の起

りし當時、海員の疾苦は甚しきものあり。父は此歳を以て海軍に入りしが、平生の話に、士官候補生の會食に當りビスケットの碎けたる時、穀鼠は其斷片を取つて走り去れりと。その不規律にして不潔なるや知るべし。然るに叛亂の結果(勿論首魁は軍紀の爲め嚴罰に處せられたり)英國海員の食料娛樂を善くするが爲めに一大變化を致せり。

蓋し一七九七年の水夫は事として虐待せられざるなく、脅役と云ひ、食物と云ひ、給金と云ひ、身躰の虐使と云ひ、皆叛亂の源因をなさゞるなく、チルソンは常に水夫の爲めに之が慰藉を求めしが、これ實際彼等の疾苦を諒せしが故のみ。叛亂は此歳五月を以て作り、英國に取つてはかのアルマダ艦隊が海峽を通過せし以來最大の危難なり。然れども水夫の精神はスピット・ヘッド叛兵の抗論中反つて下の如き忠誠の語あるに由つて之を見るべし。曰く、わが徒は英國の君主が世界の一國によつて窘しめらるゝに先だつて從來受けたる艱苦の二倍を受くるを辭せずと。

海軍演習は恐らく慶節諸式中最も異彩を放てる者にして、其偉觀にして世界各

國より親しく歡悅の辭を受けたるも亦宜なり。恨むらくは女王は高年の爲め慶典當日の疲勞を休むる必要より親臨せられず、ウェールスの太子女王に代つて臨まれたり。

此演習に方り軍艦は二十五哩に開張し、竝んで五列となり、各〻相距ること五哩、ウェールスの太子夫婦は來賓の諸王族とヴィクトリア・アンド・アルバルトと名づけたる女王乘御の快艇に駕し、午前十時を以て艦列の間を過ぎ、敬禮喝采四方に起れり。已にしてヴィクトリア・アンド・アルバルトに饗宴を開き、臨宴の海軍將校は小汽船にて參會し、獨り露米二國の將校のみは長きボートに乘り、自國に水兵に舟を操らしめて本船に向ひ、水兵が櫂を執つて敬禮を施せし時の如きは殆ど翫中の趣あり。九時に至り太子は電機の信號を發し、各船は一時に飾火を點ぜしが、太子は復び艦列の間を通過せり。此際米國を代表せるブルックリンの飾火最も美麗なりし事は何人も異言なき所なり。此事件に關して最も奇なるは數月後此船が西班牙のヴィゴカヤを距る遠からざる所に碇泊せし事なり。

既往十年間に於て英國の王室に關する事件少からずと謂ふべく、女王ヴィクトリ

アの皇孫女は相繼て婚姻の事あり。エディンバラ公サックス・コーブルグ・ゴサの公子アルフレッドは一八九九年二月養療の爲め旅行を試みたる間に於て、其一子はティロルに死し、公子も亦心臟麻痺に罹り一九〇〇年を以てロセノー城に薨去せしが、是より先き舌と喉頭に疔を患ひたり。公子の後を承けてサックス・コーブルグの公爵を嗣ぐべき者は女王の第三子コンノート公アーサーなり。然るにサックス・コーブルグの人民は主張すらく、同地の公たる者は獨逸人として養成せられ、サックス・コーブルグに住し、獨逸大學の教育を受けたる者ならざるべからずと。コンノート公の子は英人たることを擇み、終に故アルバニー公レオポルドの遺子を繼嗣と定め、此人は叔父の後を襲ふべき教育を受けたり。

ヴェールス太子の子ヨルク公は其從兄弟の子なるテックのメーを娶れり。公は全く水兵なりしが舊派の如き粗野なる水兵と其趣を異にし、其人となり懇切にして教育深く、其妃も英民の愛慕を受けし人なり。但し嚮にヨルク公の兄弟と結婚を約せし事あり。而して妃の母なるテック公爵の夫人ケムブリッヂのメリーも亦人望に富ひ、英人は街上に於て之を叔母メリーと呼び、尤も女王の寵愛する所となれ

り。蓋し妃は英國婦人の儀型なりと謂ふべく、其夫家の一族は格別著しからざりしも、忠厚にして才氣あり。此テック家はウルテンブルグ家の支流にして、其初は微々たる鄕紳士に過ぎず。第十三世紀に至りテック伯となり、堅固なる城壁を擁し一小村を領せり。其族人は皆功名を望み才幹あり、他鄕に赴きて利を圖る者多し。其後其親族なるウルテンブルグ家と雄を爭ひ、遂に之を破つて城と國とを奪へり。第十五世紀に當りウルテンブルグの長をエベルハルドと云へり。一日諸侯伯を招きて宴を張り、各〻其領土に就て誇言をなすや、エベルハルド之に謂つて曰く、余の土地に就ては余は唯將に言はんとす、余の領內には一人のスワビア牧羊者なし。彼は余が疲勞して其膝を枕とするや、滿身の血を流し盡すまでも余を防衛すべき事を信ずる能はざればなりと。

エベルハルドは請求に因らずしてウルテンブルグ、テックの兩公に敍せられたるが、これマキシミリアン帝の命に出て、一四九五年の事に係る。而して此二國が三百年間獨逸地方何れの處よりも更に自由なる政治に浴せしは、實に公の遺志に本づけるなり。已にして一八〇五年ナポレオンはウルテンブルグ、テック公を陞し

てウルテンブルグ王となし、其姪アレキサンダーは出てゝ墺地利に仕へ、其子はテック公となり、一八六六年英國のメリー公子と婚を結び爾來英國に居を構へたり。

メリー公主は其王族の出なるを誇りしが「スペクテーター」は云へり。

公主の人品は神仙談中の王女の如く、貴賤老少を問はず微笑を以て之に接し、懇切を以て之に臨まれたり。而して其微笑は人情に富み、其懇切たる慈善と遜讓の單純たる行爲にして、これ何人にても心情溫くして忠恕切なる時他人に對して發する所なりと。

其女メー即ち今のヨルク公爵夫人は多日英國の女王たるに庶幾し。ヨルク公は未だ曾つて政治に關係せしことあらざりしも、晩近公會に於て演說をなす事あり。これ其父ウェールス太子の意に從へるなり。蓋し其祖父なる皇配は政務の爲めに其羸弱なる身體を害せし人なりき。

女王も初め位に即きし時は極めて纖弱なりしと雖、今や八十二歲の高齡に達せり。而して何れの點より觀るもなほ數年の壽を享けらるべし。近年は冬期に至る

毎にニース若しくは伊太利に避寒せらるゝ事なるが、其佛國を過ぐるや常に優待を受け王ふ。

一八九七年慶典の數週前、余の兒はニースに於て女王を見奉りしが、女王馬車を騙つて外出せられんとせし際にして、兒は其咫尺の處に在り、低頭して敬意を表せしに、女王は之を觀て微笑を洩し給へり。兒の話によれば女王の微笑せし時玉顏誠に麗はしく、風貌全く一變せりと云ふ。

女王は切に愛耳蘭の頑民を懷柔せんと欲し、一九〇〇年を以て同地に行幸あり。これ女王に在つては甚だ大膽なる行爲と謂はざるを得ず、何となれば之より先き慶典の時に方り愛耳蘭人は女王に對して敵意を示せしのみならず、下院の愛耳蘭議員は英國並に女王に對し明々狠戾毒惡の宣言をなせしを以てなり。然れども、ダブリンは誠心を以て女王を奉迎せり。

女王の愛耳蘭に行幸せられしは同地の軍隊がトランスヴァールの戰に偉功を奏したるを嘉し、併せてロバート卿、サー・ジョージ・ホワイト、ケリー・ケンニー將軍の如き愛耳蘭人を恩顧するの意に出てたるなり。

女王は三週日愛耳蘭に駐蹕中、日々玉體を人民の目に觸れしめ、到る處敬禮歡呼を受けられぬ。一日無蔽の馬車を驅つて村郊を通過の折柄大雷雨に遇はれしも、前途御怒を待てる沿道の人民の心を空うすべきを憐み、還御を肯ぜざりしと云ふ。顧ふに之をして他の婦人ならしめば八十一歳の老體を以て雨に濡るゝが如き事を敢てせざりしなるべし。然るに女王は平然として少しも之を厭はず、其無難に在せしは誠に幸なりき。

女王は更にダブリンより數哩を隔てたる羅馬舊教の僧院を訪はれ、次でフェニックス公園に觀兵式を行はる。然るに女王が小兒を愛せらるゝ事は夙に名高かりしを爲め、兒女の女王を拜せんとして遠隔の地より汽車に乘じて來る者夥しく輻輳し、愛耳蘭の新聞紙に據れば其數殆ど五萬人に達せり。これ愛耳蘭行幸中最も人心に影響せる者なり。女王の此擧は親愛の念より出でたりと雖、又頗る智慮ある行動なり。蓋し之に因つて其父母に及ぼす力は極めて大なるべく、又小兒の念頭に復び忘るべからざる印象を與ふるに足るべし。

女王のダブリンに於ける最後の行爲は總督に向つて敕語を賜へる事にして、英

國の新聞紙は曰く、これ陛下が臣民に賜へる玉音中の尤も溫厚にして謝意ある者に屬せり。其主意は三週日の間この樂土に駐蹕中、何れの階級何れの宗派を問はず、此上もなき熱情と愛好とを奉じたりと云ふに在り。要するに女王の愛耳蘭行は無限の好結果を收めたる者なり。

此際ウェールスの太子は白耳義に於て刺客の難あり。幸にして事なきを得たるが、若し禍に罹りしならば、此行幸も女王に取つて悲慘の念を留めたるならん。

四月十四日ウェールスの太子がコーペンハーゲンに赴く途中汽車に乘ぜしに、シビドーと云へる少年は是より先き一片の入場券を購ひプラットフォームに入込み居りたるが、忽ち客室の階段に躍り上り、太子に向つて短銃を放ちしも二回は誤つて發火せず、其後發火したれども幸にして二彈丸とも太子に命中せざりき。少年の言に據れば太子がチャムバレーンと謀つてボア人を殺したるが故に太子を殺さんと圖りしなり。然れども其襞囊中には夥しく無政府黨の斷簡を藏せる事を發見せり。則ち彼は普通の智慮なき少年にして、恐らくは毒惡なる演說を聞きたるが爲め激昂して此擧に出でたるなるべし。如何に博士レーヅがフランダ

ル人を欺いて基督教國中獨り舊教徒を迫害する國の爲めに僧黨の同情を煽せしかは疑問なり。然れども彼等をして英國を憎ましめたるは事實にして、狂漢の刺殺を圖りしも亦其結果なり。彼は其二人の朋友より勇氣なしとて辱められしが、自ら其勇氣を證せんが爲めに太子を犯したるなりと云ふ。

彼は僅か十六才の故を以て勸化院に送られしも、三ヶ月の後出院せり。但し逃亡にあらざれば則ち無條件にて赦免せられたるなり。

第二章　一八八〇年より一九〇〇年に至る女王の宰相

一八七四年のディスレリー內閣は一八八〇年を以て其位を退きグラッドストン氏之に代れり。蓋しディスレリーはこれより先き一八七八年伯林會議に於て露國をして英國を敵視せしむるの端を發せし者なり。ディスレリー內閣の內治に於ける政略は自由黨の後を承け毫も變更する所なかりしと雖、外交政略に至つては一大變化をなし、之に繼ぐに種々の紛爭を以てし、其禍は延いて今日に及ぶ。乃ち英國は露西亞と戰ふを免れたるも、アフガニスタンの邱陵に住する部落と戰はざるを得ざるに至り、國民は漸く東洋思想に胚胎せる當局者の露國主義を怖るゝの狀あり。之を以てグラッドストン氏の內閣に立つや務めて前任者の政略に反せんと欲し、トランスヴァール並にソーダンの割愛も亦戰爭を避くるの目的に出て、

空しくゴルドンをカルトームに遺棄せしも之が爲めのみ。而して今日英國は方に此政略の餘殃に苦しめり。

抑埃及の政略はカルトームの救援に終り、而して援軍が時機に後れゴルドンの死を救ふ能はざりし事は英人の心を激昂せしめ、グラットストン氏は選擧權を擴張し地方人民の援助を得んと欲せしも議院に於て敗を取り、以爲らく、斯くの如く國民の助を得ざる時は行政の局に當るべからずと、遂に其職を辭し、ソーリスベリー卿代つて大宰相となれり。已にして自由保守二黨に對する國民の去就を解決すべき總選擧を行ひし處、グラットストンは新選擧人が始めて選擧を行ふに乘じ、英倫選擧人の多數を制せんと欲せしが、これ危急の場合に臨み議院に於て愛耳蘭議員を賴むの不便を免れんとするが故なり。然るに氏は僅に英國の北部、ウェールス、蘇格蘭に於て自由黨の援助を得しのみ。英國の他處に於ける投票は其所思に違ひグラットストンは之が爲めに大に望を失へり。乃ち其將來愛耳蘭の自治問題を以て政綱となせしは職としてこれに由る。かの自治案は愛耳蘭をして合衆王國より分離せしむる者にして、英國人の之を視るや宛もわが北部が南

部の分離を視て以て合衆國の瓦解となせしが如し。愛耳蘭自治案の危險は獨りこれに止まらず、若し英國が戰亂に際する時あらんか、愛耳蘭は英國の敵に與する一七九八年の如く、之に與せんとする一八四八年の如く、外寇の英國を襲ふに當りこれが根據地を供するなきを保せず。然れどもグラットストン氏は下院に於て自治黨の助を得、復び政柄を得んとせしに、如何せん英國に於ける自黨は之が爲めに分裂を致し、氏の舊黨與にして其愛耳蘭政略に反對せる者は別に一派をなし、今日所謂自由聯合黨なる者を創立せり。

グラットストン氏の在職は一八八六年の二月より八月に至り、此以後は保守黨復び政府に立てり。但しグラットストンは自治案の爲めに議院に黨與を失ひしと雖、其一身上の輿望に至つては未だ曾つて減ぜざるなり。

何が故に愛耳蘭はカナダの如く、ケープの如く、又濠洲の如く、自己の議院を有し自ら國政を行ふべからざるか。余は此問に向つて答へんとす。愛耳蘭は依然たる愛耳蘭なり。其英國に近きと甚しきが故に信賴すべからざるなりと。若し之をして絶海二千哩の外に在らしめば、或は試に之を許すも可なり。但し縱令此場合に

至るも英國は其人口の三分の一を占むる人民(ウルスターの新教徒は母國の保護を仰ぐこと三百年)を其敵の手に委するに忍びざらん。敵とは誰ぞ。動もすれば激昂騒擾、制御し易からざる國性を有する愛耳蘭人これなり。然るにグラッドストン氏は其絶倫の勇を以て、其博大の學を以て、其勸誘の力を以て、其懸河の雄辯を以て、自說を主張するが故に、苟も其謦咳に接する者は之に傾倒せざるなし。故に氏の批評家は曰く、何人も彼の交場に入る者はその感化力の不思議なることを覺えずんばあらず。若し氏をしてサー・ロバート・ピールの死せし年に死せしめしならば、其時の最大政治家と認められたるや疑なしと。

一八九五年アーメニア虐殺の起りし時、グラッドストン氏は已に政府に在らず、又議院にも其席を有せず。然るに筆舌並び用ひて其蘊蓄せる言論の天能を竭し、國人を鼓舞して干涉の擧に出てしめたるが、其如何なる事を犧牲にするも平和主義を奉ぜしは彼の一時なり。其國民に主戰主義を皷吹せしはこの一時なり。これグラッドストン流と謂ふべきのみ。余は前章に於て東方の危機を述べしが、其中の事實はグラッドストン氏の失計を議するに足るべきものあり。氏は常に改革を速

に行はん事を望めり。今やアーメニアは實際平和の狀態に在り。クリート島は四大强國の委員なるジョージの下に泰平なり。希臘は土耳古と雌雄を爭ひし處、三十日役に於て文明諸國の意外に出て、土兵の武勇精錬に敵する能はずして敗を取り、而して土帝も亦一八九七年列强の干涉に因つて戰勝の所得を失へり。之を要するにソーリスベリー卿の外交は其結果何れの國も大なる利益を得ることなく、又大なる損失を受くることなし。

願ふに土帝は契約を守る能はず、從つて彼を淩劇するも何等の利益なき事は英國の覺りし所にして又恐らくは記する所ならん。

グラッドストンが數十年の間苦辛拮据の生涯を通し元氣の旺盛嵬强なりし事は近世史中最も卓々たる者なり。夫れ政治家に在つてはバルマルストン、ビスマルク、法王レオ、將軍に在つてはラデツキー・フォン・モルトケ等、其畢生の大業は皆七十歲以後に成りたる者多しとは云へ、グラッドストンに至つては七十歲を過ぎて新に辯力の生面を開き、大討論家として議院に立ち、其演說は政家の伎倆に富み、古典文學の引證に富み、演壇と屋外とを問はず雄辯家の巨擘と仰がれたれども、之

が爲め晩年其政治家たり思想家たるの本質を害したる事を免れず。抑〻八十歳の老翁が老衰するに隨つて益〻小兒の如き狀態に反り、批評の能力なき多數聽衆の應答に因つて左右せらるゝ如きは豈に奇ならずや。而して議院に於ても一旦思慮に浮びたる事を自制するに至りしも自然の結果なり。

「コンテムポラリー・レヴュー」に見えたるリチャード・ホルト・ホブソンの言に、

グラッドストンの晩年數歳に於ける政略は、大抵賤劣なる民間俗情を視ること高きに過ぎ、熟練なる官署の智識を視ること卑きに失したるに由る。而してこれ識らず識らず一般の聽衆より吸收せし所にして、此聽衆は氏が非常なる勢力を有せし者なり。

ハジェオットはグラッドストン氏の早年に於ける議院生活を目して一個の「問題」とせしが、氏はその年齒と事業との進むに從つて益〻「問題」となれり。然れども其變化、其躁妄、其矛盾の間に目的の純正と學問の欲望其實不學のことは即ちこれあり。然れども氏は其早年尤も好尚したる信念を自棄し、晉に其變說を他人に强ふるのみならず、其駁擊を加へたる政派政略は往々彼が數分前まで自ら執つ

て以て奉ぜし所のものなり。蓋し氏の宗教心に深きや、己れの持說を以て天啓なりとし、其重なる政略の中全く自己の意見を以て英國を左右せし者あり。余が嚮に引據せるハットン氏はチャールスの俘囚に關し、伊太利に關し希臘に關し、グラッドストン氏の成就せる外交政略の詳表を作りしが、之に一言を附して曰く、グラッドストン氏のマチュバ・ヒル敗軍の後トランスヴァール撤兵の時に於ける大膽なる處置の如き、縱令自國の爲めに不祥を忍ばんとするも、勞力者の人望を失はざりしとするも、國家の屈辱を招きたる事英國の政治家として其勢力を失望するの擧なりと謂ふべし。

右は一八九四年に記せし者にして世界が未だ此國民的愛他主義の恐怖すべ結果を豫想せざる時なり。抑〻此愛他主義はグラッドストン氏がトランスヴァール事件に於て奉行せし所なるが、他の場合に於ては妄進邁往危險なる結果を釀して顯みざりしなり。

蓋しグラッドストンの爲めに其時々妄擧に陷るを悲しむものと雖、氏が前後四回大宰相たりし間に英國を神益したる事に至つては亦皆認むる所なり。即ち餘裕

多からざる旅客の爲めに英國の所謂議院列車なる者を設け、兒童の汽車賃を半額とし、新聞紙の印稅を廢し、各廣告の六片稅を廢し、紙稅を廢し、勞力者をして月刊新聞を讀むの便を得しめ、租稅の負擔を弛め、地主と借地主と關係を改良し、愛耳蘭に取つて最も苦痛なる英國教會を廢せしが如きこれなり。而して熱誠なる國教徒が此廢止に默從したる所以は、明白なる弊害にして匡正せられざる時は教會の事業は當を得ざることを信ぜしが故なり。今や米國教會に行はるゝ主義は隱然愛耳蘭に入り、英國教會の會員は其牧師を扶助せり。又選擧に投票式を用ひたるが、或は之を以て詐僞共謀を防ぐに足るべしと信ぜしと雖、實際は未だ此弊を絕つに至らず。而して一般人民の教育はグラッドストン氏の力に因て發達を致せり。グラッドストン氏は大なる讀書家なり。熱中せる騎馬手なり。優れたる音樂家なり。氏がハワルデンに在りし時、公園に於て樹木を伐りたる事の如きは人の善く知る所なり。然れども其私生涯に關しては已に他處に於て之を述べたれば今復た贅せざるべし。

一八九八年四月世間はグラッドストン氏の危篤を傳へ、之と同時にソーリスベリー卿大患なりとの風說ありグラッドストン氏の死因をなせしは腫物なりしが、最初より醫は疔なりと診斷せしも、氏は請ふて報告書を作らざらしめたる故、世間は病狀の如何を知る能はず。氏はジョン・モーレーを指名して遺言執行人となし、一八九八年五月十九日を以て歿せり。其棺は自宅より倫敦に送り三日の間之をウェストミンスター・ホールの上壇に安置せり。靈柩を來拜せしもの二十五萬人に及び、一切を擧げて簡率なりしと雖反つて眞摯人を動かせり。

我米國がサンティアゴより開戰の砲聲を聞きたるより數日後、グラッドストンの遺骸はウェストミンスター・アベーに葬られ、ソーリスベリー・ローズベリー以下政敵私友に論なく、會葬せし者頗る多く、ウェールスの太子及びヨーク公は棺側に傍ひ、外交團、諸大學、陸海軍より派遣せし代理人は大伽藍に充滿し、神歌中に「ロック・オブ・エージス」あり。會衆は一齊に之を歌ひしが、この歌はグラッドストン氏が生前特に愛吟せし者にして、曾つて之をテニスンの詩に譯せし事あり。カンタルベリー大敎正の讀經に因つて儀式を畢るや、グラッドストン夫人の傍に立ちたるウェールスの太子は身を屈して夫人の手に接吻せり。

この尊敬すべき夫人は乃夫の人格乃夫の事業と終始相關して內助の功あり。社會の之を尊び之を愛する殆ど夫婦一體の觀あり。其グラッドストン氏に嫁せしより伉儷六十年の間或は疲勞を慰め、或は妄信を止め、倦怠を勵まし、瑣細の事を以て之を煩はさざりき。

グラッドストン氏か一八五五年に作りたる手來中自己の猛烈なる心氣性僻を自覺せし事を記せり。而して此性僻を和げ此心氣を矯むるは夫人一生の事業なりしと謂ふべく、常に氏の苦惱を防ぎ凡ゆる力を盡して其耳に惡聲を入らざらしめ、若し平常好意ある新聞紙が時に惡評を下せる場合の如きは之を目に觸れざらしむべき手段を取り、又食卓の談話に好ましからざる樣子あるときは、忽ち小兒の百日咳若くは食卓の裝飾等に就き無邪氣なる質問を起して之を避けき。グラッドストンの演說を傍聽せし者は、其眼光の電の如く閃き始まるや、瞋んて雷聲の卓論を聽かむと期待するに其春愁なるより忽ち侮蔑の心を生ぜり。而して此春愁こそ氏は極めて細心に構造し、極めて久しく實行せる政略なり。これ素より不利益に相違なしと雖、若し此に出てざらんには其想像

的と實際的の間斷なき心勞は猛烈なる心氣と性僻とは夙に氏の政治生涯を破壞せしなるべし。これ氏夫妻を知る者の成說なり。

吾人が夫人を欽仰する所以の美所はこれに止まらず。夫人が其家族以外に於て、ハワルデンの領地外に於て、世間男女の爲めに努力したる事業一にして足らず。一八四六年倫敦ソホーに設けられたる窮民救濟院の保護者たり。夫人は曾つて該院に於て都府の窮民を救濟すべき方術を學びたる事あり。當時夫人は一見知るを得べき貧困者以外に於て如何に多數の窮民あるやを發見せり。

夫人は一種の慈善院が屢〻夜間宿泊を要求せる者を拒絕せしを見るや、奮つて基金を募り、リースター區の近傍に廢屋を賃し、無家の窮民に向つて一時の宿所に供せり。蓋し一八六三年倫敦の局院には未だカシュアル・ウォルドの設あらざりしなり。夫人の此擧は慈善事業中の新面目を成就せる者にして、避難所を設立するの運動は夫人を以て唱首となす。而して斯く倫敦街上助なき窮民の事情は世上の注意を呼起したる結果「無家貧民條例」の發布を見るに至れり。而して倫敦の貧院は全都の課稅に因り無宿者及び遭災の旅客の爲めに特別なる設備をなせり。一

八六六年英國にコレラの流行するや、夫人は毅然として之が敵となり、大低日にホワイト・チャペルの傳染病室に至り、溫言を以て患者の心を慰め、花卉を贈つて患者の目を樂ましめ、其來院は獨り患者の幸福なるのみならず、醫員看護婦に至るまて亦皆之が爲めに活氣を生ぜり。最後に及び夫人は又コレラの爲めに父母を喪ひし童子を收容すべき家屋をクラプトンに求むるに當り大に盡力する所あり。之と同時にカンタルベリー僧正の夫人テートはフルハムに同種の收容所を建て女子を育せしが、倫敦の病院が擧つて貧民の爲めに自由療養所を建てしは概ね此例に値ひしなり。

今茲にグラッドストン夫人の關係せる慈善事業の半をも詳述するを得ず。然れども夫人の建立せるハワルデン城門の孤兒院と老婦救濟院とは遍く人の知る所なり。猶此外余の洩らせる夫人の慈事業あり。之に就き或人の證言する所に據れば、夫人の之を處理する周到にして終始あり、殆ど人をして夫人の唯一なる慈善事業なりと思はしむる程なりきと。

夫人は一九〇〇年六月を以てウェルデン城に卒し、ウェストミンスター・アベーなる

其夫の墓側に葬られしが、これグラッドストン氏の葬禮に際し夫人がウェストミンスターの長老に約せし事あるに由れり。

グラッドストン氏は晩年白障眼を病み爲めに頗る其活動を妨げたり。これ或る時公衆中より一婦女がジンジャーキを氏の一眼に投げ中てたるより起りしなり。已にして適當の機を待ち現行の方法に因り手術を施し、少許の痛を感ぜずして平癒せり。

ソーリズベリー卿も政界に入れる以來亦屢〻其意見を變じたるは他の名士に異る所なし。然れども一八五四年以後英國の事情も變じたる所ありしを知らざるべからず。其政治の閲歴は三大期に亘り、之を初にして舊派の獨立トーリーたり。之を中にして帝國主義なるビーコンスフィールド内閣に在つて外務卿たり。之を終にして保守黨の現首領たり。

夫れ然り、卿は曾つて一たび政敵の手にしたる許多のカードを用ふべき境遇に在り。卿は農業の負擔を輕くすべき方案を贊し、老者に恩例を授け年金を給するに意あり。英國の勞力者をして各〻自宅を有し其出生の地に土着せしめん

と欲せり。又雇主と傭人の連合せしむべき合同組織を設けんとするの志を抱けり。若し是等の事を實行するを得たらんには、獨り英國のみならず、大陸の保守主義を益する少からざりしなるべく、即ち革命の如き疎手段を用ひざるも社會の改良を得べき事を希望し信憑せる者に取り少からざる利益を與ふるや必せり。

然れども、ソーリスベリー卿は三事に於て絶對の保守主義を持し、合衆王國の憲法に手を觸るゝを欲せず、何れの黨派と國民とを問はず、英國の國旗を輕侮するを許さず、外交のことは外務省より第四階級に移すを欲せず、又第三階級に移すをも欲せざりしなり。ソーリスベリー卿最初の演說は一八五四年ロバルト・シェシル卿なりし時國會に於て之をなせり。數年の後クランボルン卿として下院に列せしも暫時の間に過ぎずして、其父の死せしに因りソーリスベリー侯となり遂に上院議員に移れり。其下院に於ける議員の經驗に因つて大に得る所ありしは猶政界に雄視せんと欲する他の政治家に異る所あらず。余が已に叙べたる如く英國の事情はソーリスベリー卿が政治家として立ちたる半世紀間に於て著るしく變化せしが、其變化の甚しき、ソーリスベリー卿の如き人をして從前排斥したる方案を贊成せしむるに至れり。又卿は實に一旦贊成の樣子ありし立法に反對せし事あり。然れども卿の所信は大體に於て動搖せざりし事なほ其性質の大體に於けるが如し。

卿は少壯の時より公開演說に於て無思慮なる言を出すを以て名を得たるが、本年英國を擧げて愛耳蘭諸將に對し、フェニジール兵に對し、愛耳蘭のヴィクトリア女王歡迎に對し頻に熱中せし時、愛耳蘭人に向ひ彼等の渴望せる特別の立法を期待するの要なき事を明言せしが如きこれなり。

卿が初めて政治上卓越の地位を得たるは、ディスレリーの同僚として伯林會議に隨行し、之を輔佐したる時に在り。蓋しディスレリーは才能の士を識るの明あり。而して能く之を拔擢せしが、ソーリスベリー卿を信賴せし事は殊に深かゝりしに似たり。然るに誰か知らん、高尙なる貴族は政治上の危機に際しディスレリーに反對せし事一にして足らざりしを。

ソーリスベリー卿は伯林より歸國するや命を奉じてコンスタンティノープルに

往き土國の政治家と協商する所あり。尋てデルビー卿に繼いでビーコンスフィールド内閣の外務卿となり活動の生涯に入り、此内閣の勢力を失ひし後卿はなほ三ヶ年其中に留り、一八八五年大宰相兼外務卿となれり。已にしてグラッドストンはソーダンを放棄し、南阿共和國のボア人に讓歩し、其條件は只外交關係上女王の主權を認めしむるに止まれり。

ソーリスベリー卿がグラッドストン氏の後を承けて大宰相となるや、前任者の事業を廢止する能はず、之を繼續すると共に併せて其結果を擔任し、其方針に從つて己れの政略を建つべき地位に在り。

卿はグラッドストン内閣の責任と困難とを引受けしが、これ己れの契約せざりし借財を償ふに齊しかりき。又己れの撰任せざる使用人に信を置かざる能はず。己れの提出せざる問題を解決せざる能はざりき。

然るにソーリスベリー卿の政治が殆ど成功に庶幾かりしは其慎重に由ると雖亦幸運の致せる所なり。現今トランスヴァールとの戰爭の如き人民は切に卿を扶翼するも、英國の國威將に墜ちんとするに當り、英人たる者誰か之を維持するが

爲め犧牲をなさゞる者ならんや。

卿の主張する所は佛國の遠征隊をしてファショダを退かしめ、オムダルマンに於けるサルダーの勝利を無効に歸せしめざるに在り。是に於て巴里の英國公使に訓令を授け、竟宴の演說に於て佛國の上下に告げしめて曰く、英國は復た佛國の新聞紙若くは政府の芒刺を忍ばざるべしと。然れども卿はニゲリアに於て佛國に大讓歩をなし、佛國をして獨り中央阿非利加に起らんとする回教問題に當らしめたるが、佛國のマダカスカルに對する不幸なる政略には干涉を試みず。其サイアムに對する權利に就ても亦然り。

世界の耳目が方に東方に偏注せる時に當り、ヴェチヂュラ問題は突如として起れり。而して英國は之が爲めに力を割かれてクリート竝にアーメニア事件に對し活潑なる行動に出づる能はざりしなり。ソーリスベリ卿は專ら調和の精神を以て之に臨みしが、一八九五年十二月米國々務卿オルチーより痛劇なる公文に接し、並に大統領クリーヴァランドが議會に發せる同樣の敎書を得たり。而してオルチーの無思慮はソーリスベリー卿に讓らず、公文中妄に不謹慎の語を用ひたり。

ヴェネズエーラと英領ギヤナとの疆界に關する爭は由來する所頗る遠し。然るに双方ともに其爭點たる土地に重きを置かざりし爲め、多年の間未了の案に屬せしが、此間に金鑛の發見あり。爭點なる僅々數哩の地は俄に聲價を生じ、殊に英國の探金者は以て奇貨となし、遂に此輩とヴェネズエーラ人との間に爭端を發し、而して英人は損害を受けたりとて之を本國政府に訴へたり。已にして米國の大統領クリーヴァランドが議會に教書を送り、米國の國務卿がソーリスベリー卿に公文を送るや、忽ちにして天下の耳目を聳動せり。公文は米國がヴェネズエーラの保護者としてモンロー主義に因り咄嗟の解決を要すと云ふに在り。ディスティン・マッカージー氏は云ふ、爾來本題に關する大統領クリーヴァランドの擧措は從來と同じく冷淡機慧にして調和的なる政治家の本領を顯はせりと。之より數週間は兩國とも何等の激動を生ぜざりしも英國に取つてはアーメニア及びクリートの問題に活動するの妨礙をなせしは余の已に述べたるが如し。已にしてアーメニア、クリートの二問題落着に及び同時に英領ギヤナとヴェネズエーラの疆界論も亦終を告げしが、此協商に於て米國一流の名士より成る委員はヴェネズエーラに左袒せり。然れども一八九九年十月三日協商會議が判決を下せし時に、兩造の勝敗に心を勞せし者は甚だ多からざりしなり。何となれば此數年間ヴェネズエーラは內亂の爲めに危急に瀕せしが故に、一時兩大國の釁を啓かんとせし事件も復た之を顧るの暇なかりしを以てなり。

抑、第十九世紀の末年に於ける英國の大事件は之を「阿非利加に於ける歐羅巴」と云へる部分に叙述すべし。

ソーリスベリ卿の閨門は最も幸福にしてグラッドストンと相類せり。夫人の內助は極めて多く其死亡は夫人を識る者の最も悼惜せし所なり。夫人の晩年は其子エドワード・シェレルの爲めに憂愁に堪へざりしが如し。但しエドワード・シェレル卿はメーフキングの圍中に在りたればなり。

夫人は其家族其知人の爲めに一生其力を盡し、從つて其愛慕と稱贊とを得たり。ソーリスベリー卿は伉儷四十餘年琴瑟和調を極めたるに、一朝皷盆の憂に遇ひ其悲哀を慰むるに由なし。……夫人の內助を奏せし所以は冷靜寡默に由るにあらずして忠告善導に由れるなり。

女王ヴィクトリアの御宇英國に起りたる大變化の中に於て、今日の大政治家が大抵其舊來の政見を變改せしが如き其最も著しき者なり。グラッドストン氏は初めジョージ・カンニングの徒弟として世に立ち、大學に在つては舊派のトーリー主義を奉じ、已にして保守、已にして改進、晩年に至るに及びては愛耳蘭自治案の爲めに其黨派の分裂を來たし、急進黨の中に算せられたり。

ソーリスベリー卿は一八五四年に於ては貴族主義を抱き執拗なるトーリー黨なりき。卿は今尚依然として保守主義なるも、其保守主義たる自由的方案を皷吹する保守主義なり。而して自由的方案は卿が初めて國會に入りし時には革命的となせし者なり。故に均しく保守主義なれど前後を較すれば大に同じからず。

チャムバーレン氏は自ら進歩急激黨を以て任じ、一時はその友サー・チャールス・ディルクと共に愛耳蘭自治案を贊成せしも、一八八六年その黨を脱し、今や保守內閣の殖民大臣となり、殖民の本國に對する關鎖を握り、毫も弛解動搖するところあらしめず。

現在上院自由黨の首領ローズベリー卿の生涯は自由主義の反對を以て始まれ

り。卿は一大族に屬し富貴の家に生れ、夫人はロスチャイルドの女なり。其用第はエディンバルに在る者、一倫敦のウェストエンドに在る者一、又英國の田園に於て美麗なる住宅を有し、其社會上の勢力は頗る大なる者あり。主人公としては客を心醉せしめ、談話家としては快活にして人情に深く、講演家としては卓越なり。叙論家としては完全なり。操舟の術に長じ、又其馬は曾つてデルビーの競馬に於て二回の勝を得たり。

世人往々卿に望を屬して以爲らく、英國の危難に際して每に能く之を指導すべき者は必ず此人ならんと。然るに不幸にして斯くの如き機會に遭遇せざりき。卿は天成の能辯家なりしと雖、下院に在つて討論家たるの修練を得る能はざりしは其不幸と謂ふべし。何となれば卿は甚だ早く祖父の爵を續ぎ、上院に於て政治の履歷を始めたればなり。而して夙に國家有用の材たらんことを欲せしより夙に力を市政に盡せり。倫敦の市外に屬する處は極めて偏狹の土地なりしが、其政務は舊式なる敎區會の權內に在り。一部分は輓近の制度たる首府土木局の掌る所なり。ローズベリー卿はランドルフ・チャルチルと力を併せて此制を改革し、代ふ

るに倫敦郡會を以てし、郡會は其撰擧區並に公衆に對して責任を負ふ者なり。

ディスティン・マッカージー氏の言に、余は謂ふ、地位、素養、嗜好、ローズベリー卿の如き人の公共心を證せんとせば、卿が市會の事務に身を投じたる以上の實例を擧ぐる能はずと。

一八九四年グラッドストン氏が自治案の爲めに辭職するや、女王はローズベリー卿に內閣組織の命を下せしが、當時自由黨の首領は互に妬忌すること甚しく、サー・ウィリアム・ヴェルノン・ハルコールトの如きは自らグラッドストン氏の後を承けて大宰相たるべき權利ありとせり。ローズベリー卿は竟に大命を拜したれども其大宰相の時期は極めて短かく、下院に於て供給の投票に敗れたるが、これは實際陸軍大臣の不信任を決議せしに同じく、其結果內閣の辭職となり、議院の解散となり、總撰擧となれり。而してグラッドストン氏の政略に對する反動は十分なる勢力を以て現出せり。

保守黨は大多數を以て政柄を得、ローズベリー卿は機に反對に立つて自由黨の首領たるに過ぎず。而して此地位に至ても亦永續するに至らず。卿の上院に於て最も瑰麗なる演說は此時に在り。然るに人民は卿が首領に意なき事を疑ひしに、果して未だ久しからず、卿が自由黨の首領を辭したりとの報世上に傳はれり。

或は謂ふ、ローズベリー卿はグラッドストン氏が土耳古アーメニア問題を以て民心を作興せし故智に倣ふを知らざりしなりと。或は謂ふ、卿はグラッドストン氏の南阿政略を以て英國の勢威を損ずる者となして之を襲用するを欲せざりしなりと。

今やローズベリー卿は帝國論者の中に伍し、サー・ウィリアム・ヴェルノン・ハルコールト、ジョン・モーレー及び其徒は反對黨よりリットル・インングランダルスと呼ばる。マッカージー氏は之を說明して曰く、リットル・インングランダルスの信ずる所は英國將來の美擧は英國の主權を認むる人民の中に平和、敎育、幸福を擴張するに在りと。

マッカージー氏は又ローズベリー卿の略傳を終るに臨み言へるあり。卿は敗れんが爲めに大宰相となり、辭するが爲めに自由黨の首領となりしが如しと雖、人民は皆深く望を卿に屬し、相謂つて曰く、卿が其抱負を展ぶべき時代はなほ遠しと。

以て卿が當時の政治家として如何なる地位に在りしかを見るに足る。

現在の英國政治家中最も有名なるをジョセフ・チャムバレーン氏となす。而してロー
ズベリー卿は政敵ありと雖私讎なく、チャムバレーン氏は公私共に少からざる敵
を有せり。氏の父はバーミングハムの製造家にして、此都府たる氏が少壯の時英
國中最も猛烈なる急進主義に屬し、而して市政の運用最も宜しきを得たるを以
て名あり。チャムバレーン氏が初めて名譽を博したる行爲はバーミングハムの市
政に關聯したる者にして、其國會議員に當撰せし際は進歩的急激黨に屬し、民政
論者としては攻擊の態度を取ることコブデン、ブライト諸人のなせし所に比す
れば一層甚しき者あり。左に錄する所は氏の下院最初の演說を聽きたる者の感
懷を寫せし者に係る。

公衆は氏の從來の政治演說より推斷して獰猛なる共和黨と視做し、以爲らく、
彼必ず粗野なる人物にして社會の風儀に順着せず、異樣なる服裝を以て現は
るべく、その下院に立ちて反對黨を睥睨し雷の如き大聲を揚げて其說を述ぶ
るバーミングハムのオーツン其人の如くならんと。已にして其吐露せる政治

上の意見は果して彼等の期待せしが如き嶮强なる民政論なりしも、其語調の
沈着なる、態度の自若たる、暴徒演說家の比にあらざりしかば、聽者は意外の想
をなし之が爲めに一驚を喫したり。

之より以來チャムバレーンは下院中雄辯の絕技を以て顯はれたり。氏が自治黨を
脫しグラッドストン氏の內閣を去るや、自治黨をして大に失望せしめ、尋て自治黨
に反對の旗幟を翻せしのみならず、保守黨並に非急進黨を以て自ら居れり、而し
て斯くの如き變化は僅々三ヶ月を出てず。グラッドストンのトーリーより急進に
移るや漸を以てせしなり。チャムバレーン氏の急進より保守に轉ずるや反掌の間
に在り。然れども何人もこれを以て自私の念に出てたりと言はず、又神學上所謂
「心の變化」卽ち正當の所信に出てたるにあらずと言はざるなり。